

- (2) 鐵道第一、二、三各大隊 十月二十二日御召列車試運轉時(時間割別記ノ通り)
- (3) 鐵道第四大隊 十月二十三日御召列車試運轉時(時間割別記ノ通り)
- (4) 離宮外廓部隊 市内各大隊ニ同シ
- (5) 御荷物通路部隊 十一月五日正午十二時ヨリ午後四時マデ

二、配置ノ程度及方法

- (1) 各部隊共警察官並ニ補助員全部ヲ配置圖ニ基キ配置スルモノトス
- (2) 鐵道沿線配置員ニシテ列車ヨリ望見シ得ザル地點ニ在ル場合ハ警察官及補助員ノ區別ナク其者ノ地位ヲ示ス爲メ諸地點ヨリ線路ニ直進シタル個所列車ヨリ容易ニ望見シ得ル個所ニ適當ノ方法ヲ以テ國旗ヲ揭示スルコト
- (3) 召集日時 鐵道各大隊ニ屬スルモノハ大隊長會議ニ於テ指示ノ通り
- (4) 御召列車試運轉時間

二十三日分(下り列車)	
二 川	午後二時九分三十秒
豐 橋	同 二時十七分
御 油	同 二時二十四分三十秒
蒲 郡	同 二時三十分
幸 田	同 二時四十三分
岡 崎	同 二時五十分三十秒
安 城	午後二時五十八分
刈 谷	同 三時五分
大 府	同 三時十分
大 高	同 三時十六分三十秒
熱 田	同 三時二十三分
名古屋着	同 三時三十分

二十三日分(下り列車)

名古屋發	午前十一時	一 宮	午前十一時二十分
枇杷島	同 十一時七分三十秒	木曾川	同 十一時二十五分三十秒
稻 澤	同 十一時十四分三十秒		

追テ市内各大隊ノ豫行演習ハ十一月四日ハ同月六日分十一月五日ハ同月七日分ノ部隊編成ニヨリ實施セラルベシ

警備豫行演習實施ニ關スル講評 (十月廿二日鐵道第一、二、三各大隊)

- 一、警察官及補助員ノ配置ニシテ線路ヨリ後退シ過ギル爲メニ線路ヲ見透シ得ザルオソレアリ如斯ハ今少シク前進セシメ線路ヨリ三間乃至五間位ノ箇所ニ配置スルヲ適當ト認ム
- 二、高所ニ於ケル後方配置ニシテ此ノ位置ヲ示ス爲メ國旗ノ掲揚アルニ不拘配置本人ガ線路ヨリ見透シ得ルモノアリ
- 三、踏切配置員ヲシテ奉拜人ニ對シ背面シ列車ニ直進シテ警備線ニ就キ居ルモノアリ注意ヲ要ス
- 四、幸田驛構内プラットフォームノ突端ニ補助員配置シアリホーム内ニハ補助員ヲ配置セサルヲ要ス
- 五、ガードノ上ノ配置員ハガードノ下ニ配置換ヘテ要ス
- 六、矢作川兩堤防ノ配置ヲ見ルニ東堤防線路北ニ巡查一、同南ニ補助員二、西堤防線路北ニ巡查一、同南ニ配置ナシ如斯配置ハ平均ヲ失シテ宜シカラス東堤防線路南配置ノ補助員二人ノ中一人ヲ取り西堤防線路南ニ配置換ヘテ要ス
- 七、驛前廣場ニ於ケル奉拜者ハ概シテ欄ニ接シ居レリ驛前奉拜者ハ欄ヨリ三、四間後退シ奉拜線ヲ作ラシムルヲ可トス
- 八、補助員ノ多數ハ御召列車ニ正面シ側面ノ方向又ハ背面ノ方向ヲ取ルモノ少シ補助員ハ警察官ト同様ノ方向又ハ姿勢ヲ探ルヲ必要トス

九補助員ハ右回轉又ハ左回轉ヲ爲サザル事ニ指示シアルニ不拘右回轉又ハ左回轉ヲ爲スモノアリテ區々ニ互ルノ状態ナルヲ以テ統一ヲ計ルノ必要上此際前ノ指示ヲ變更シテ八ニ依リ警察官ト同様右回轉又ハ左回轉ヲ爲スヲ要ス

一〇比較的重要ト認ムル踏切ニ警察官若クハ補助員一名ノミヲ踏切ノ一方ニ配置シテ如斯箇所ニハ踏切ノ兩側ニ配置ヲ必要ト認ム

一一線路ニ接近併行シ居ル道路ニ多數補助員ヲ配置シアルヲ見受テ併行道路ハ適當ノ箇所ニテ交通ヲ遮断シ奉拜人ヲ集合セシムレバ多數ヲ節約シ得ベシト認メラル研究ヲ要ス

一二右項ニ依リ節約シ得タル人員アラバ前記重要踏切ニシテ配置ヲ欲ク場所ニ配置スルヲ適當ト認ム

一三人家其他道路無キ田圃内ニ巡查ノ配置シアル處アリスルモノハ線路際面モ成ルベク踏切又ハガード下等ニ配置換ヘテ適當ト認ム

一四一般ニ右回轉又ハ左回轉ヲ爲ス時期早キニ失スルモノアリ又ハ遅キニ失スルモノアリテ區々ナルヲ見受テ右回轉又ハ左回轉ヲ爲ス時期ハ御石列車ノ最後端が通過スルト同時ニ行フコトニ整一ヲ要ス

一五右回轉又ハ左回轉ヲ爲ス場合ニ御石列車ニ向ツテ行フモノ多數アリタリ如斯ハ警衛第一主義ヲ没却スルモノナリ回轉ハ如何ナル場合モ奉拜者側ニ向ツテ行フヲ要ス

一六一ヶ所ノ踏切ニ警察官ト補助員トヲ配置シタル場合ニ双方ヲ一方ニ配置シタルモノアリ如斯ハ線路ノ兩側ニ分テ配置スルヲ要ス

一七踏切配置員ニシテ道路ノ中間ニ位置スル爲メ奉拜者ヲ全視シ得ザル嫌アリ如斯配置ハ奉拜者ヲ全視シ得ベク道路ノ端ニ後退セシムルヲ要ス

一八一般配置員ノ着眼點ヲ見ルニ多クハ低キニ失セリ配置員ノ着眼點ハ警衛ノ大局ニ合致スルニ適當ナル程度ヲ以テスルヲ忘レサルヲ要ス



豫行演習(其の一)離宮正門前



豫行演習(其の二)新柳町



豫行演習(其の三)驛前廣場

一九補助員ニシテ自己ノ位置附近ニ自轉車外套辨當箱等ヲ設置シ居ルモノ多數アリ不依裁ニ付如斯事ナキ様注意ヲ要ス

二〇踏切ニ於ケル奉拜者ニシテ閉閉器ニ直接セルモノアリ少ク共九尺ノ距離ニ後退セシムルヲ要ス

### 第十一節 行還幸御發着割

十月三十一日御發着割本縣宛左の通り通達せられたり。御發着割時間は大禮記に記述せる爲め茲に省略せり。

内務省訓第一四五三號

愛知縣知事

天皇皇后兩陛下來ル十一月六日東京御發着割其ノ他へ行幸啓ノ儀仰出サル御發着割別紙ノ通ニ有之候條警衛警備向並衛生上周到ノ注意ヲ加へ萬遺漏ナキヲ期スベシ

右訓令ス

昭和三年十月卅一日 内務大臣 望月 圭介

### 第十二節 警衛補助員配置

本縣に於ける警衛補助員は公設消防組員中優秀なるものを選抜して採用し其の使用範圍は鐵道沿線停車場並名古屋市内御道筋後方の交通遮斷線に配置せしめ其の配置割合は巡查一名に對し二名を原則

第三篇 警務部 第三章 警衛計畫

補助員の種別人員表

種別	直		接		計
	鐵道沿線	停車場	途上	衛	
消防組員	八三二	三八七	八九二		二、一〇一

### 第十三節 電話施設

#### 第一款 警察電話施設

御大禮警衛に關し縣内の警察電話線路手當は十月一日より堀技手以下の技術員にて分擔巡廻に従事し左記の通り修理手當を爲したり。

名古屋彌富間	樹枝接觸伐採	一ヶ所	破損碍子取替	六個
名古屋一宮木曾川間	樹枝接觸伐採	三ヶ所	不良碍子取替	三個
名古屋瀬戸間	樹枝接觸伐採	二ヶ所	不良碍子取替	五個

名古屋勝川坂下間	樹枝接觸伐採	八ヶ所	支線修理	三ヶ所
	破損碍子取替	二八個		
名古屋半田横須賀間	樹枝接觸伐採	三ヶ所	支線修理	一ヶ所
	傾斜柱修理	一ヶ所	遞信局柱ニ接觸修理	五ヶ所
横須賀大府間	樹枝接觸伐採	二ヶ所	遞信局柱ニ接觸修理	二ヶ所
刈谷安城間	樹枝接觸伐採	二ヶ所	傾斜柱修理	五ヶ所
	破損碍子取替	一〇個		
岡崎安城間	遞信局柱ニ接觸修理	二ヶ所		
名古屋岡崎間	腕木傾斜修理	一ヶ所	破損碍子取替	一ヶ所
岡崎學母間	樹枝接觸伐採	二ヶ所	支線修理	二ヶ所
	腕木取替	三本	破損碍子取替	一三個

足助岡崎間			
樹枝接觸伐採	八ヶ所	支線修理	一ヶ所
腕木取替	一本	破損碍子取替	八個
岡崎本宿間			
樹枝接觸伐採	一ヶ所	腕木取替	二本
破損碍子取替	五個		
岡崎幸田間			
樹枝接觸伐採	二ヶ所	破損碍子取替	三個
岡崎大濱間			
樹枝接觸伐採	三ヶ所	腕木取替	二本
破損碍子取替	二五個		
蒲郡御油間			
樹枝接觸伐採	四ヶ所	破損碍子取替	三個
豊橋御油間			
支線修理	一ヶ所		
豊橋二川間			
樹枝接觸伐採	三〇ヶ所	破損碍子取替	一二個
豊橋田原間			

樹枝接觸伐採

一二ヶ所

破損碍子取替

八個

### 第二款 廳府縣連絡警察電話施設

#### 第一項 廳府縣連絡警察電話事務所打合せ

内務省警保局に於ては廳府縣連絡警察電話を架設し御大禮警衛に備へんと計畫樹立され五月二十八日より二日間本省に於て關係府縣の警察電話事務主任官打合會を開催せられ本縣よりは伊藤警部堀技手の兩名出席せり指示事項其他左の如し。

#### 廳府縣連絡警察電話ニ關スル指示事項

- 一、經費ニ關スル事項
- 一、工事ニ關スル事項

#### 廳府縣連絡警察電話ニ關スル協議事項

- 一、主要ナル機械類及電線碍子等ハ統一ヲ要スルモノナルヲ以テ便宜當省ニ於テ購入ノ幹旋ヲ爲シ検査ノ上各地方ニ輸送セシムルヲ便ナリト認ム運搬費其ノ他ノ關係モ可有之ニ對スル意見如何
- 一、機械類ハ本省ニテ購入ノ幹旋ス
- 一、其他ノ材料ハ各府縣ニテ不便ノ向ハ本省ニテ求ム

### 第二項 廳府縣連絡警察電話架設工事 (國費補給 縣費豫算)

#### 一、静岡縣界より三重縣界に至る線

五月下旬内務省に於ける廳府縣連絡警察電話架設事務打合せの協議に基き本電話を御大禮警備に使用し得る様架設工事を九月末迄に完成せしむる計畫を樹て六月八日架設所豫算を編成し本省に要求補給金の令達を仰ぐと共に一面架設工事の準備を爲し六月下旬工事に着手し九月中旬完成せり。此間從事日數八十五使用人員臨時工夫千七百人を要したり。  
補給金令達額金參萬七千四百六拾參圓昭和三年七月十二日

#### 二、愛知縣廳より岐阜縣に至る線 (國費大禮費)

愛知縣廳より岐阜縣に通ずる連絡電話は大禮施設費豫算壹萬六千八百八拾貳圓を以て施行せられ警務課勤務技手堀喜久雄及磯部一郎は本件警察電話架設工事の設計監督事務を囑託せられ六月一日工事に着手し十月二十日完了せり。

### 第三款 御大禮當時に於ける電話架設工事

#### 第一項 廣小路通警察電話線路改修

廣小路通及本町は行幸御道筋と決定に付市に於て御道筋の鋪裝工事を爲すこととなりたるを以て廣小路通架設の警察電話線を改修架空ケーブルに変更するにこゝし十月十四日着手十一月三日工事を完了せり。

#### 第二項 警衛本部電話短期特急架設

十月下旬警衛本部を名古屋市中區南外堀町大成尋常高等小學校に設置することに決定警衛事務の敏活を圖る爲め公衆電話の短期特急架設を稟請し(東六〇壹四番十一月四日より通話を開始せり。

### 第三項 警察電話臨時架設

七月下旬騎馬警察官の乗馬練習開始に伴ひ元騎兵隊跡に臨時警察官詰所を設置し警察部より一回線架設す。十月下旬舊笹島警察署廳舎に特別高等課出張所を設置し警察部より一回線笹島警察署より一回線を架設す。十月二十六日警察本部名古屋市中區南外堀町大成尋常高等小學校へ警察部より二回線架設す。十一月四日大臣宿舎に指定せし名古屋市中區榮町千秋樓へ警察部より一回線架設す。沿道警衛部隊本部並に配置場所及同宿舎に架設を爲せり。

#### (イ) 縣 界

一、二川町駐在所より静岡縣界(二川町谷川)警察官配置場所

一、北方村大日駐在所より岐阜縣界北方村北方警察官配置場所

(ロ) 鐵道沿道

一、安城警察署より安城驛構内警察官配置場所

一、西枇杷島警察署より枇杷島驛構内警察官配置場所

(ハ) 市内沿道及行在所附近

一、警察部より納屋橋東詰南桑名町角鐵砲町角東本重町角宮町角研屋町角本町御門前師團廓内司令部東側離宮内東練兵場及北練兵場内警察官配置場所長畝町水野恒吉方離宮廓内外警衛員詰所

(ニ) 市内御荷物道路

一、警察部より明道橋交叉點警察官配置場所

(ホ) 車輛配給所

一、警察部保安課より名古屋市中區新榮町四丁目名古屋自動車組合事務所内保安課車輛係出張所

一、警察部より元工兵隊跡車輛配給係出張所

(ヘ) 消防分遣所

一、警察部より師團廓内騎兵第三聯隊跡元衛兵所内消防分遣所

(ト) 警衛部隊本部 (兼宿舎)

一、岡崎市駐在所より同地寶友座

一、熱田東御門派出所より熱田新宮坂町圓通寺

一、柳橋派出所より花車町光明院

一、新柳町派出所より新柳町東洋紡績事務所跡

一、吳服町派出所より大成尋常高等小學校

一、東枇杷島町派出所より枇杷島町清音寺

(チ) 警察官宿舎

一、寶飯郡御津村佐脇駐在所より御津村南部小學校

一、大府町部長派出所より大府商工會事務所

一、大高町北町駐在所より大高町明忠院

一、一宮市仲ノ町派出所より一宮市公會堂

第四款 電話技術員配置

御警衛當日電話技手工手工夫別表の通配置せり。

驛名	十一月六日	十一月七日	十一月二十六日	十一月二十七日
二川(縣界)	—	—	—	—
豊橋	—	—	—	—
御油	—	—	—	—

木	一	批	本	明	大	師	本	研	宮	本	鐵	桑	納	大	安	岡
會		杷		道	成	團	町	屋		重	砲	名	屋	府	城	崎
川	宮	島	部	場	校	前	門	町	町	町	町	町	橋	府	城	崎

第十四節 特別奉拜場所

特別拜觀場所につき名古屋市内御通路に當る各戸にして奉拜設備許可方願出づるもの多數あり夫々  
證議の結果差許せり。

笹島署管内

- |                              |      |
|------------------------------|------|
| 出願者住所氏名                      | 出願場所 |
| 一、市内中區笹島町三ノ一一<br>丸新運送株式會社事務所 | 同上   |
| 二、市内中區笹島町一六番地<br>橋本仙太郎       | 同上   |
| 三、市内中區笹島町三ノ一<br>加藤五三郎        | 同上   |
| 四、市内中區笹島町三ノ九<br>伊藤興會松        | 同上   |
| 五、市内中區笹島町四ノ六<br>松川松次郎        | 同上   |
| 六、市内中區笹島町四ノ六<br>箕浦銅次郎        | 同上   |
| 七、市内中區笹島町二ノ一五<br>土井吉次郎       | 同上   |

新榮署管内

- |                               |                                 |
|-------------------------------|---------------------------------|
| 出願者住所氏名                       | 出願場所                            |
| 八、市内中區新柳町二ノ八<br>村瀬藤三郎         | 同上                              |
| 一、株式會社八勝俱樂部                   | 同上家屋ノ軒下並附屬空地                    |
| 二、市内中區新柳町<br>横井清次郎、犬岡正        | 廣小路通り空地四ヶ所                      |
| 三、名古屋逓信局長                     | 市内中區桶屋町五丁目名古屋中央<br>電話局新築工事場ノ一部  |
| 四、市内中區南桑名町一ノ六<br>山口銀行支店長 川上貫一 | 同所及西區本町四ノ二十二本町通<br>り杉之町東側東南角    |
| 五、名古屋市長 岩勇夫                   | 中區新柳町二丁目、廣小路通り南<br>側三ツ蔵町角ノ空地ノ一部 |

第四章 警衛實施

第一節 熱田神宮參拜



名古屋市内御警衛部隊に於ては、木下警務部長以下小隊長以上一同、十一月一日午前八日禮装の上熱田神宮に参拜し、左の如き祝詞を奏し御警衛の大任を無事遂行し得ん事を祈念したり。

掛巻母長 熱田神宮乃大前關恐恐美母自左久愛知縣警察部長從五位木下義介手始來警察署消防署三十三警務課高等課特別高等課保安課刑事課衛生課工場課建築課調停課警察總官所乃警察官警察職員總代乃人々今日乃生日乃足日大前關參出比之祈奉且久現津御神皇仰奉皇天皇尊今年十一月十日天津日嗣乃高御座大坐坐志比食國天乃下知食大御禮行比給比治米給米登京都乃大宮行幸給比又東京還幸自世給市御途上此乃名古屋乃離宮習志鳳堂手駐米在給者其放其乃御道筋乃間御警衛乃上爾諸々乃枉事無久夜乃守日乃守日守幸給比各母各母其乃任務通事無久這事無久仕奉且志來給比志美無久平穩事終在給爾恐恐美母乞祈奉且久登白願

而して御警衛の大任を完うしたる御警衛部隊に於ては、十一月二十八日午前九時一同熱田神宮に参拜し神明の加護により無事重任を果せる事を報告せり。

### 第二節 警衛警備警察官全員召集

十一月五日午前八時市内の御警衛を奉仕する三個大隊の警察官、御荷物部隊及離宮外廓部隊一千八百餘名、同補助員の消防隊千二百五十名を騎兵第三聯隊跡廣場に召集し、一同東方に向つて整列するや末廣警察練習所長の合圖により嚴かに皇居の方を遙拜し君ヶ代を合唱し、終つて小幡愛知縣知事登壇敬虔なる態度高聲にて「今まではすべて計畫に屬してゐたが只今からは實地に臨むと同一であるから各自その心掛で緊張を加へ大任を全うするやう努力されたい」旨指示し、次に木下部長御警衛に關する注意を細説

し一同 陛下萬歳三唱、それより知事部長の服裝點檢あり、各大隊は別々の場所に整列して打合せを爲し各自本部に引上ぐ。

御還幸を明日に控へし十一月二十五日午前十時、前同様市内御警衛部隊其他を元騎兵第三聯隊跡へ召集し、前回の順序に依り長官訓示あり、警察部長よりも行幸時の實績に鑑み御警衛につき詳細注意する處ありたり。尙二十六日還幸時御道筋御警衛の實狀を考慮し、急遽各大隊長宛同日左の如き事項を注意する處ありたり。

御南簿ノ先驅ガ目前ニ迫リタルトキ學校又ハ其他ノ團體ノ指揮者ガ氣ヲ付ケ「禮」ノ號令ヲ掛クル爲メ先驅ノ馬ガ驚キ御列ヲ亂スノ虞アルヲ以テ本日ハ前驅警部ヨリ約三十米突前方ニ於テ號令ヲカケ先驅ノ目前ニオイテハ號令ヲ掛ケサルコト。

### 第三節 警衛本部開設

昭和三年十一月五日御警衛本部は事務遂行上臨時左の場所に左記期間開設する事となり、夫々關係官公署並に部内各大隊長、廳中各係長に通達せり。因に臨時公衆電話は東六〇一四番架設せられたり。

一場 所 東區南外堀町九丁目大成尋常高等小學校

二日 時 自十一月五日午後五時 至同七日警衛終了迄

自十一月二十五日午後五時 至同二十七日警衛終了迄





課署別	區分	現員	配當		備考
			十一月六日、二十六日	十一月七日、二十七日	
警務課	高等課	三	警衛本部(内一名ハ七日御召列車警衛)	警衛本部(内二名ハ七日御召列車警衛)	二十七日御召列車警衛上田課長 六日同上伊藤警部 七日同上中村警部
特高等課	保安課	二	視察警戒	同	前驅ハ安中警部
保事課	衛生課	二	車輛係(内一名ハ前驅)	同	
刑生課	生事課	一	秩父宮殿下警衛	同	
工務課	建築課	一	秩父宮殿下警衛	同	
調停課	停車場課	一	秩父宮殿下警衛	同	
練習所	習場	一	久邇宮殿下警衛	伏見宮殿下警衛	六日七日ハ大臣警備並關 二十六日二十七日ハ皇后 爲メ同上皇太后御後驅
名古屋水	上	一	御召列車警衛	御召列車警衛	
新栄	上	一	御召列車警衛	御召列車警衛	
江川	上	一	御召列車警衛	御召列車警衛	
征島	上	一	御召列車警衛	御召列車警衛	
門前	上	一	御召列車警衛	御召列車警衛	
熱田	上	一	御召列車警衛	御召列車警衛	
築地	上	一	御召列車警衛	御召列車警衛	
勝川	上	一	御召列車警衛	御召列車警衛	

課署別	區分	現員	十一月六日、二十六日	十一月七日、二十七日	備考
瀬戸	枇杷	一	市内第一大隊第一中隊長	同	
西島	枇杷	一	市内第二大隊副官	鐵道第四大隊第二中隊長	
布衣	枇杷	一	離宮外廓部隊長 (名古屋驛玉屋町側衛)	同	
犬山	枇杷	一	市内第二大隊第三中隊長	同	
一宮	枇杷	一	市内第一大隊副官	鐵道第四大隊第三中隊長	
稻澤	枇杷	一	市内第三大隊第二中隊長	同	
津島	枇杷	一	市内第三大隊第一中隊長	同	
彌富	枇杷	一	鐵道第三大隊第一中隊長	市内第一大隊副官	
半田	枇杷	一	鐵道第二大隊第三中隊長	市内第三大隊副官	
横須賀	枇杷	一	木挽町特別交通路配置	同	廿六、廿七日ハ皇后 同上天皇御後驅
安城	枇杷	一	鐵道第二大隊第二中隊長	同	
大濱	枇杷	一	市内第二大隊第二中隊長	同	
西尾	枇杷	一	市内第一大隊第二中隊長	同	
岡崎	枇杷	一	後驅	同	
學母	枇杷	一	市内第一大隊第四中隊長	同	
足助	枇杷	一	市内第二大隊第四中隊長	同	
田口	枇杷	一	御荷物通路部隊長	同	
新城	枇杷	一	總理大臣警備	同	
御油	枇杷	一	鐵道第一大隊第二中隊長	外堀町東方交通遮斷線	廿七日ハ皇后御後驅成ノ爲メ 鐵道第一大隊長ノ補充トナス
豐橋	枇杷	一	鐵道第一大隊第一中隊長	外堀町西方交通遮斷線	

Table with 10 columns: 門前, 徒島, 江川, 錦屋, 新榮, 名古屋水上, 練習所, 調停課, 工場課, 建築課. Rows list various police units and their personnel counts.

Summary table for '警部補、巡查部長、巡查' with columns: 富田, 富岡, 合計, 現員, 警部補, 巡查部長, 巡查, 柳橋北方交通遮断線, 同.

警部補、巡查部長、巡查

Main summary table for '警部補、巡查部長、巡查' with columns: 衛生課, 刑事課, 保安課, 特高課, 高等課, 警務課, 課別分, 現員, 各種配當別, 計小, 計合.



備考	計	富	田	豊	御	新	田
		岡	原	橋	油	城	口
警部補	警部補	巡警部	巡警部	巡警部	巡警部	巡警部	巡警部
欠員(門前)一名除ク	長	長	長	長	長	長	長
定員外特別診考任用者六十五名ヲ含ム							
定員外ニ請願調査二七名ヲ含ム							
京都府特高關係事務應援員三名ヲ除ク(岡前二、笹島一)							
過員調査四名ヲ含ム							

第三款 十一月廿六日直接警衛間接警衛配置要員

接	間	警衛	警衛						直		配置區分	官職別					
			豫	皇	前	御	離	離	交通	市			自	沿	汽	自	
寫	警	精	車	視	計	豫	皇	前	御	離	離	交通	市	自	沿	汽	自
眞	衛	神	車	察	計	族	族	驅	荷	宮	宮	通	三	十	線	車	靜
班	本	病	輛	警	計	貴	貴	後	物	內	外	遮	一	一	停	場	岡
	部	者	察	戒	備	賓	賓	衛	路	配	配	斷	町	五	配	八	縣
	察	視	輛	戒	備	係	係	係	配	置	置	警	間	筋	置	哩	界
	部	察	輛	戒	備	係	係	係	置	置	置	戒	筋	筋	置	八	至
	部	察	輛	戒	備	係	係	係	置	置	置	戒	筋	筋	置	八	古
	部	察	輛	戒	備	係	係	係	置	置	置	戒	筋	筋	置	八	屋
	部	察	輛	戒	備	係	係	係	置	置	置	戒	筋	筋	置	八	屋
	部	察	輛	戒	備	係	係	係	置	置	置	戒	筋	筋	置	八	屋
	部	察	輛	戒	備	係	係	係	置	置	置	戒	筋	筋	置	八	屋
	部	察	輛	戒	備	係	係	係	置	置	置	戒	筋	筋	置	八	屋
	部	察	輛	戒	備	係	係	係	置	置	置	戒	筋	筋	置	八	屋

衛 警 接 間							衛 警 接										
視察警察	車輛	精神病者	警衛本部	寫真班	オートバイ	警察署留守	刑事	衛事	勤務不能者	交通遮斷線	離宮外廓	離宮内	御荷物通路	前驅後衛	皇族貴賓	豫備	
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二	四	三	三	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一〇	三	二	四	六	四	二	二	七	一	二	一	一	一	一	一	一	一
一五	一	二	四	五	七	一	一	二	一	二	一	一	一	一	一	一	一
二九七	二	六	九	三	二五	七九	九二	一八	一	三	二	二	三	五	一	一	一
三二七	六	六	三〇	一六	二五	一〇〇	一二七	二〇	一	四	四	二	四	二	九	一	一
七四										四	一						

衛 警						
オートバイ	警察留守	衛事	刑事	勤務不能者	合計	合計
一	一	一	一	一	一	一
一	一	二	一	一	一	一
四	一	二	一	一	一	一
一三	四	七	二	四	一	一
二八	五	一	一	二	一	一
二一〇	五九	一八	九	二	一	一
二五	七九	一	一	一	一	一
二五	一〇〇	三	一	一	一	一
一三五						

参考 六日、七日ノ兩日ハ車輛係ニ巡查十名交通係ニ巡查五〇名ノ配置アリタリ  
廿六日、廿七日ハ何レモ警衛部隊ニ編入セラル

第四款 十一月廿六日直接警衛間接警衛配置要員

配置区分	官職別	警視	警部	警部補	巡查部長	巡查	計	補助員
自名古屋至岐阜縣界 汽車沿線一四哩三 沿線停車場配置 自名古屋至離宮正門 市內御道筋三丁五間	警視	一	一	一	一	一	一	一
	警部	一	一	一	一	一	一	一
	警部補	一	一	一	一	一	一	一
	巡查部長	一	一	一	一	一	一	一
	巡查	一	一	一	一	一	一	一
	計	一	一	一	一	一	一	一
	補助員	一	一	一	一	一	一	一



合計	九二
合計	四一四
合計	四八
合計	一三七
合計	二八六
合計	二、一〇六
合計	二、五八六
合計	七二〇

前區後衛係要員ハ警視警部現員配當表通り(四日間共其數ニ異動アルモ原則トシテノ數字ヲ示ス)

第五款 鐵道沿線配置要員 (其ノ一) (自靜岡縣界至名古屋驛)

大隊名	分擔區域	警視	警部	警部補	部巡長	巡查	計	補助員
第一大隊	自靜岡縣界至蒲郡驛	一	一	二	五	一〇	六三	八一
第二大隊	自蒲郡驛至大府驛	一	一	三	四	一六	八二	一〇六
第三大隊	自大府驛至名古屋驛	一	一	三	九	二〇	一四二	一七五
計		三	三	八	一八	四六	二八七	三六二
								八五一

同 上 (其ノ二) (自名古屋驛至岐阜縣界)

大隊名	分擔區域	警視	警部	警部補	部巡長	巡查	計	補助員
第一大隊	自名古屋驛構內至納屋橋	一	一	二	五	一〇	三三	四〇
第二大隊	自納屋橋至丁十九間	一	一	二	四	一〇	二六	三三
第三大隊	自丁十九間至榮町通	一	一	二	四	一〇	二六	三三
第四大隊	自榮町通至離宮正門	一	一	二	四	一〇	二六	三三
計		四	四	八	一八	四六	一三三	一六六

第六款 市内御道筋配置要員 (△ハ六日廿七日 ○ハ七日廿六日)

大隊名	分擔區域	警視	警部	警部補	部巡長	巡查	計	補助員
第一大隊	自名古屋驛構內至納屋橋	一	一	二	五	一〇	三三	四〇
第二大隊	自納屋橋至榮町通	一	一	二	四	一〇	二六	三三
第三大隊	自榮町通至離宮正門	一	一	二	四	一〇	二六	三三
計		四	四	八	一八	四六	一三三	一六六

### 第七款 離宮外廓配置要員

課署名 配置員	警部	警部補	巡查部長	巡查	計	備考
新江鍋	一	一	一	一	一〇	
川屋	一	一	一	一	四	
計	二	二	二	二	一〇	警部一八市内第三大隊第三中隊長ト兼務
計	二〇	四	六	四	三四	一三

### 第八款 離宮内配置要員

課署名 配置員	警部補	巡查	消防曹長	計	備考
警新中	二	二	一	二	
消防	二	二	一	二	
計	二	二	一	二	内一名ハ私服トス
計	五	一	二	二	

### 第九款 御荷物通路警備配置要員

署名 配置員	警部	警部補	巡查部長	巡查	計	補助員
田江	一	一	一	一	一	一七
江	一	一	一	一	一	一三
田	一	一	一	一	一	一〇
計	三	三	三	三	一〇	二二
管	五	一	三	一	一	一
計	三	五	一	一	一〇	二二
計	四	二	四	二	一〇	二二

### 第十款 前驅後衛配置 〇△六六日、七七日

區別	警視	警部	計
前驅	〇△	〇△	二
後衛	〇△	〇△	二
計	二	二	四
警視	一〇	六	一六
警部	四	二	六
計	二	七	九
計	一七	二二	三九
計	二七	四二	六九

第十一款 皇族大臣及貴顯警衛警備係要員

種別	警部	警部補	巡查	計
親王御總代宮殿下				二
總裁宮殿下				二
御總代宮殿下				二
總理大臣	一			二
內務大臣	一			二
鐵道大臣	一			二
內大臣	一			二
宮內大臣	一			二
樞密院議長	一			二
計	四	五	八	一六

本表中六日廿七日總理大臣警部一八警衛本部付警部補、變更ス

第十二款 高等警察係(觀察)要員

課署名	官職別	警視	警部	警部補	巡查部長	巡查	計
特高課		一				七	二二
刑事課			四			六	二二
新榮課				四		四	二四
鍋屋						三	二四
江川						〇	二四
笹島						三	二四
門前						七	二八
熱田						二	二二
名古屋						二	二二
勝地						四	二六
瀬川						四	二四
西島						四	二四
布島						三	二四
犬山						三	二四
栗山						三	二四
一宮						八	二八
稻澤						二	二二
計							二二

鍋新保	課署名
屋榮安	官職別
	警部補
一   一	巡查部長
二	巡查
六 五   一	計
六 六 三	

第十四款 精神病者視察係要員

江熱門笹鍋新保	課署名
合	官職別
計 川 田 前 島 屋 榮 安	警視部
-             -	警部補
二             二	巡查
三             三	計
六             六	

第十三款 車輛係要員

富田豊御新田足學岡西大安横半彌津	課署名
合	官職別
計 岡 原 橋 油 城 口 助 母 崎 尾 濱 城 賀 田 富 島	須
-	
四	
一 〇     -	
一 五	
二 九 七   一 二 三 五 二 一 二 二 七 三 三 三 三 二 三 二 四	
三 二 七   一 二 三 五 二 一 二 二 七 三 三 三 三 二 四	

第十六款

オートバイ(傳令)配置

課署名	官職別	警部	警部補	巡查部長	巡查	計
高 新 鍋 江 笹	等 榮 屋 川 島	二         二	六   -   -   -   二	五         五	三   -   -     -	一 六 二 二 一 二 九

第十五款

通信係(寫眞班)要員

合 計	岡 御 豐	崎 油 橋
二	二	二
六 二 二 二 二	六 二 二 二 二	六 六 二 二 二

江 笹 門 熱 築 勝 瀨 西 布 葉 一 稻 津 彌 半 横 安 大 西	川 島 前 田 地 川 戶 島 袋 栗 宮 澤 島 富 田 賀 城 濱 尾
批 杷	
須	

二
一 一 二 二 三 一 二 一 三 一 一 二 一 一 一 七 五 四 六
一 一 二 二 三 一 二 一 三 一 一 二 一 一 一 七 五 四 六

所屬部隊名	オートバイ配置數	運轉手(巡查)
警衛本部	三	三
市内第一大隊	三	三
市内第二大隊	三	三
市内第三大隊	三	三
鐵道第一大隊	三	三
鐵道第二大隊	三	三
鐵道第三大隊	三	三
御荷物通路隊	一	一
計	二五	二五

第十七款 衛生係要員

警部	一
警部補	二
計	三

第十八款 刑事係要員

課署名	官職別	警部	警部補	巡查部長	巡查	計
刑新鍋江笹門熱築勝瀬西布一津半横安	事榮屋川島前田地川戸島袋宮島田賀城	二	一	九	二〇	三三
	批杷					
	須					
計						



新	御	豊	田	富	合
城	油	橋	原	岡	
一	一	一		一	計
四					
七	七	七	七	七	計
九	三	三	三	三	
〇	〇	〇	〇	〇	計

### 第二十款 警衛本部配置要員

係 別	警 部	警 部 補	巡 査 部 長	巡 査 書 記	計
文 書 通 信	一	二			三
庶 務					
電 話					
警 衛 備 員					
合 計	三	二	四	一	一〇

備考 警衛豫備員ハ警衛當日市内第二大隊へ交通遮断取締應援トシテ全部出勤セリ(内警部補一名)  
ハ廿七日總理大臣警備ニ就カシム

### 第五節 直接警衛配置要領

#### 第一款 警衛配置

- (1) 行幸第一日十一月六日及還幸第二日十一月廿七日(の)兩日は静岡縣界より名古屋驛に至る鐵道沿線五十一哩八及市内御道筋(名古屋驛川廣小路通りを榮町玉屋町角を左折本町通りを離宮に至る)名古屋驛より離宮に至る三十一丁五間
- (2) 行幸第二日十一月七日及還幸第一日十一月廿六日(日)は名古屋驛より岐阜縣界に至る鐵道沿線十四哩三及市内御道筋名古屋離宮より名古屋驛に至る三十一町五間にして直接警衛組織として、
  - 一 鐵道沿線
  - 二 停車場
  - 三 市内御道筋
  - 四 離宮廓内
  - 五 離宮廓外
  - 六 御荷物通路
  - 七 前驅後衛
  - 八 皇族貴顯警衛警備

に分ち之れに要する總人員は警視以下一八七六名なり。  
從來本縣に於ける警衛は警察署所轄を本位とし之れに他より應援せしむる場合ミ全然警察署所轄觀念を離れ部隊を組織して事に當らしむる場合の二方法を採用し來れるも小規模の計畫即ち縣内警察官の全部を動員するが如き場合にありては所轄本位を離れ部隊組織に依り之れに當らしむる方法遂に優れるものあるを認め今回の警衛は如上の方法を折衷し警察所轄を基本とし之れに他より應援せしめたる計畫なり。

十一月六日鐵道沿線(白靜岡縣界)市内御道筋配置要員  
廿七日停車場(名古屋驛廓外)市内御道筋配置要員  
第三篇 警務部 第四章 警衛實施 七〇七



鐵道沿線	里	警視	警部	警部補	巡查部長	巡查	計	備	考
停車場	五一哩八	一	三	二	四	四	二〇九	一哩平均五人九分	
市内御道筋	十一ヶ所	三	六	四	五	元	一〇三	一ヶ所平均五人	
豫備	三十一町五間	一	五	三	一	一、五〇	一、四三	各側一人受持間數二間三尺間隔	
合計	一	六	三	六	三六	一、四四	一、九二	御召列車、薄簿警衛、靜岡岐阜縣界電話係其他	

十一月廿七日 鐵道沿線(自靜岡縣界)配置要員ニシテ

十一月廿六日 市内御道筋並 鐵道沿線(名古屋縣)配置トシテ轉換スヘキ要員

轉換要員	警視	警部	警部補	巡查部長	巡查	計
	三	八	一八	四六	二八七	三六二

十一月廿七日 鐵道沿線(自名古屋縣界)市内御道筋配置要員

里	警視	警部	警部補	巡查部長	巡查	計	備	考
	六	三	六	三六	一、四四	一、九二		

鐵道沿線	一四哩三	一	二	三	三	二六	一哩平均八名強
停車場	四ヶ所	一	二	一	一	三	一ヶ所平均五名
市内御道筋	三十一丁五間	三	五	三	一三五	一、三〇	各側一人受持間數二間一尺間隔
豫備	一	二	一	一	一七	二四	警視二名ハ監察官
合計	一	六	三	六	三六	一、九二	巡查一七名ハ前日ノ通り

◎本表中豫備警部五名ハ二十六日、二十七日、皇后兩簿編成ノ爲メ前後驅テ勤ム

第二款 鐵道沿線配置要領

第一項 鐵道沿線

行幸第一日十一月六日還幸第二日十一月二十七日に於ける鐵道沿線(自靜岡縣界至名古屋縣界)四六哩四に配置する  
 警察官の總員は三〇六名にして配置密度は一哩に付平均五名強にして靜岡縣界より大府驛に至る區間  
 三六哩(各停車場構内を除く)は一哩に付四名大府驛より名古屋驛構外に至る各停車場構内を除く一〇  
 哩二は一哩に付一五名強

行幸第二日十一月七日還幸第一日十一月二十六日に於ける鐵道沿線(自名古屋縣界至岐阜縣界)一二哩七に配置する  
 警察官の總員は一一六名にして配置密度は一哩八名強にして名古屋驛構外より庄内川に至る區間一哩

三は一哩に付四〇名庄内川より岐阜縣界に至る區間一哩(各停車場構内を除く)一哩に付六名強なり

### 第一項 停車場

行幸第一日十一月六日運幸第二日十一月二十七日に於ける鐵道沿線の停車場配置は名古屋驛五五名  
名古屋驛以外十一ヶ所に五六名一ヶ所平均五名  
行幸第二日十一月七日運幸第一日十一月二十六日に於ける鐵道沿線停車場配置は名古屋驛五五名  
名古屋驛以外四ヶ所に二十一名一ヶ所平均五名なり。

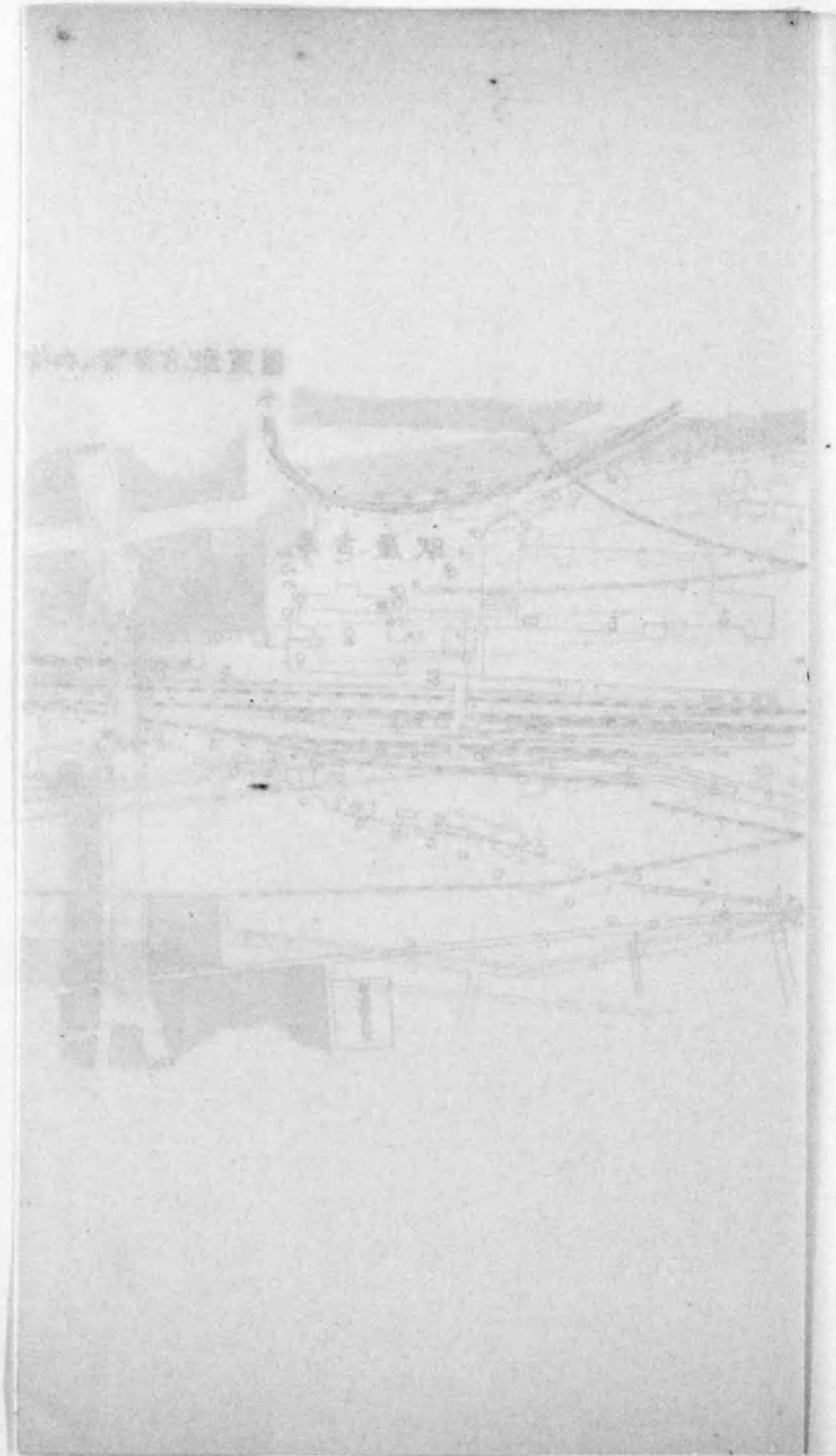
### 第三項 責任區域

如上の配置静岡縣界より名古屋驛構外に至る五一哩八は之れを三ヶ大隊に分ち、第一大隊は静岡縣界より蒲郡驛構内に至る一七哩二八を區域とし警視以下八一名を配置せり。此の大隊區域に於ける停車場は四ヶ所にして監督者以下二〇名配置し其の一ヶ所平均配置數五名なり。右停車場構内を除く鐵道沿線は延長一五哩二七にして配當人員六一名一哩當り四名配置なり。第二大隊は蒲郡驛構外より大府驛構内に至る二二哩三を區域とし之れに警視以下一〇六名を配置し、此の大隊區域に於ける停車場は五ヶ所にして監督者以下二三名を配置し其の一ヶ所配置數四名強なり。右停車場構内を除きたる鐵道沿線は延長二〇哩九三にして配置人員八三名一哩當り四名配置とす。第三大隊は大府驛構外より名古屋驛構外に至る

一二哩二を區域とし之れに警視以下一七五名を配置し、此の大隊區域に於ける停車場は二ヶ所にして監督者以下一三名を配置し其の一ヶ所平均配置數六名強なり。右停車場を除く鐵道沿線は延長一〇哩二にして配置人員一六二名一哩當り一六名強なり。第四大隊として名古屋驛構外より岐阜縣界に至る一四哩三を區域し之れに警視以下一三七名を配置し、此の大隊區域に於ける停車場は四ヶ所にして監督者以下二一名を配置し其の一ヶ所平均配置數五名なり。右停車場構内を除く鐵道沿線は延長一三哩九にして配置人員一六名一哩當り八名強なり。

鐵道沿線並停車場配置表

大隊別	停車場名	里程	第一大隊				鐵道沿線	警視	警部	警部補	巡查部長	巡查	計	一哩又ハ 驛平均	補助員	備考
			停車場													
			二川	豊橋	御油	蒲郡										
合		一五.二七										六二	四人	三七	本配置八十一 月六日、廿七 日ノ配置ナリ	
小計											二〇	平均 五人	五			
計		一七.二六									三三		二五			

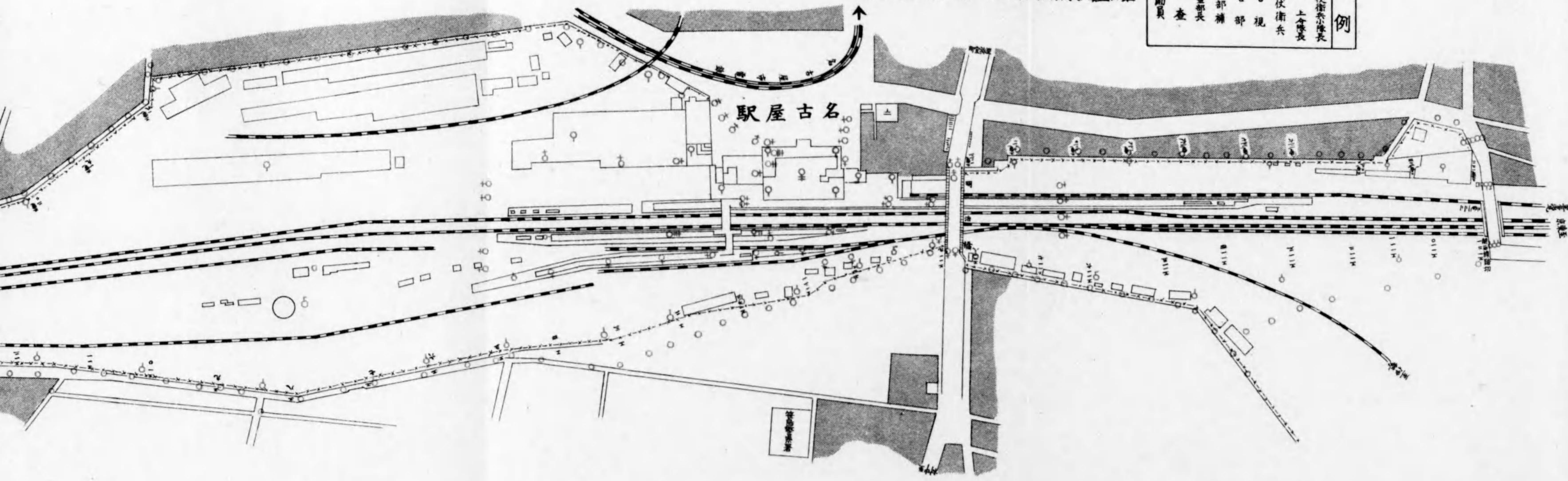


鐵道沿線	隊 大 三 第				隊 大 二 第								
	合 計	場 車 停			鐵道沿線	合 計	場 車 停					鐵道沿線	
		小 計	熱 田	大 高			小 計	大 府	刈 谷	安 城	岡 崎		幸 田
三、〇	三、三	二、〇	—	—	一〇、一〇	二、〇	一、一〇	—	—	—	—	—	二、〇
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	三	—	—	—	二	三	三	—	—	—	—	—	—
六	九	—	—	—	八	四	二	—	—	—	—	—	二
三	二〇	二	—	—	八	六	—	—	—	—	—	—	五
六	一四	八	—	—	二四	六	六	三	三	三	四	三	六
二六	一五	三	—	—	二二	二	三	四	四	四	七	四	八
八人強	—	平均 六人強	—	—	二六人強	—	平均 四人強	—	—	—	—	—	四人
一六	二四	三	—	—	二九	二	七	六	六	六	七	三	三七
本配置八十一					本配置八十一 月六日、廿七 日ノ配置ナリ								本配置八十一 月六日、廿七 日ノ配置ナリ

昭和六愛知縣記念録

圖置配官察警及兵衛行拔儀駅屋古名

○	補助員
△	巡查
◇	巡查部長
□	警部補
◇	警部
◇	警視
△	儀仗衛兵
△	全上隊長
△	儀仗衛兵隊長
凡例	

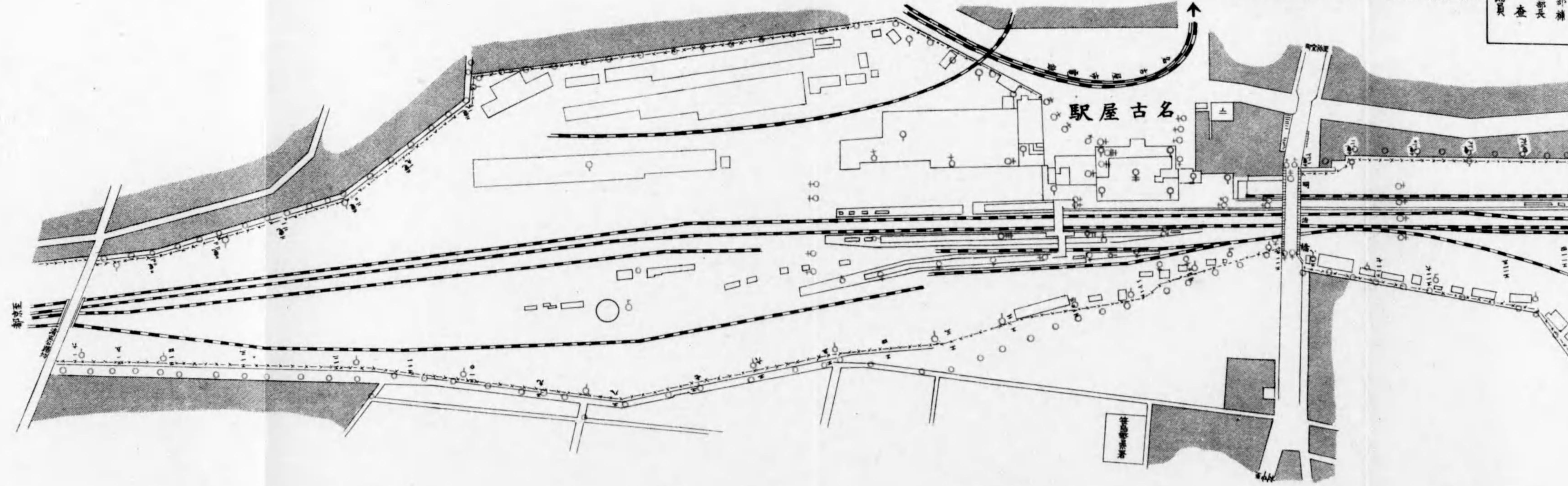


名古屋駅

名古屋駅

圖置配官察警及兵衛杖儀駅屋古名

- 警部補
- 巡查部長
- 巡查
- 補助員



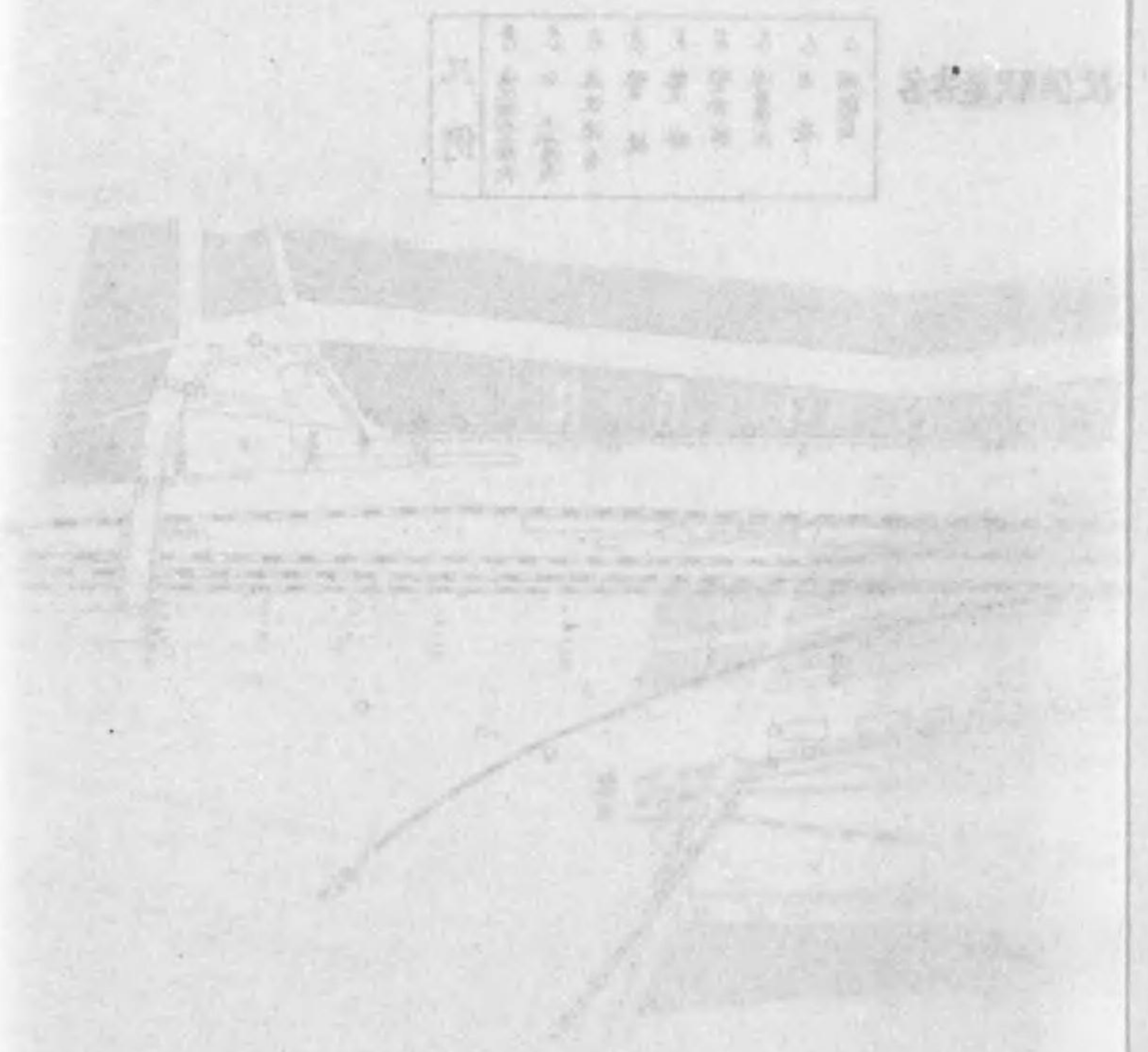
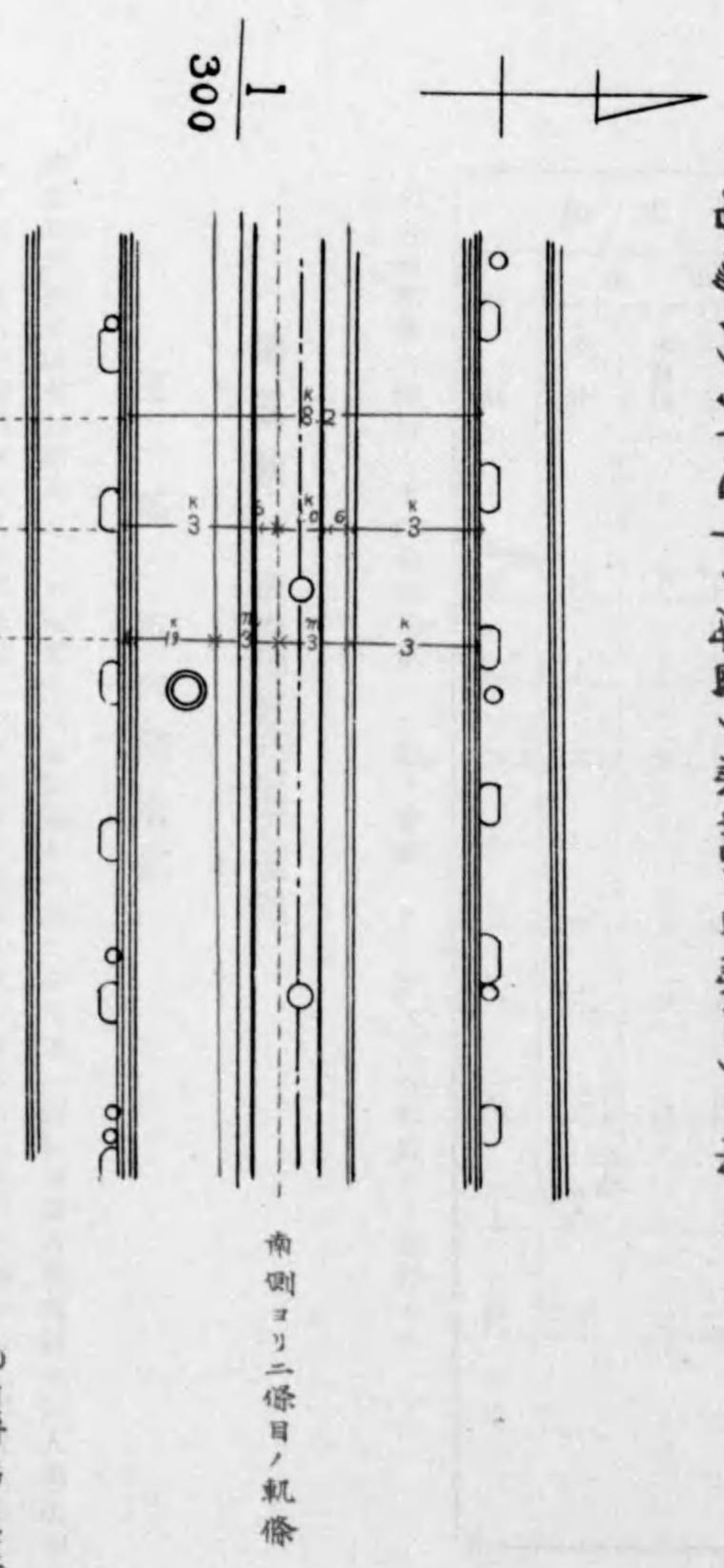
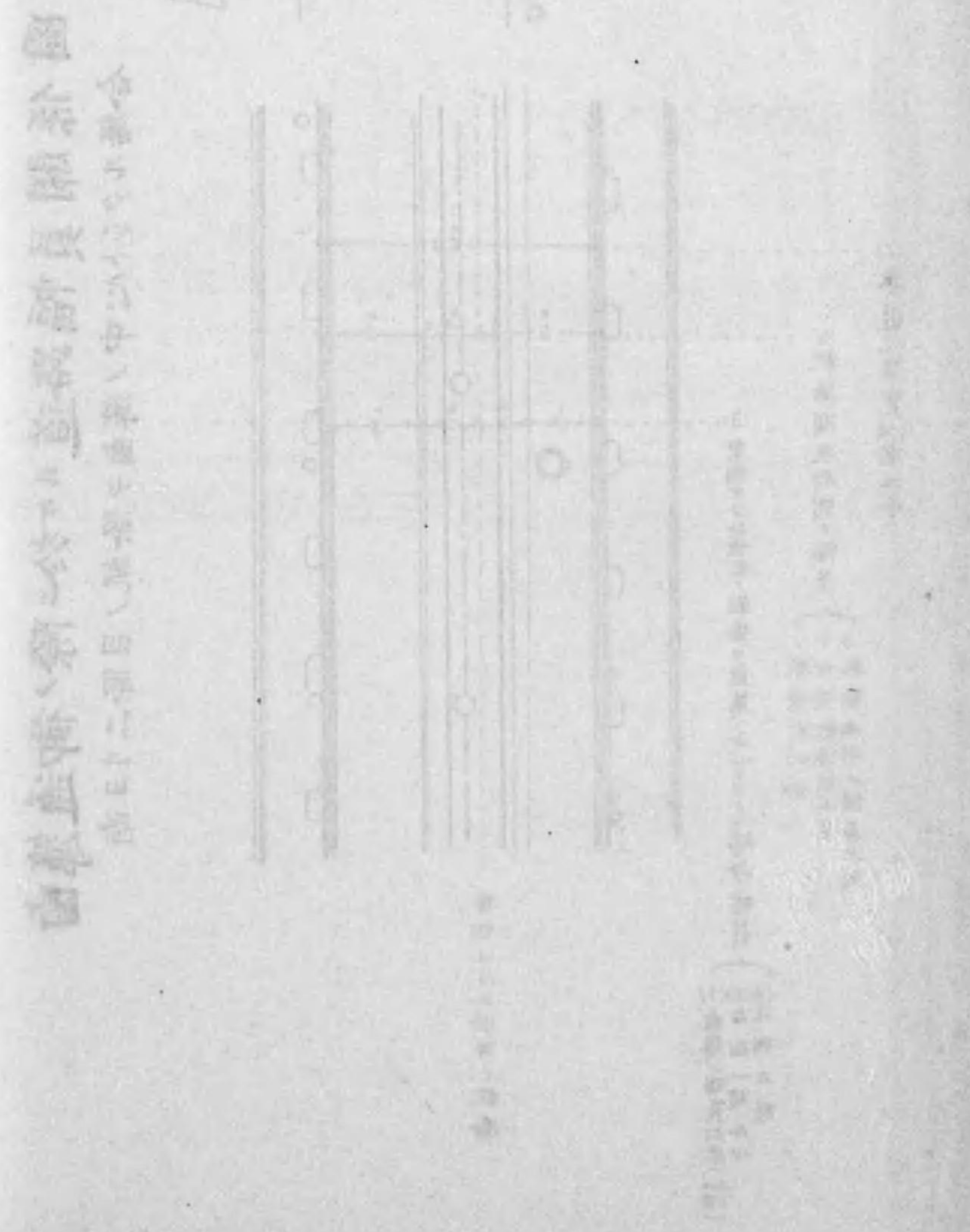


圖 係關員幅路道ルケ於ニ際ノ御通簿函

合場ルヲシト心中ノ簿齒ヲ條軌ノ目際ニリヨ南



- (1) 車道ノ幅員八間二分
- (2) 軌條間及西側ノ幅員
  - ① 軌條間六分
  - ② 西側軌條間一間
  - ③ 軌條西側ノ間各三間
- (3) 南側ヨリニ條目ノ軌條ヲ齒簿ノ中心トシテ此場合ノ幅員
  - (1) 齒簿ノ幅員六米 (五分)
  - (2) 南側一間九分
  - (3) 北側三間



第四大隊				
合計	停車場			
	小計	木曾川	一宮	枇杷島
一四哩	四			
一				
三	二	—		—
八	二		—	
三	一		—	
一三	六	三	五	四
三七	三	四	七	五
一	平均 五人			
一四	七	八	八	八

月七日、廿六  
日ノ配置ナリ

名古屋驛構内配置ハ市内御道筋第一大隊ノ管轄トナリ居リ市内配置ニテ詳記セリ

### 第三款 市内御道筋配置要領

#### 第一項 市内御道筋

御道筋拜観者は全部座拜せしめ(雨雪共尙警衛線を三線に分ち第一線は拜観線榮町通りは人車道境界  
玉屋町通りは人車道境界より六尺後退したる箇所を離る四尺の前方に五間の間隔を以て配置し第二線  
は拜観線を離る三尺の前方に五間間隔を以て配置し第一線第二線配置員を合せは其の間隔二間三尺な  
り第三線は後方配置とし御道筋より一丁乃至二丁を後退したる街角に於て拜観人の整理をなし街路の

廣狹交通量の繁閑を斟酌し最低二名最高一名を配置せり。

行幸第一日(十一月六日)還幸第二日(十一月二十七日)に於ける市内御道筋(自名古屋驛構内至離宮正門)に配置

する警察官の總員は一四一二名にして配當密度後方配置を除くは各側一人受持間隔二間三尺なり

行幸第二日(十一月七日)還幸第二日(十一月二十六日)に於ける市内御道筋(自離宮正門至名古屋驛構内)に配置

する警察官の總員は一六三〇名にして配置密度後方配置を除くは各側一人受持間隔二間一尺なり

### 第二項 責任區域

市内御道筋名古屋驛前より離宮正門に至る三一町五間を三ヶ大隊に分ち第一大隊は名古屋驛構内並名古屋驛前より納屋橋西詰に至る五町一九間七を區域とし之れに警視以下(十一月六日、廿七日、三八七名を配置し後方配置を除きたる警衛員の間隔は片側十一月六日、廿七日、二間三尺なり。十一月七日、廿六日、四五八名を配

置し後方配置を除きたる警衛員の間隔は片側十一月六日、廿七日、二間三尺なり。

第二大隊は納屋橋西詰より榮町通り玉屋町角に至る八町四一間二を區域とし之れに警視以下(十一月六日、廿七日、四七五名を配置し後方配置を除きたる警衛員の間隔は片側十一月六日、廿七日、二間三尺なり。十一月七日、廿六日、五四八名を配置し後方配置を除きたる警衛員の間隔は片側十一月六日、廿七日、二間一尺なり。

第三大隊は榮町通り玉屋町角より離宮正門に至る一七町四間五を區域とし之れに警視以下(十一月六日、廿七日、五五〇名を配置し後方配置を除きたる警衛員の間隔は榮町通り玉屋町角より南外堀町本町御門前に至る區間は片側十一月六日、廿七日、二間三尺にして南外堀町本町御門前より離宮正門七町四六間、三十八名)に

至る師團廓内は片側十二間なり

### 市内御道筋配置表

圖 於 要 置 隊 警 圖



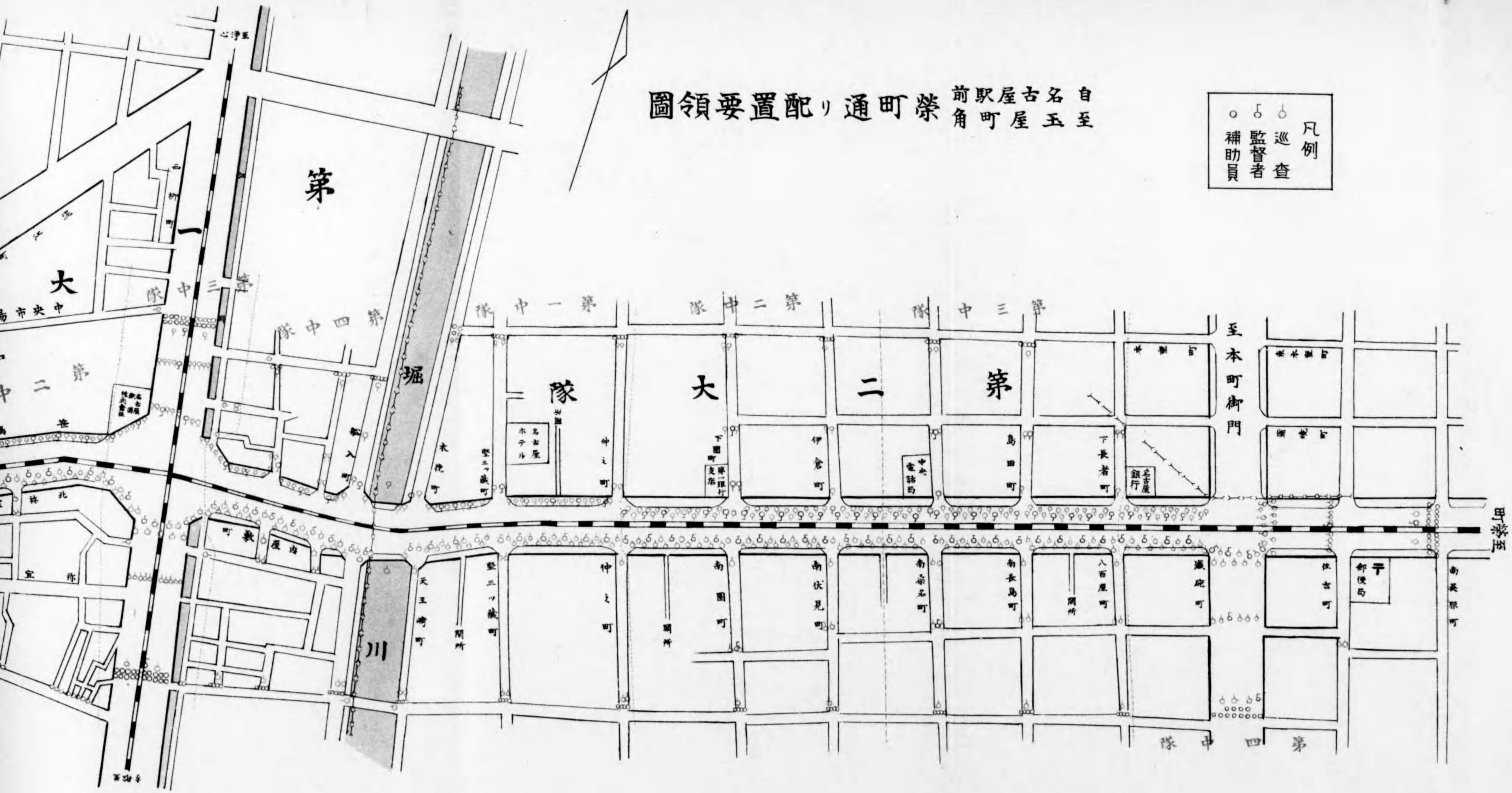
名古屋驛

離宮驛

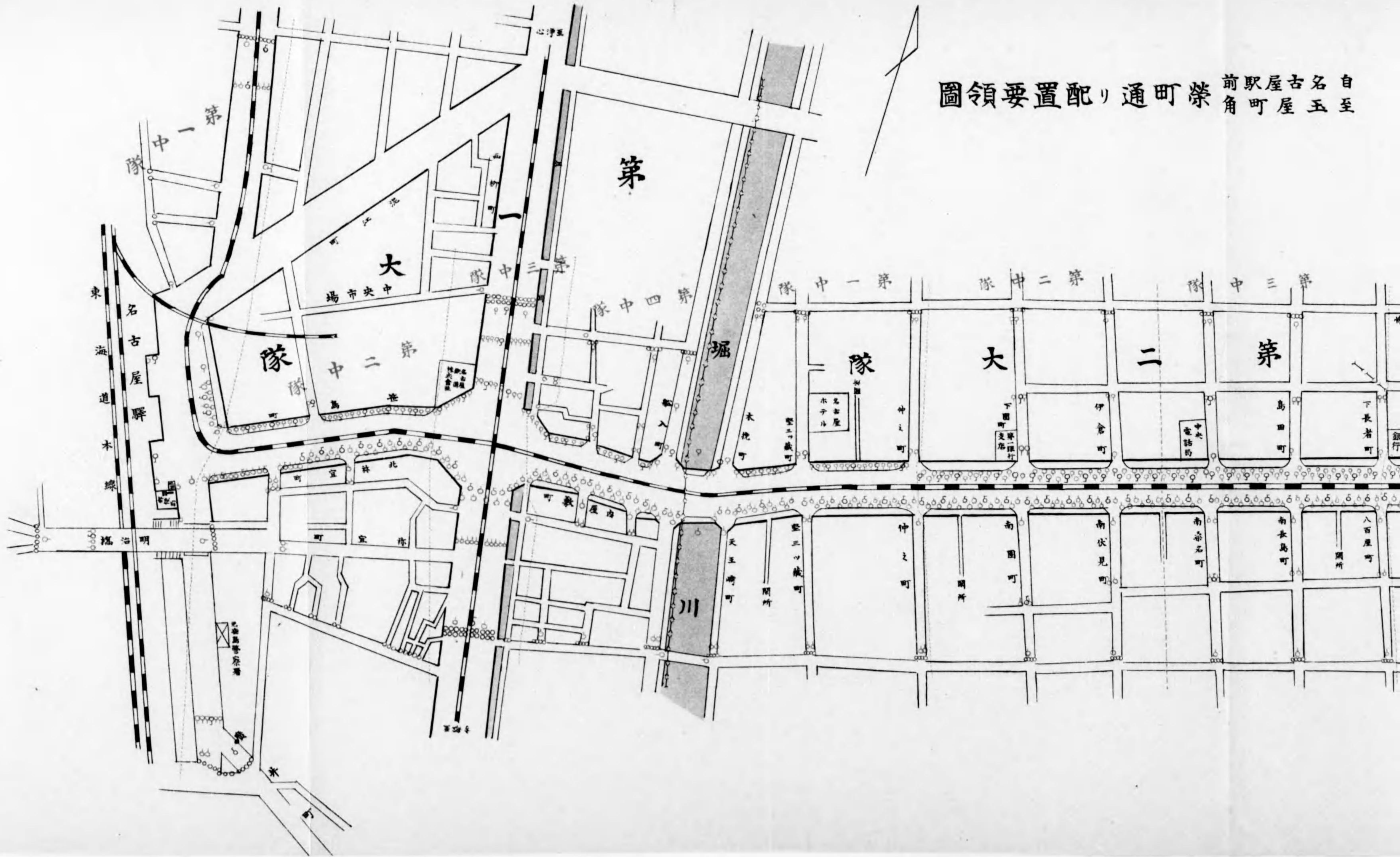


自名古屋至五玉屋古屋前 榮町通配置要領圖

凡例  
 ○ 巡查  
 ◡ 監督者  
 ○ 補助員

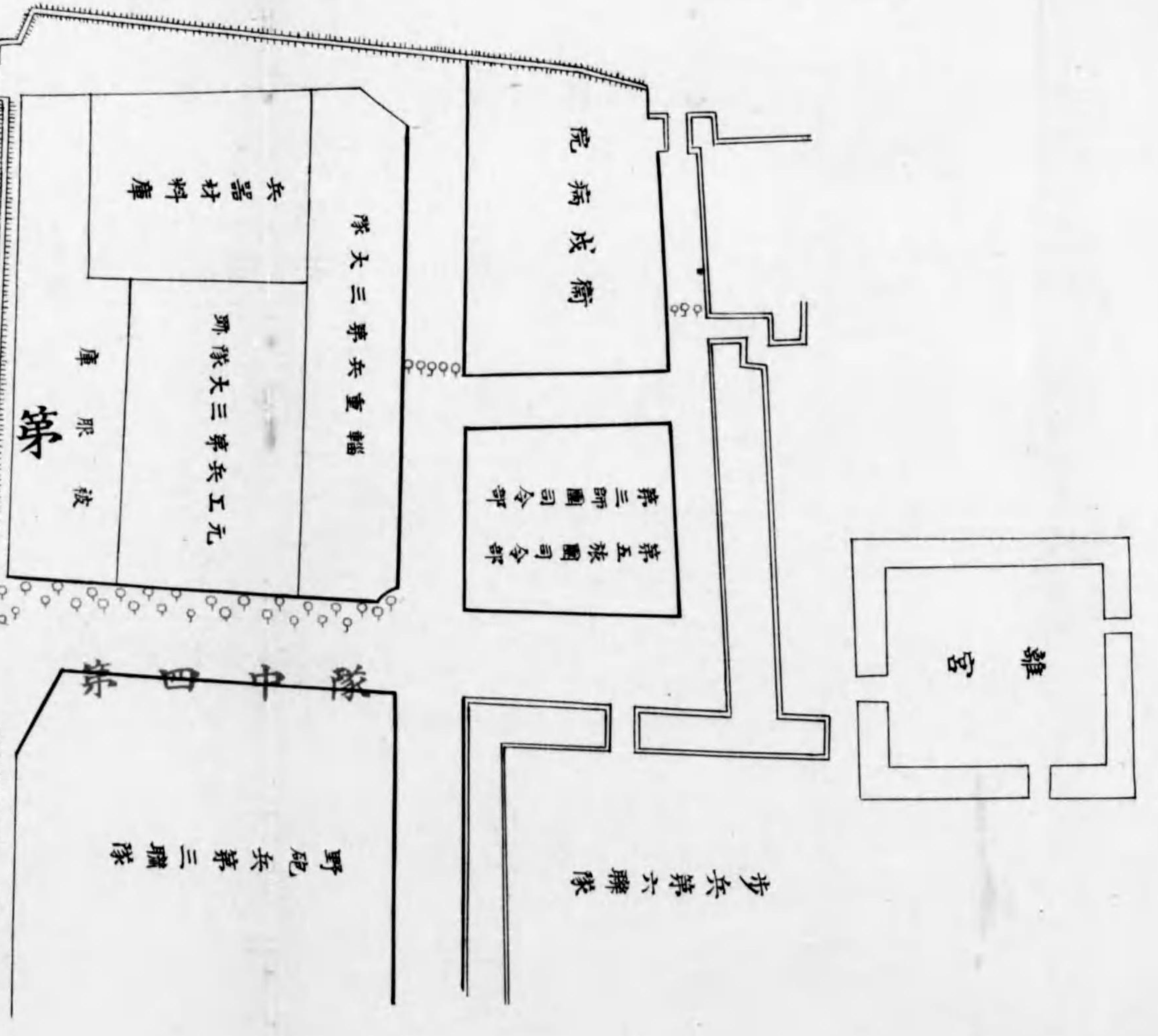
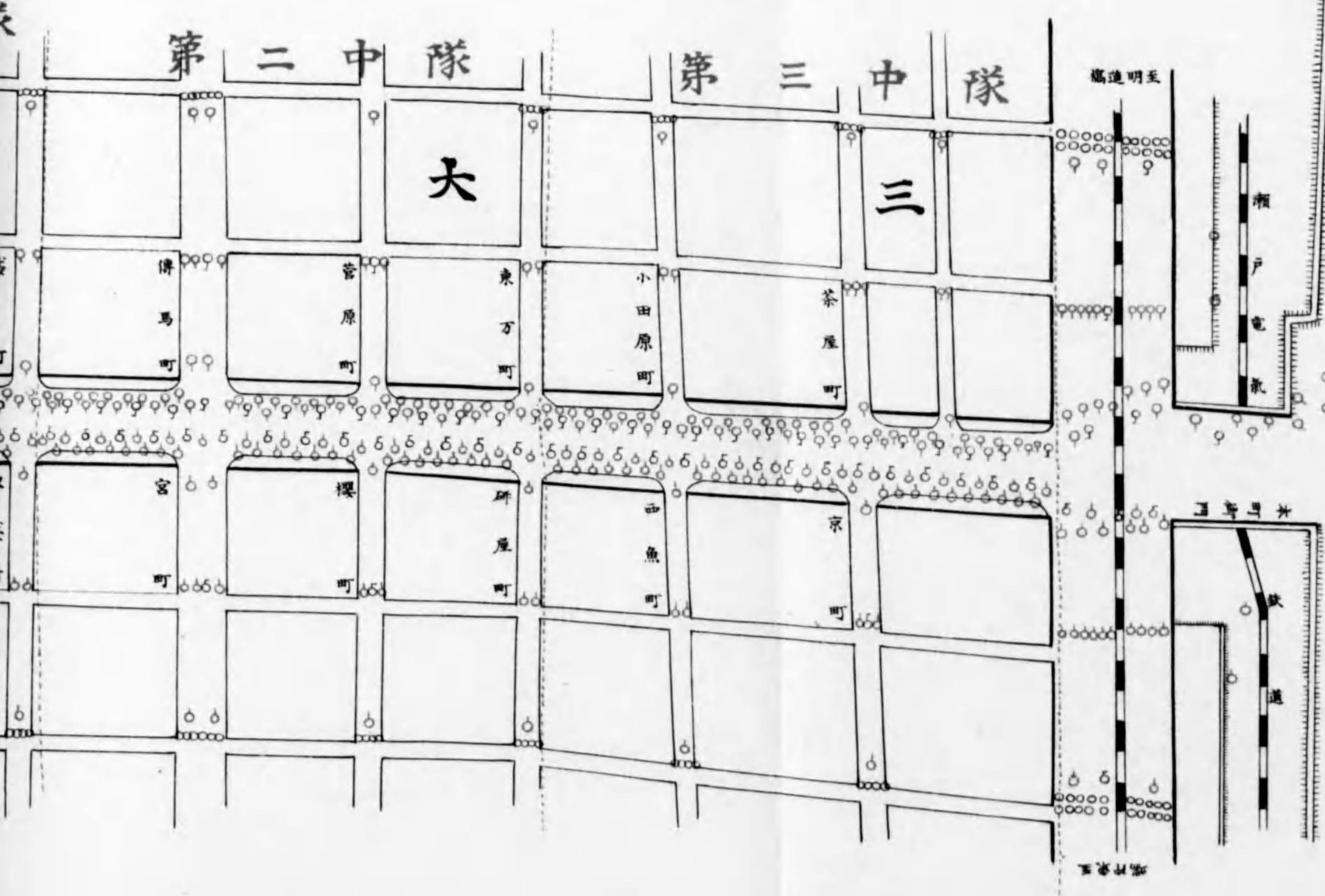


自名古屋古屋屋前至五屋町榮町通り配置要領圖



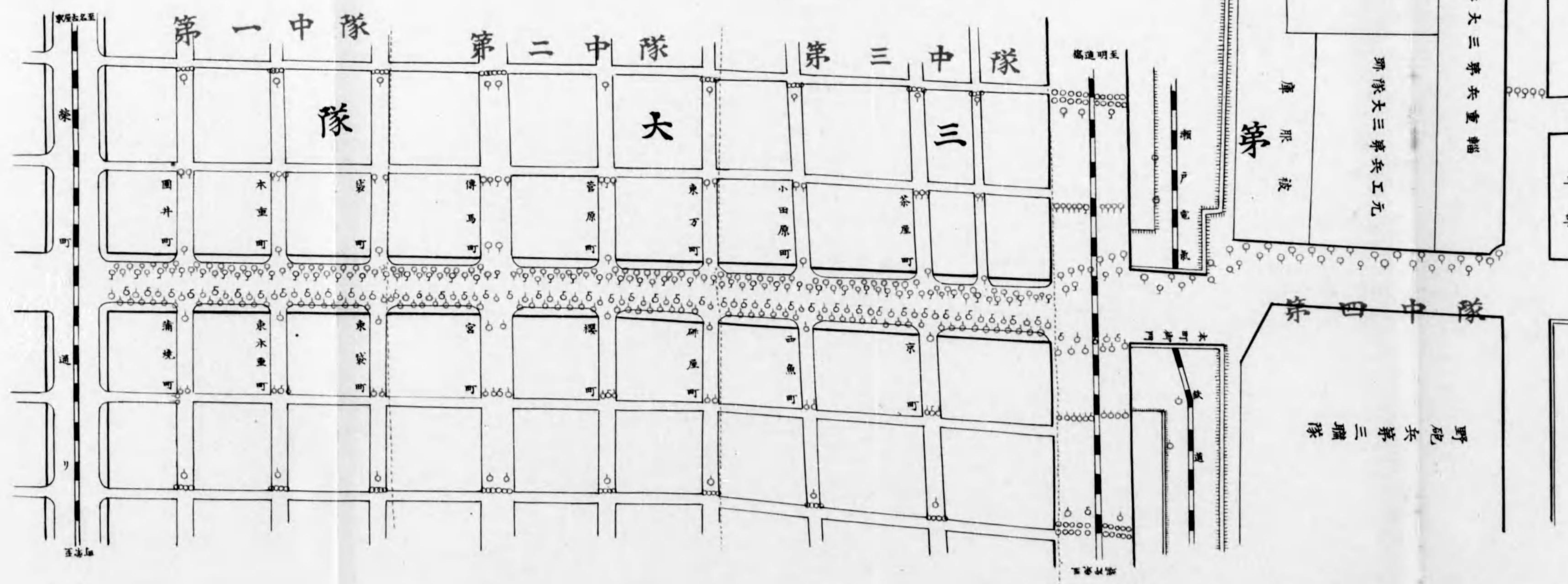
自玉屋町角  
至離宮  
本町通、配置

凡例  
 ○ 巡查  
 ⊙ 監督者  
 ○ 補助員



自玉屋町角 至雜離宮 本町通，配置要領圖

凡例  
 ○ 巡查  
 ○ 監督者  
 ○ 補助員



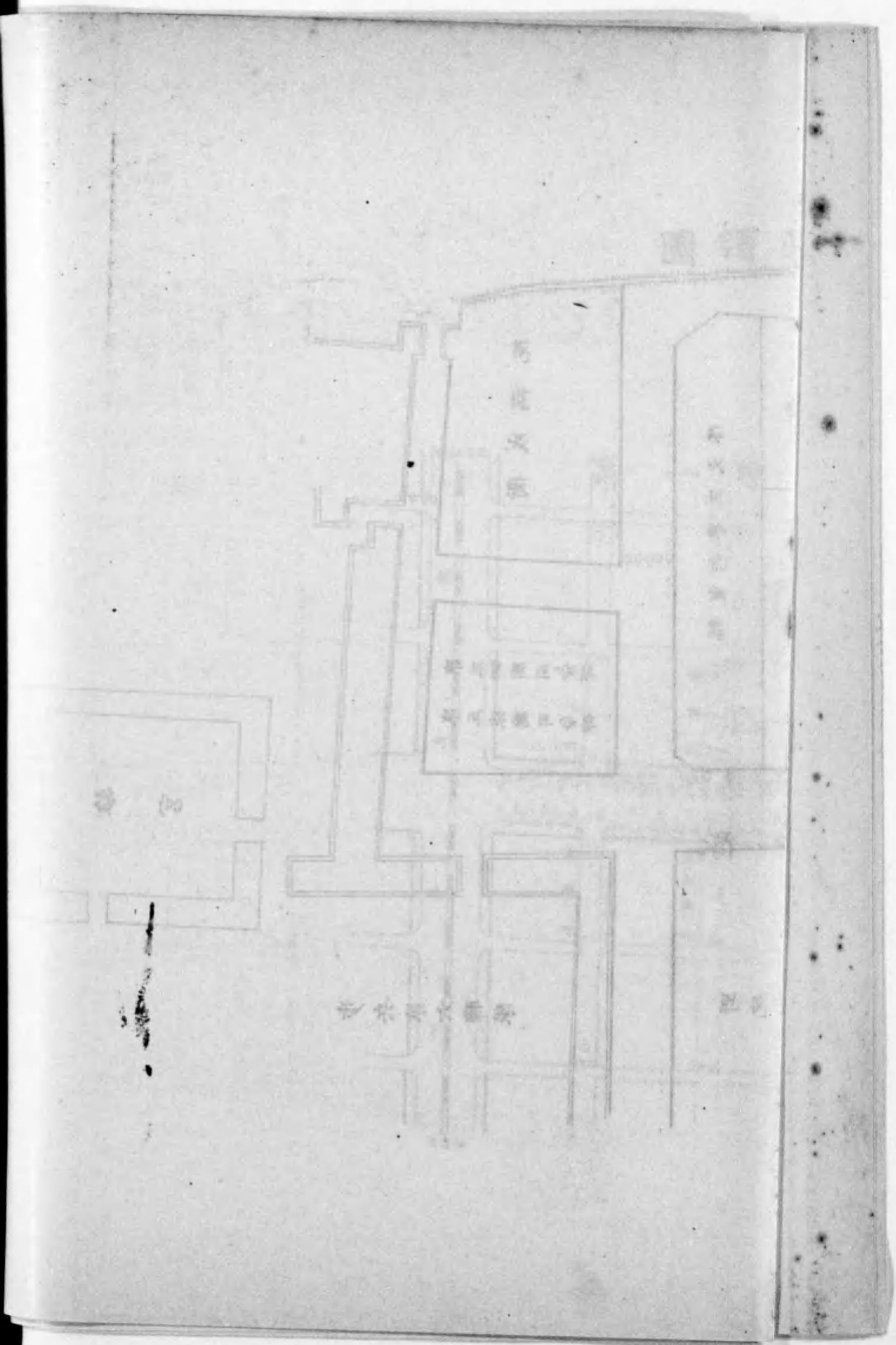
廣小路木町交通遮斷線



廣小路御警衛



警衛第一大隊 (光明院)



井戸田附近御進行中の  
御召列車



御幸本町通り御警衛

驛前奉祝門と道路清掃



大隊別	里程	第一御道筋 名古屋驛		警視	警部	警部補	巡察部長	巡查	計	間隔	補助員	備考
		御道筋	名古屋驛									
第一大隊	五丁十九間	〇△	〇△	---	---	四四	二六	三二	三三	二二尺	二	(御道筋) 片側二〇八名
第二大隊	八丁四間	〇△	〇△	---	---	五五	三三	三三	四七	二二尺	三	(御道筋) 片側二〇八名
第三大隊	十七丁四間五〇△	---	---	---	---	五五	三三	三三	五五	二二尺	三	(御道筋) 片側二〇八名
		合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計

本表 △印ハ十一月六日、二十七日ノ配置ナリ。  
 ○印ハ十一月七日、二十六日ノ配置ナリ。

### 第三項 交通遮断

行幸當日御道筋交通遮断につきては、左の如き仕様書により伊藤治郎七をして籬を施工せしめ、本縣建築課技術員監督せり。

#### 交通遮断用籬仕様書

第三篇 警務部 第四章 警衛實施

昭三年十一月六日及七日兩度分

(1) 片端通り七間町角

(イ)東寄り 中央二ヶ所電車軌道兩脇堅杭末口五寸丸太地上四尺地下三尺打チ込ミ控杭末口四寸丸太四十五度ニ地下三尺入レ堅杭ト相欠キ鐵線ニテ緊結スル事横渡シ丸太末口四寸町巾一杯トシ兩端及中央堅杭ニ鐵線ニテ緊結スル事

(ロ)西寄り 中央一ヶ所及南側道路境堅杭共前同様トス

渡シ綱マニラ麻ロープ徑壹吋半兩端及中央トモ緊結スル事  
同所ニ限リ地下六寸ノ所ニ厚八寸壹尺角ノブロック敷キトナリ居ル見込ニ付必要ノ箇所ハ破損セザル  
横拔取り杭ヲ撤去後ハ在來通り復舊セシムル事

(2) 片端通り長者町角

(イ)西寄り (1)イニ同様トス

(ロ)東寄り 中央杭及兩端並ニ渡シ綱共(1)ロニ同様トス

(3) 宮町通り富澤町角

(イ)東寄り 道路境一ヶ所堅杭末口四寸丸太地上四尺地下三尺打チ込ミ控へ杭末口三寸丸太四十五度ニ地下三尺入レ堅杭ト相欠キ鐵線ニテ緊結スル事

(ロ)西寄り 横渡シ丸太末口四寸兩端鐵線ニテ緊結スル事道路境一ヶ所堅杭末口四寸丸太地上四尺地下三尺打チ込ム事  
渡シ綱マニラ麻ロープ徑壹吋半兩端緊結スル事

(4) 宮町通り長者町ノ角

(イ)東寄り (4)イニ同様トス

(ロ)西寄り (3)ロニ同様トス

(5) 廣小路通り富澤町針屋町間

(イ)東寄り 中間二ヶ所綱受ケ索高四尺末口二寸五分丸太根元三尺角上部一尺五寸角ニ大榎ニテ上下及中一ヶ所並ニ筋造ヒ共大釘ニテ打チ堅ムル事  
渡シ綱上マニラ麻ロープ徑二吋下徑一吋半兩端及中央共緊結スル事

(ロ)西寄り 總テ前同様トス

(6) 本町通り入江町角

(イ)南寄り 中央一ヶ所(1)イ同様杭打チ横渡丸太(1)イニ同様トス

(ロ)北寄り (2)ロニ同様トス

(7) 下園町通り蒲焼町角

(イ)北寄り (3)イニ同様トス

(ロ)南寄り (3)ロニ同様トス

(8) 南園町通り御園座前通り角

(イ)南寄り 横渡丸太末口四寸兩端緊結スル事

(ロ)北寄り (1)ロニ同様トス

(ハ)東寄り (2)ロニ同様トス

(9) 江川筋東柳町角

(イ)北寄り 中央一ヶ所杭及横渡丸太共(1)イニ同様トス



昭和大禮愛知縣記念録

- (ロ)南寄り 中央一ヶ所杭及渡綱共(1)(ロ)ニ同様トス
  - (10)江川筋福宜町通り角
    - (イ)南寄り 中央二ヶ所杭打チ其他(1)(イ)ニ同様トス
    - (ロ)北寄り 中央二ヶ所杭打チ其他(1)(ロ)ニ同様トス
  - (11)福宜町通り下廣井町角
    - (イ)西寄り 中央二ヶ所及北側道路境其ノ他(1)(イ)ニ同様トス
    - (ロ)北寄り (2)(ロ)ニ同様トス
- 右材料全部損料トシ使用済後直ニ取り拂ヒ跡片付ケ掃除共指示通りナスマシ

交通遮断用柵追加工事仕様書

昭和三年十一月六日、七日追加分

- (5)廣小路通り富澤町針屋町間
  - (1)東寄り マニラ麻ロツブ徑二吋ヲワイマロツブ徑四分ノ三ニ取更ヘルコト
  - (2)富澤町針屋町間 中間二ヶ所綱葺高四尺未口二寸五分丸太根元三尺角上部一尺五寸角ニ大樑ニテ上下及中一ヶ所並ニ筋違共大釘ニテ打壓ムルコト渡シ綱マニラ麻ロツブ徑一吋ヲ上下二ヶ筋引渡シ兩端及中央共緊結スル事
- (3)朝日神社前人道 道路境堅杭徑四寸一本打マニラ麻ロツブ徑一吋ヲ引渡シ兩端緊結スル事
- (6)本町通り入江町角
- (1)廣小路入江町間 道路境ニ堅杭前全マニラ麻ロツブ前同増設スルコト

(2)江川線東柳町

- 中央杭控付一徑四寸一ヶ所渡シ綱マニラ麻ロツブ一ト通り徑一吋兩端及中央共緊結スル事
- (10)江川線福宜町角
  - 前項仕様ノ通り

右取拂ヒ跡片付掃除共指示ノ通りスヘシ

交通遮断用柵仕様書

昭和三年十一月廿六日、廿七日ノ分

- (1)片端通り七間町角
  - (イ)東寄り 中央二ヶ所(電車軌道兩脇)堅杭末口五寸丸太地上四尺地下三尺打込ミ控末口四寸丸太四十五度ニ地下三尺入レ堅杭ト相欠キ鐵線ニテ緊結スルコト横渡シ丸太四寸町巾一杯トシ兩端及中央堅杭ニ鐵線ニテ緊結スル事マニラ麻ロツブ徑一吋半一本ヲ增加スルコト
  - (ロ)西寄り 中央一ヶ所及南側道路堅杭控杭共前同断トス渡シ綱マニラ麻ロツブ徑一吋半兩端及中央共緊結スル事、同所ニ限リ地下六寸ノ所ニ厚八寸一尺角ノプロツク數キトナリ居ルニ付キ必要ノヶ所ハ破損セサル様抜取り杭ヲ撤去後ハ在來通り復舊セシムル事マニラ麻ロツブ徑一吋半一本ヲ增加スル事
- (2)片端通り長者町角
  - (イ)西寄り (1)(イ)ニ同様トス
  - (ロ)東寄り 中央杭及兩端並ニ渡シ綱共(1)(ロ)ニ同様トス
- (3)宮町通り富澤町角

- (イ)東寄り 道路境一ヶ所堅杭末口四寸丸太地上四尺地下三尺打ナ込ミ控へ杭末口三寸丸太四十五度ニ地下三尺入レ堅杭ト相欠キ鐵線ニテ緊結スル事
- (ロ)西寄り 横渡シ丸太末口四寸四端鐵線ニテ緊結スル事道路境一ヶ所堅杭末口四寸丸太地上四尺地下三尺打ナ込ミ事渡シ綱マニラ麻ロープ徑一吋半兩端緊結スル事
- (4)宮町通り長者町角
  - (イ)東寄り (3)イニ同断トス
  - (ロ)西寄り (3)ロニ同断トス
- (5)廣小路通り富澤町針屋町間
  - 中間四ヶ所綱受臺高四尺末口二寸五分丸太根元三尺角上部一尺五寸角ニ大槓ニテ上下及中一ヶ所並ニ筋違共大釘ニテ打ナ堅ムルコト
  - 渡シ綱上ワイヤロープ徑五分兩端及中央共緊結スルコト
  - 一通り入道ニ杭打ナノ上マニラ麻ロープ徑一吋半ノモノ引クコト仕標前同断トス
- (6)本町通り入江町角
  - (イ)南寄り 中央一ヶ所(1)イ同断杭打ナ横渡丸太(1)イニ同断トス
  - (ロ)北寄り (1)ロニ同断トス
- (7)下園町通り蒲焼町ノ角
  - (イ)北寄り (3)イニ同断トス
  - (ロ)南寄り (3)ロニ同断トス
- (8)南園町通り御園座前通り角

- (イ)南寄り 横渡丸太末口四寸兩端緊結スル事
  - (ロ)北寄り (2)ロニ同断トス
  - (ハ)東寄り (3)ロニ同断トス
  - (9)江川筋東柳町角綱線一ヶ所増加スルコト
    - (イ)北寄り 中央一ヶ所杭及横渡シ丸太共(1)イニ同断トス
    - (ロ)南寄り 中央一ヶ所杭及渡綱共(1)ロニ同断トス
  - (10)江川筋福宜町通り魚綱線一ヶ所増設ノコト
    - (イ)南寄り 中央二ヶ所杭打ナ其他(1)イニ同断トス
    - (ロ)北寄り 中央二ヶ所杭打ナ其他(1)ロニ同断トス
  - (11)福宜町通り下廣井町角
    - (イ)西寄り 中央二ヶ所及北側道路境其他(1)イニ同断トス
    - (ロ)北寄り (3)ロニ同断トス
- 右材料全部損料トシ使用済直チニ取り拂ヒ跡片付ケ掃除共其指示通りスヘシ

交通遮断柵追加工事仕様書

昭和三年十一月二十六日二十七日追加分

- (5)廣小路通り富澤町針屋町間
  - (1)富澤町角針屋町角 中間二ヶ所綱受臺高四尺末口二寸五分丸太元三尺角上部一尺五寸角ニ大槓ニテ上下及中一ヶ所並ニ筋違共大釘ニテ打堅ムル事渡シ綱マニラ麻ロープ徑一吋兩端及中央共緊結スル事
- 第三篇 警務部 第四章 警衛實施 七二一

(2)朝日神社前入道 道路境堅杭徑四寸一本打マニラ麻ロツプ徑一時ヲ引渡シ兩端緊結スル事

(6)本町通り入江町角

廣小路入江町間道路境ニ堅杭前同マニラ麻ロツプ前同項設備スルコト

(9)江川線東柳町

中央徑四寸控付一ヶ所渡シ網マニラ麻ロツプ徑一時一ト通り兩端及中央共緊結スル事

(10)江川線福宜町角

前項仕様ノ通り

右取拂跡片付ヶ掃除共指示ノ通りスヘシ

#### 第四款 離宮内配置要領

行在所たる離宮内配置は皇宮警察並衛兵を以て警衛に充つる事となり居り、之れが警衛上の連絡を計る爲め警部補二巡查二計四名を配置し外に消防曹長一名配置せり。

#### 第五款 離宮外廓配置要領

離宮外廓配置は添付配置圖の通警部一警部補一巡查部長二巡查二〇合計二四名を充當し、専ら外廓四圍の警戒をなさしむ。

#### 第六款 御荷物通路配置要領

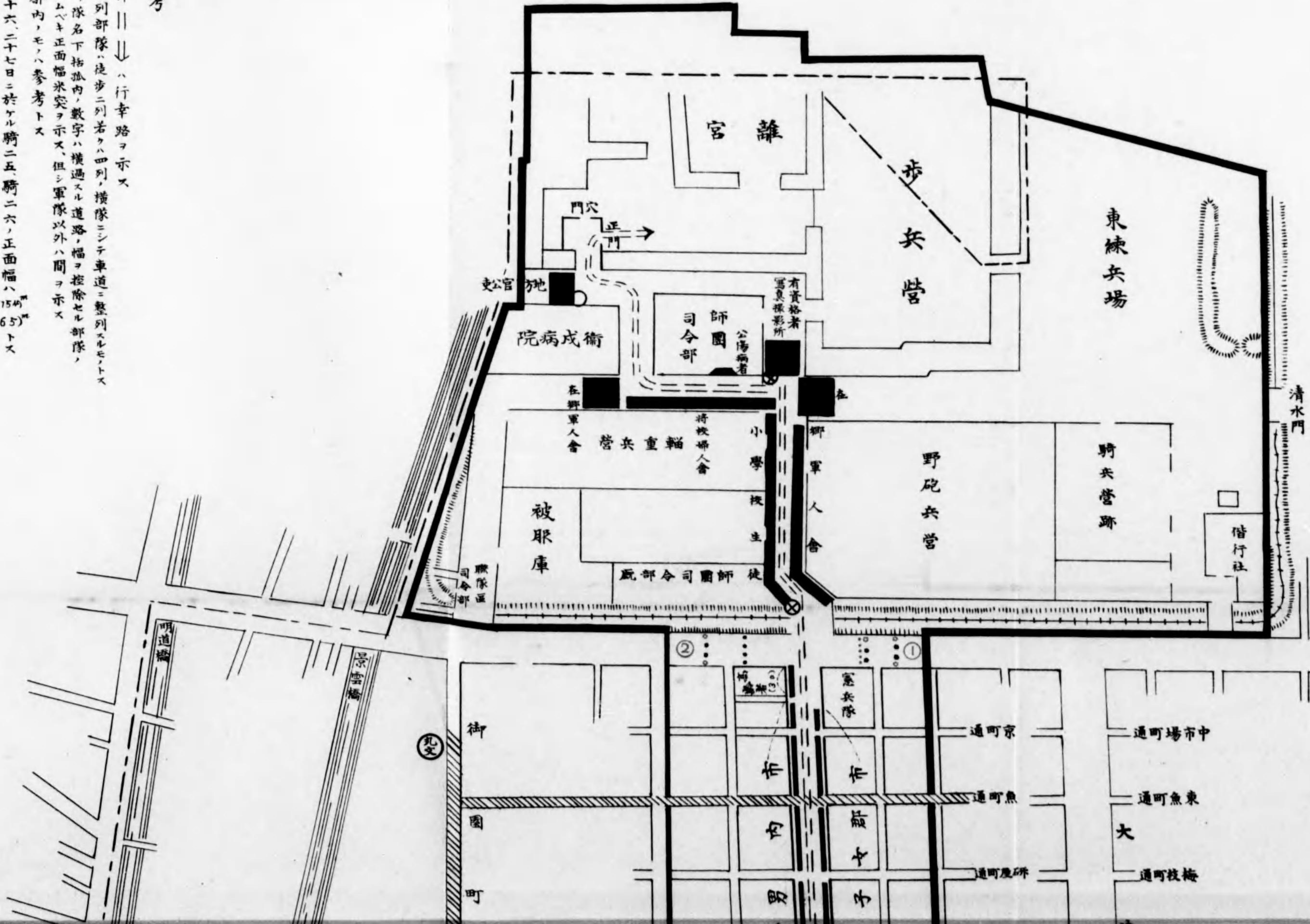


# 交通遮斷並軍隊其他諸團體列奉拜圖

## 備考

- 一 川路ハ行幸路ヲ示ス
- 二 諸列部隊ハ徒歩ニ列若クハ四列ノ横隊ニシテ車道ニ整列スルモトス
- 三 部隊名ヲ括弧内ノ數字ハ横過スル道路ノ幅ヲ控除セル部隊ノ占ムベキ正面幅米突ヲ示ス、但シ軍隊以外ハ間ヲ示ス
- 四 廓内ノモ、ハ参考トス
- 五 二十六、二十七日ニ於ケル騎二五、騎二六、正面幅ハ(15.4)トス
- 六 御荷物通路
- 七 交通遮斷線
- 八 大隊境界
- 九 皇族大官御泊所
- 十 寫真撮影並記者來拜所

↑ 皇族大官御泊所  
○ 寫真撮影並記者來拜所



親王殿下御泊所  
○ (德川邸)

王殿下御泊所  
○ (渡邊邸)

清水門

東練兵場

步兵營

雜官

衛生院

司令部

在野軍人會

營兵重輜

將校婦人會

小學

野砲兵營

騎兵營跡

借行社

被服庫

師團司令部

憲兵隊

通町京

通町場市中

通町魚

通町魚東

通町慶研

通町技梅

御

内

子

男

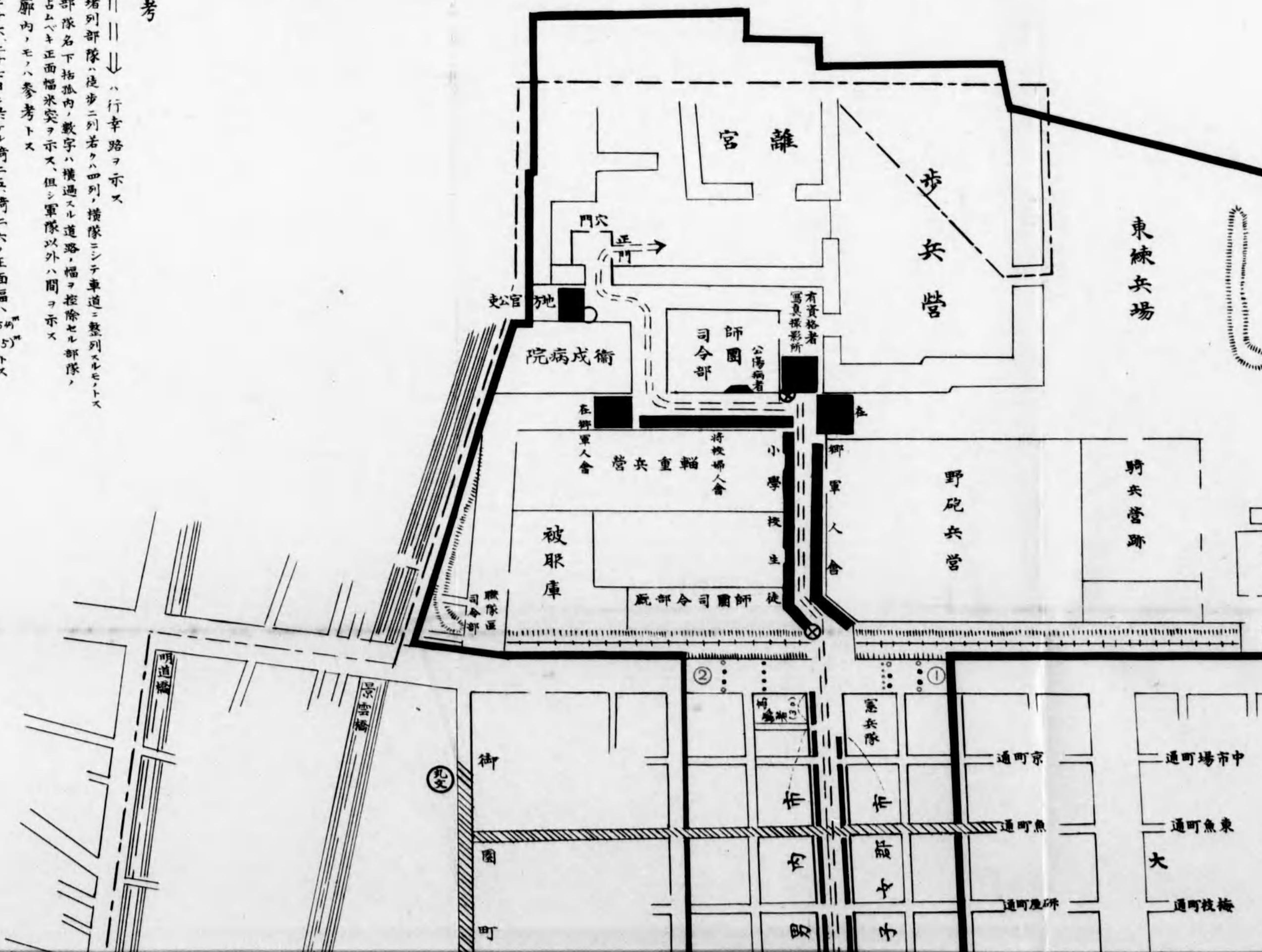
子

町

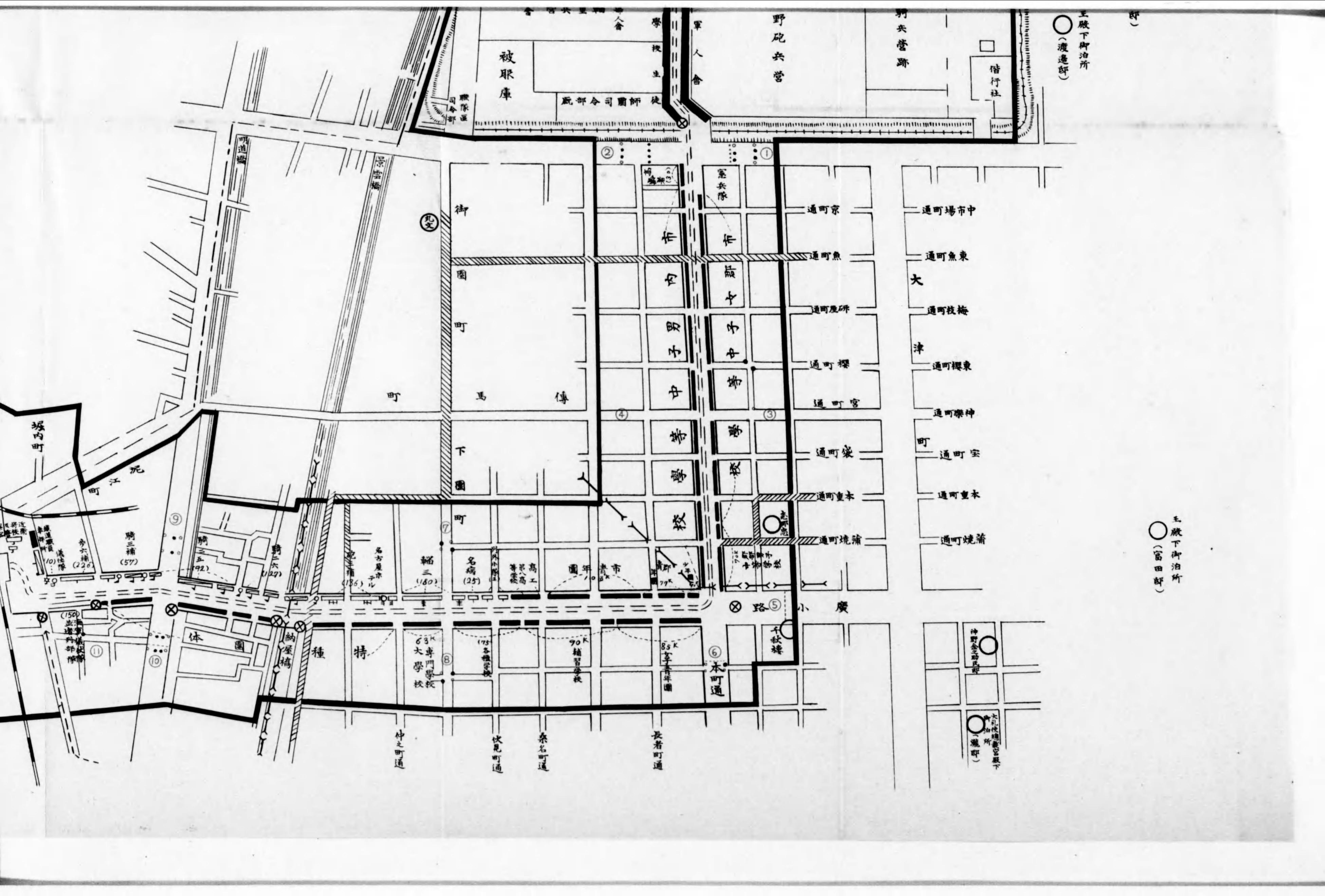
孔文

# 圖拜奉列堵体團諸他其隊軍並斷遮通交

- 備考**
- 一 行幸路ヲ示ス
  - 二 諸列部隊ハ徒歩ニ列若クハ四列、横隊ニシテ車道ニ整列スルモトス
  - 三 部隊名下括弧内、數字ハ横過スル道路、幅ヲ控除セル部隊ノ占ムベキ正面幅米突ヲ示ス、但シ軍隊以外ハ間ヲ示ス
  - 四 廓内、モ、ハ参考トス
  - 五 二十六、二十七日ニ於ケル騎二五騎二六、正面幅八(15馬)トス(65)トス
  - 六 御荷物通路
  - 七 交通遮断線
  - 八 大隊境界
  - 九 皇族大官御泊所
  - 十 寫眞撮影並記者來拜所
  - 十一 取奉送迎者自動車道
  - 十二 一般交通路



1  
6.670



被取庫

師團司令部部

野砲兵營

野兵營跡

借行社

王殿下御泊所  
○(渡邊邸)

○(丸文)

御

市

通町京

通町場市中

園

内

市

通町魚

通町魚東

町

男子

子

通町度研

通町技梅

馬

中

等

通町櫻

通町櫻東

下

等

學

通町宮

通町樂神

町

校

校

通町家

町 通町空

名病

(25)

高工

高工

高工

高工

高工

高工

高工

高工

高工

高工

高工

高工

高工

高工

高工

高工

高工

高工

高工

高工

高工

高工

高工

高工

高工

高工

高工

高工

王殿下御泊所  
○(富田邸)

○(神野金三郎邸)

○(大禮儀禮堂宮殿下御泊所)

坂内町

元

町

江

町

町

町

町

町

町

町

町

町

町

町

町

町

町

町

町

○(150)

○(10)

○(220)

○(57)

○(192)

○(127)

○(185)

○(180)

○(25)

○(70)

○(70)

○(70)

○(70)

○(150)

○(10)

○(220)

○(57)

○(192)

○(127)

○(185)

○(180)

○(25)

○(70)

○(70)

○(70)

○(70)

○(150)

○(10)

○(220)

○(57)

○(192)

○(127)

○(185)

○(180)

○(25)

○(70)

○(70)

○(70)

○(70)

○(150)

○(10)

○(220)

○(57)

○(192)

○(127)

○(185)

○(180)

○(25)

○(70)

○(70)

○(70)

○(70)

○(150)

○(10)

○(220)

○(57)

○(192)

○(127)

○(185)

○(180)

○(25)

○(70)

○(70)

○(70)

○(70)

○(150)

○(10)

○(220)

○(57)

○(192)

○(127)

○(185)

○(180)

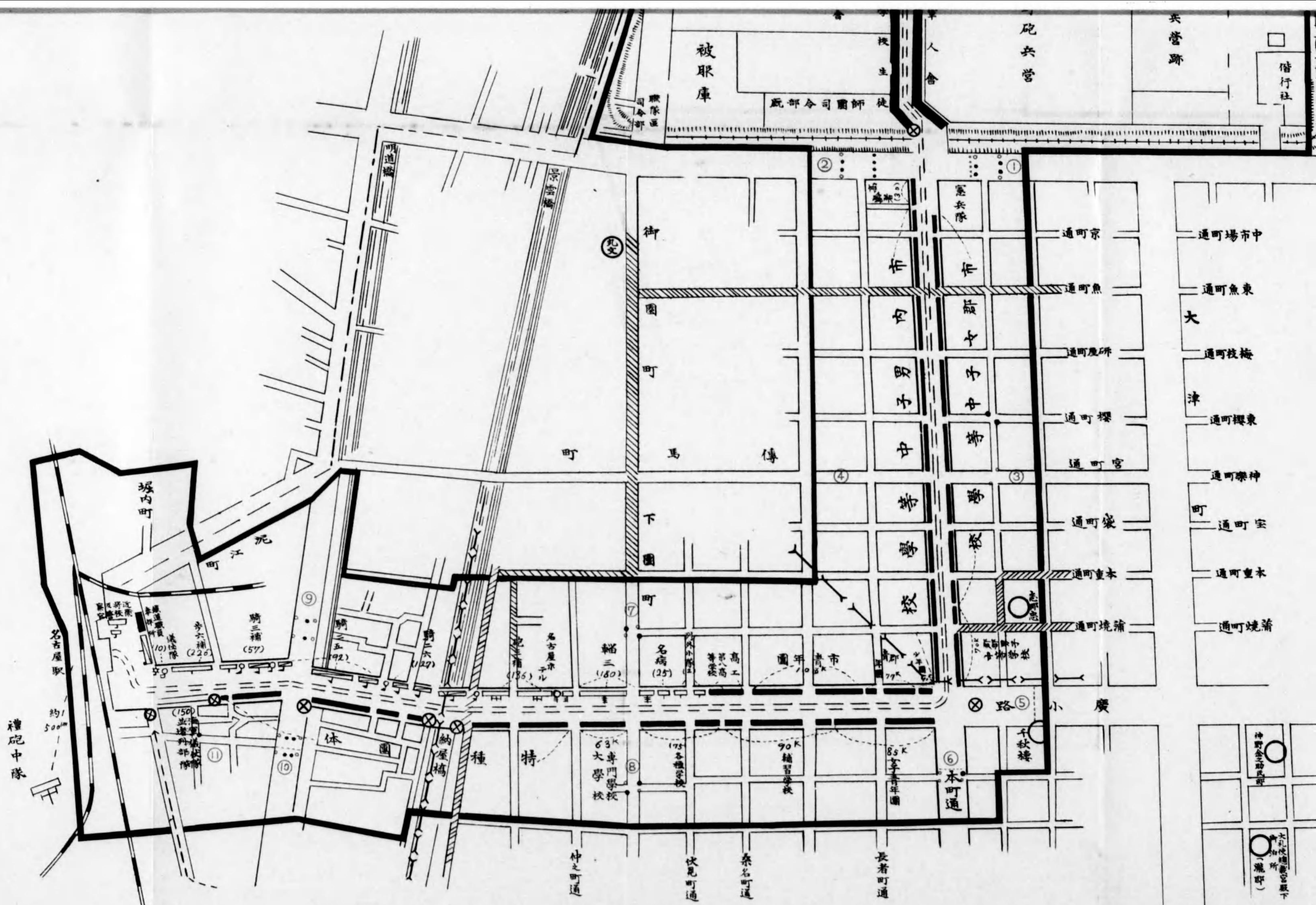
○(25)

○(70)

○(70)

○(70)

○(70)



禮砲中隊

約500m

名古屋駅

堀内町

江花町

騎三補 (57)

步六補 (226)

騎五 (192)

騎六 (127)

名古屋

輻三 (180)

名病 (25)

高工

市青

市青

市青

市青

市青

路⑤

小廣

千秋樓

本町通

長者町通

桑名町通

伏見町通

仲之町通

兵營跡

砲兵營

軍人會

被取庫

師團司令部

借行社

通町場市中

通町魚東

大

通町技梅

津

通町櫻東

通町樂神

町

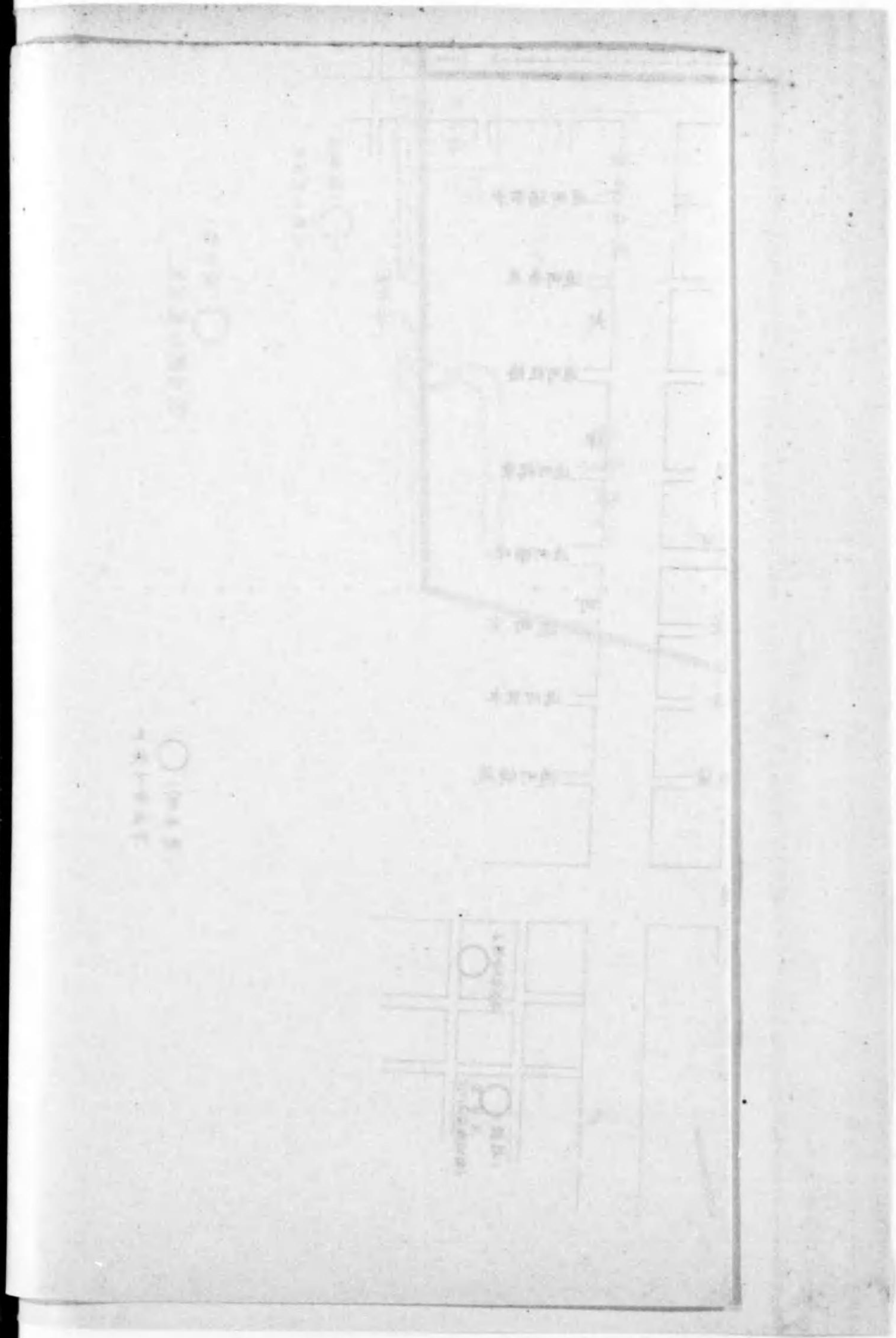
通町安

通町重木

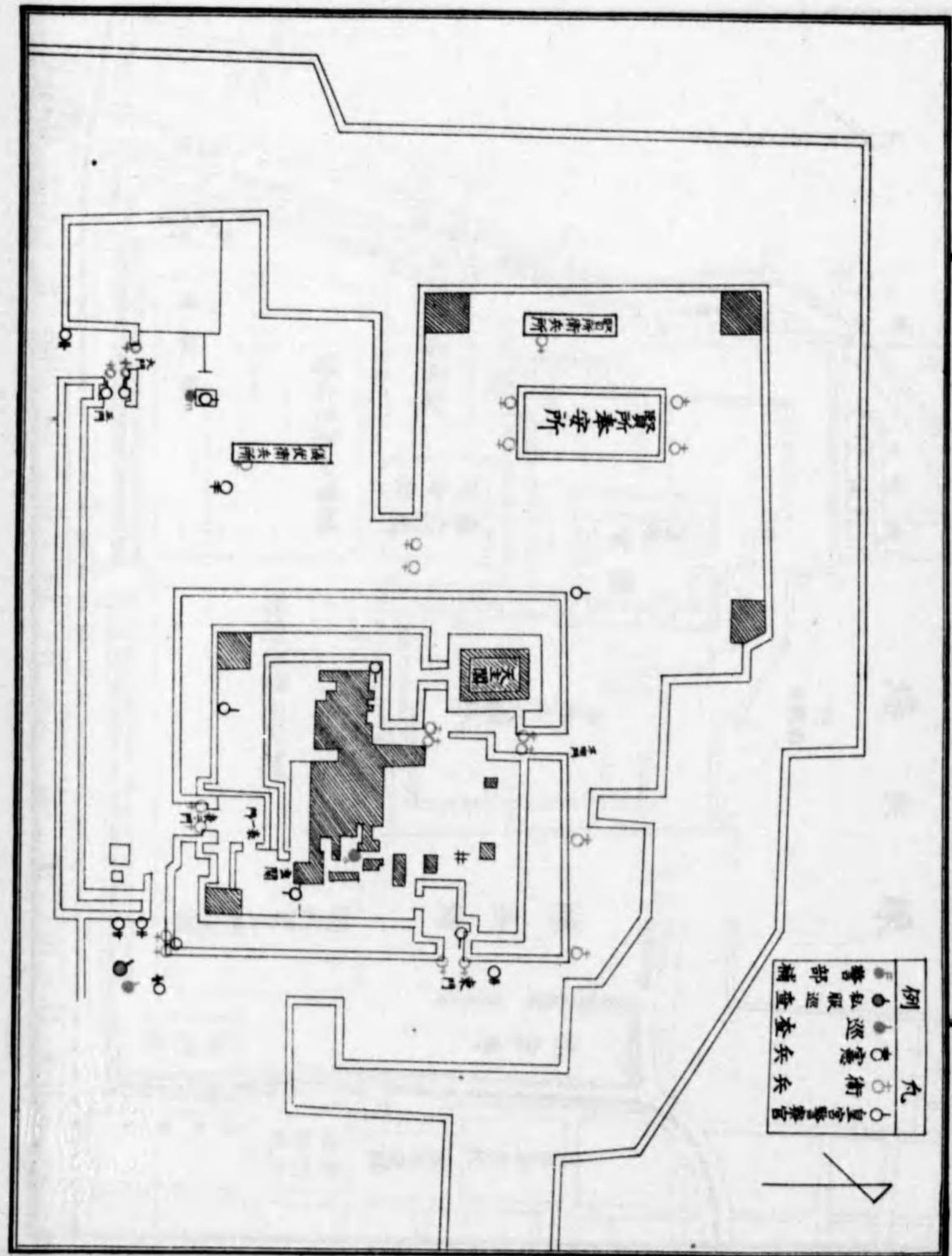
通町燒蒲

神野金之助邸

大和屋敷邸

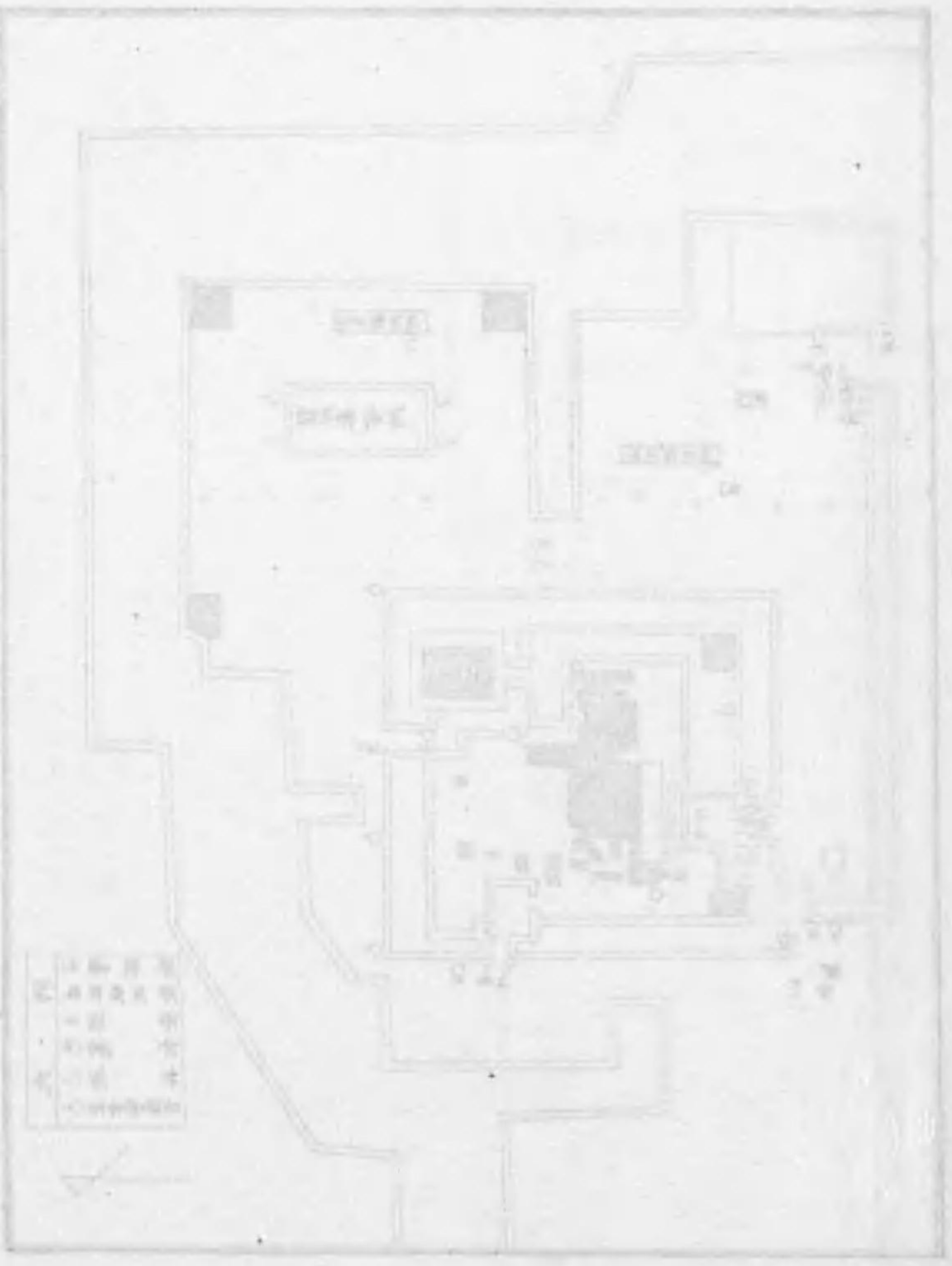


圖要置配宮離屋古名

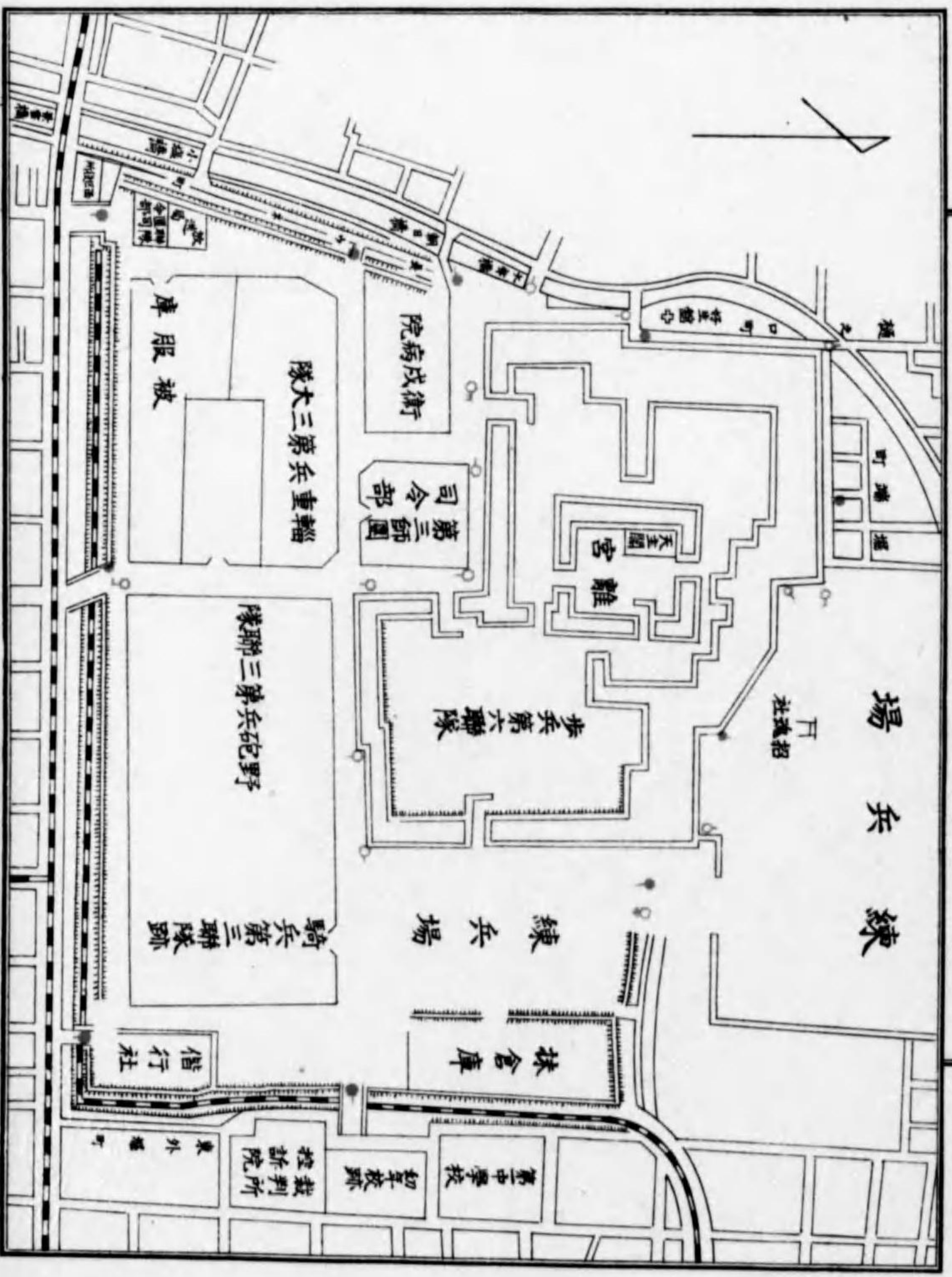




營區各單位配置圖



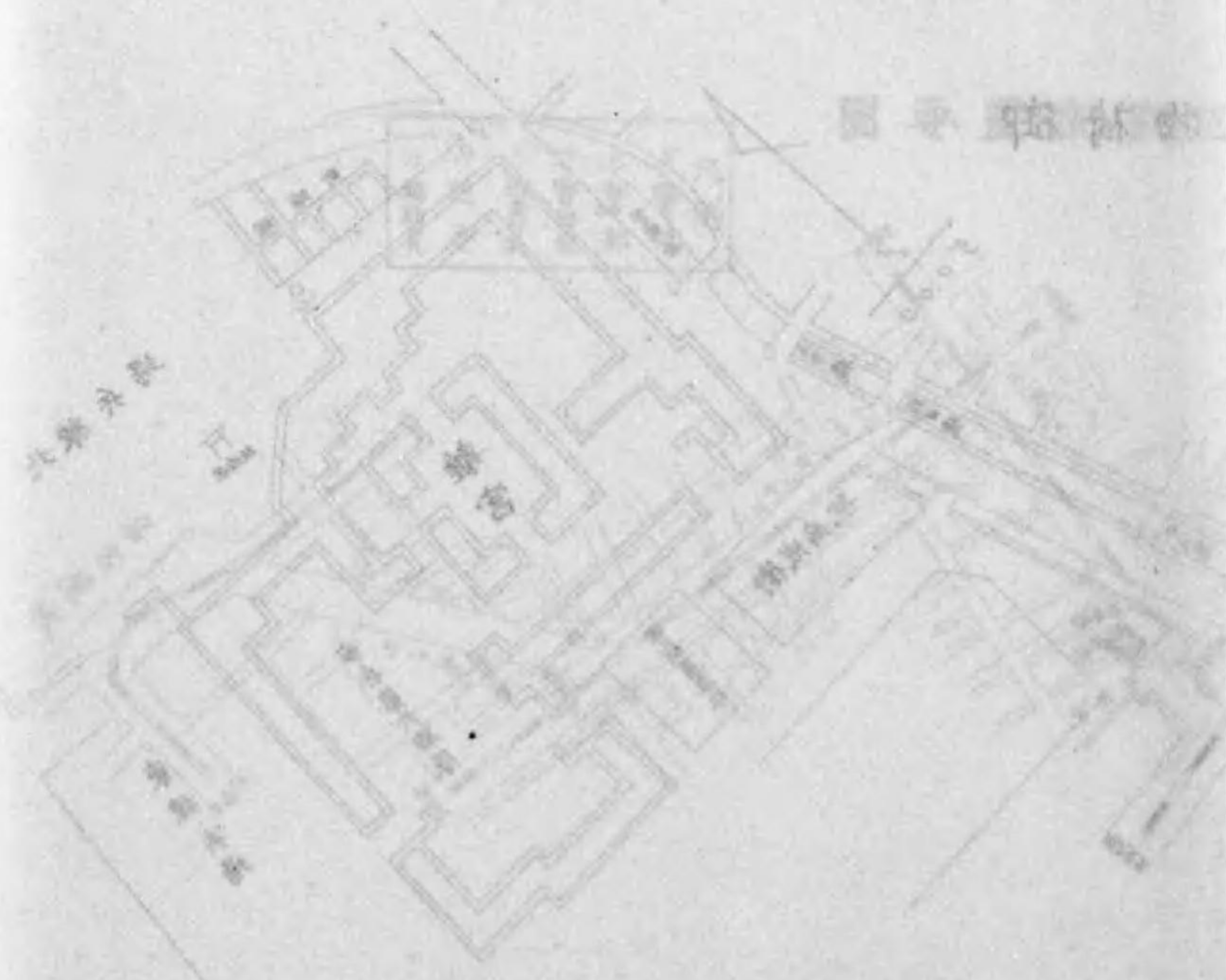
離宮廓外衛配置圖



御荷物道路配置要圖

○	○	○	○	○	○	凡例
補助員	巡查	巡查部長	警部補	警部	警視	





御荷物通路(名古屋驛前を泥江町志摩町明道町長畝町樋)は皇族大臣其他顯官の通路に併用せられたるを以て警部一警部補一巡查部長三巡查三八合計四二名の特別部隊を編成し警衛警備の萬全を期せり。

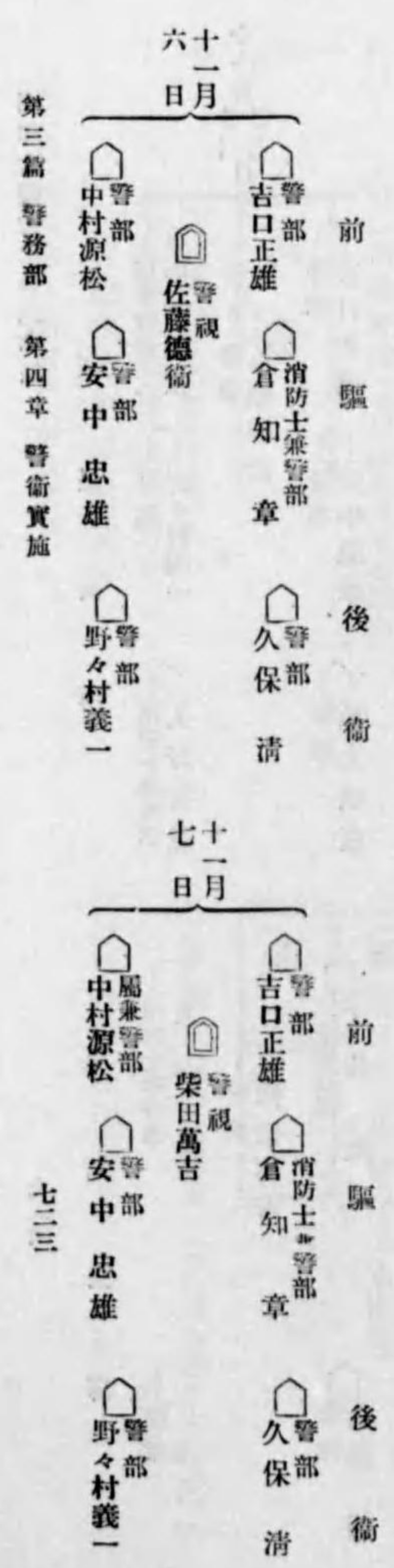
**第七款 鹵簿内、汽車内、警衛配置要領**

**第一項 鹵簿内**

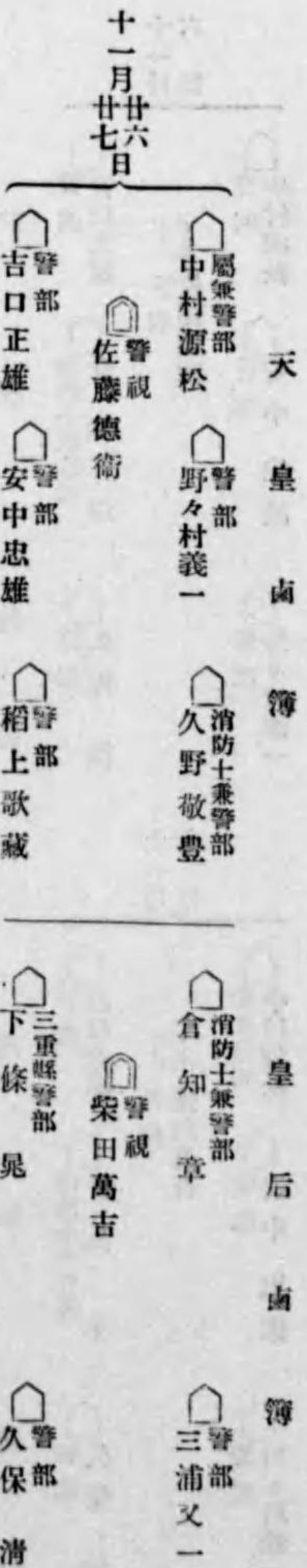
鹵簿内前驅後衛の所要人員は、原則として警視一警部六なるも其の任務最も重大なるを以て昭和三年五月警視二警部二〇名を選抜して嚴格なる規律の下に第三師團輜重兵隊に依嘱し乗馬の指導練習を受け繼續猛練習を爲せし結果行幸還幸共其の事故なく無事任務を遂行せり

十一月廿六日同廿七日は鹵簿の編成に移動ありて、天皇鹵簿に對して前驅として警視一警部四後衛として警部二を配置し、皇后鹵簿に對しては前驅として警視一警部二後衛として警部二を配置せり。

配置



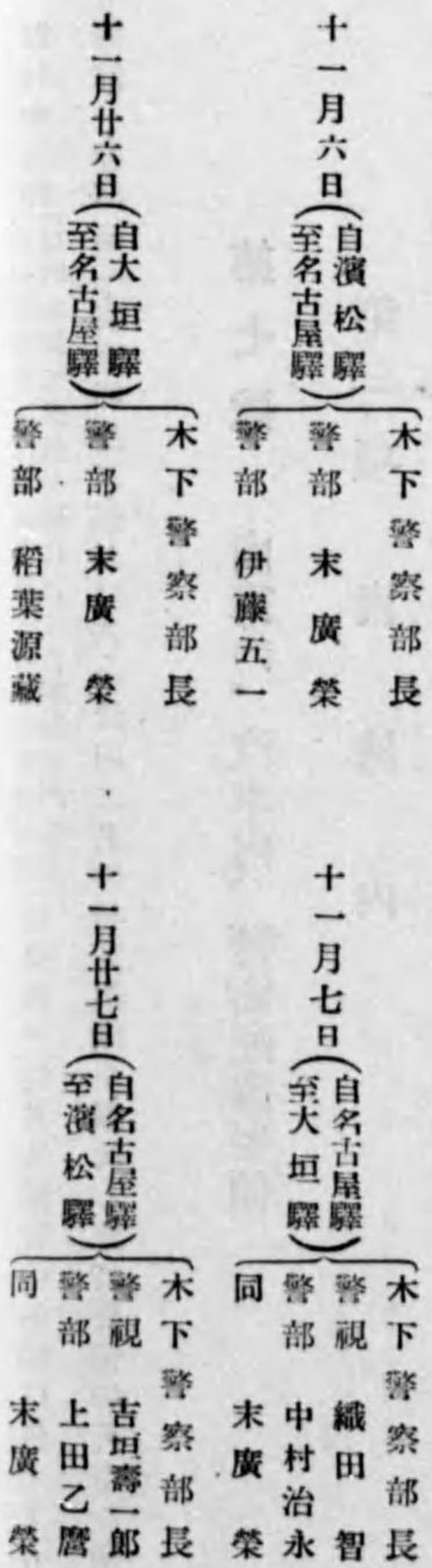
第三篇 警務部 第四章 警衛實施



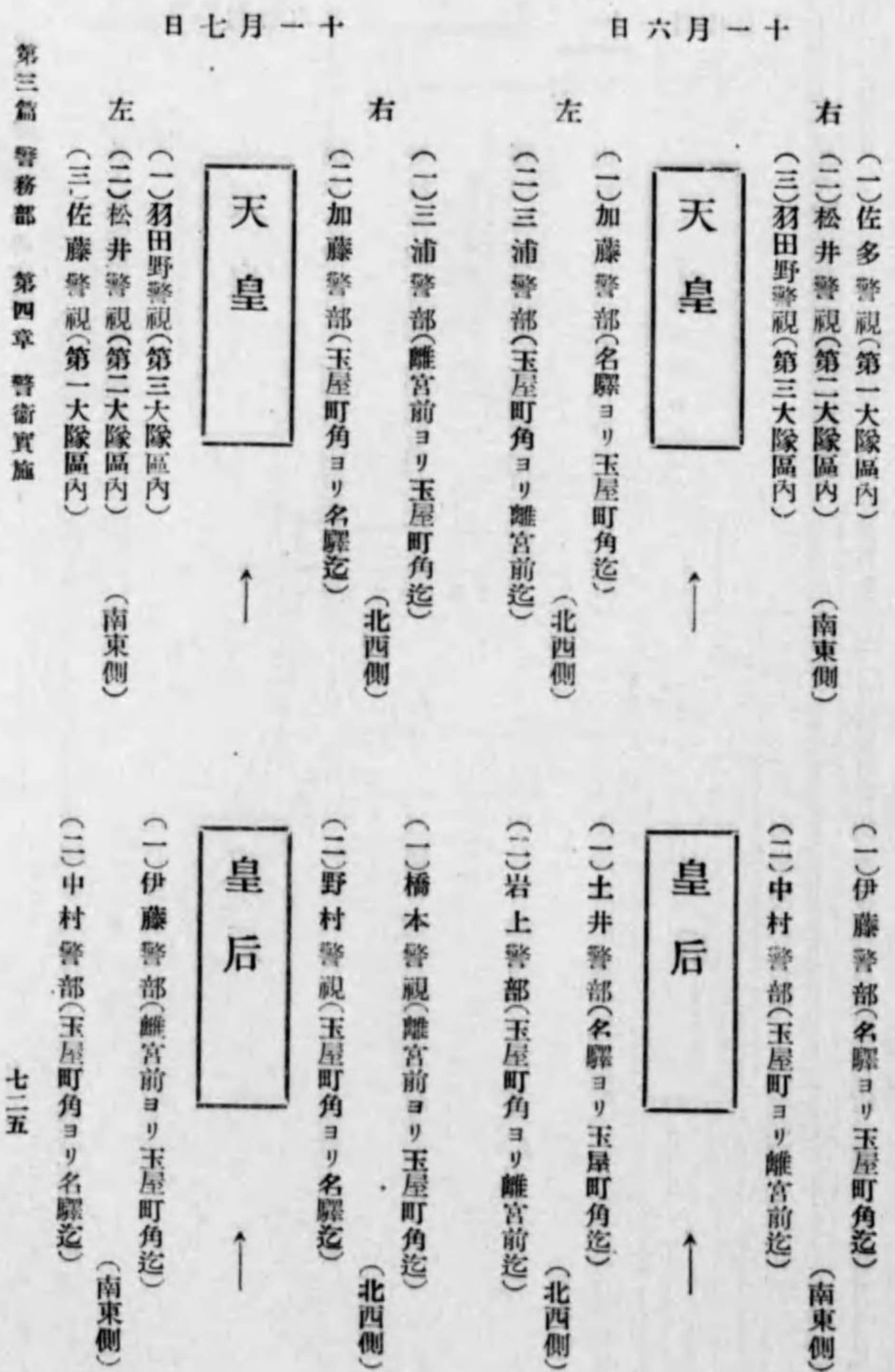
第二項 汽車内

汽車内警衛としては行幸還幸共木下警察部長以下警部二名前車一後車一配置を原則とし何れも縣界迄奉送迎申上たり。

配置



第三項 天皇、皇后側衛配置



日六廿月一十

右 各大隊長擔任區域內從事ス

(南東側)

天皇

皇后

左

橋本警視(自名古屋驛至榮町玉屋町角)  
野村警視(自榮町玉屋町角至離宮正門)

(北西側)

片桐警部(自名古屋驛至榮町玉屋町角)  
山口警部(自榮町玉屋町角至離宮正門)

(北西側)

右

藤田警部(自離宮正門至榮町玉屋町角)  
山口警部(自榮町玉屋町角至名古屋驛)

(西北側)

中村警部(自離宮正門至榮町玉屋町角)  
土井警部(自榮町玉屋町角至名古屋驛)

(西北側)

天皇

皇后

日七廿月一十

左 各大隊長其擔任區域內從事ス

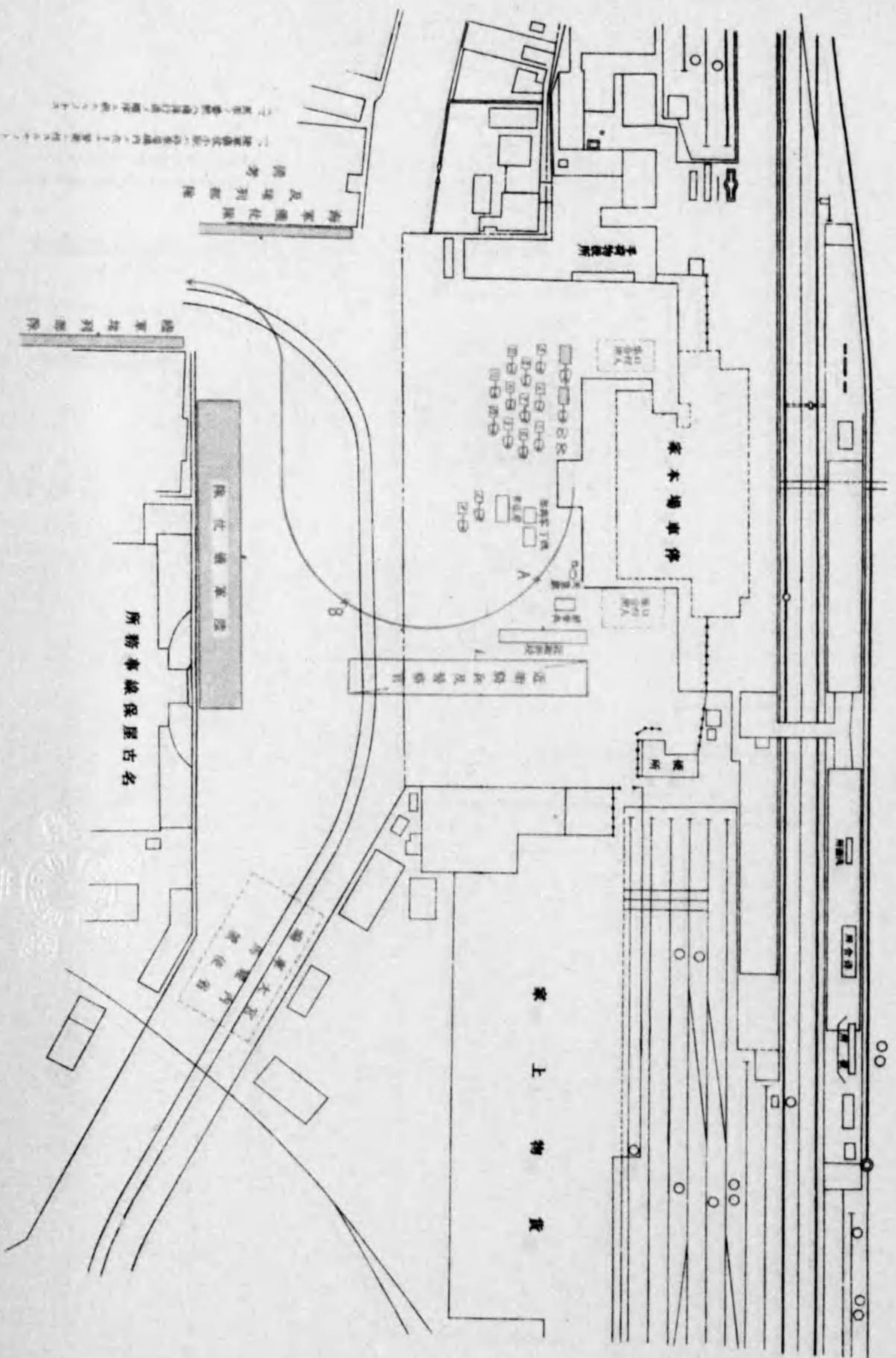
(東南側)

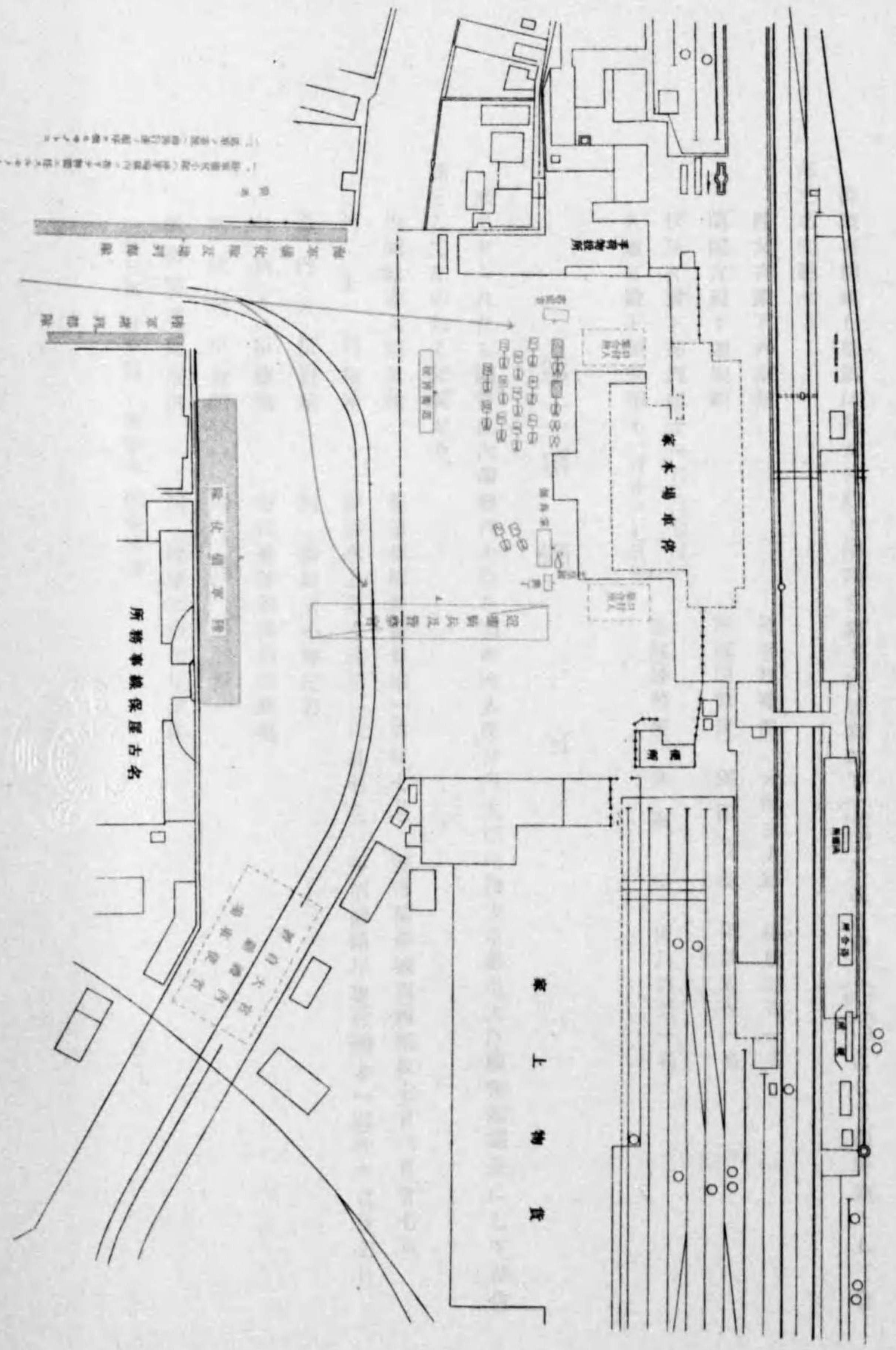
白木警部(自離宮正門至榮町玉屋町角)  
山本警部(自榮町玉屋町角至名古屋驛)

(東南側)

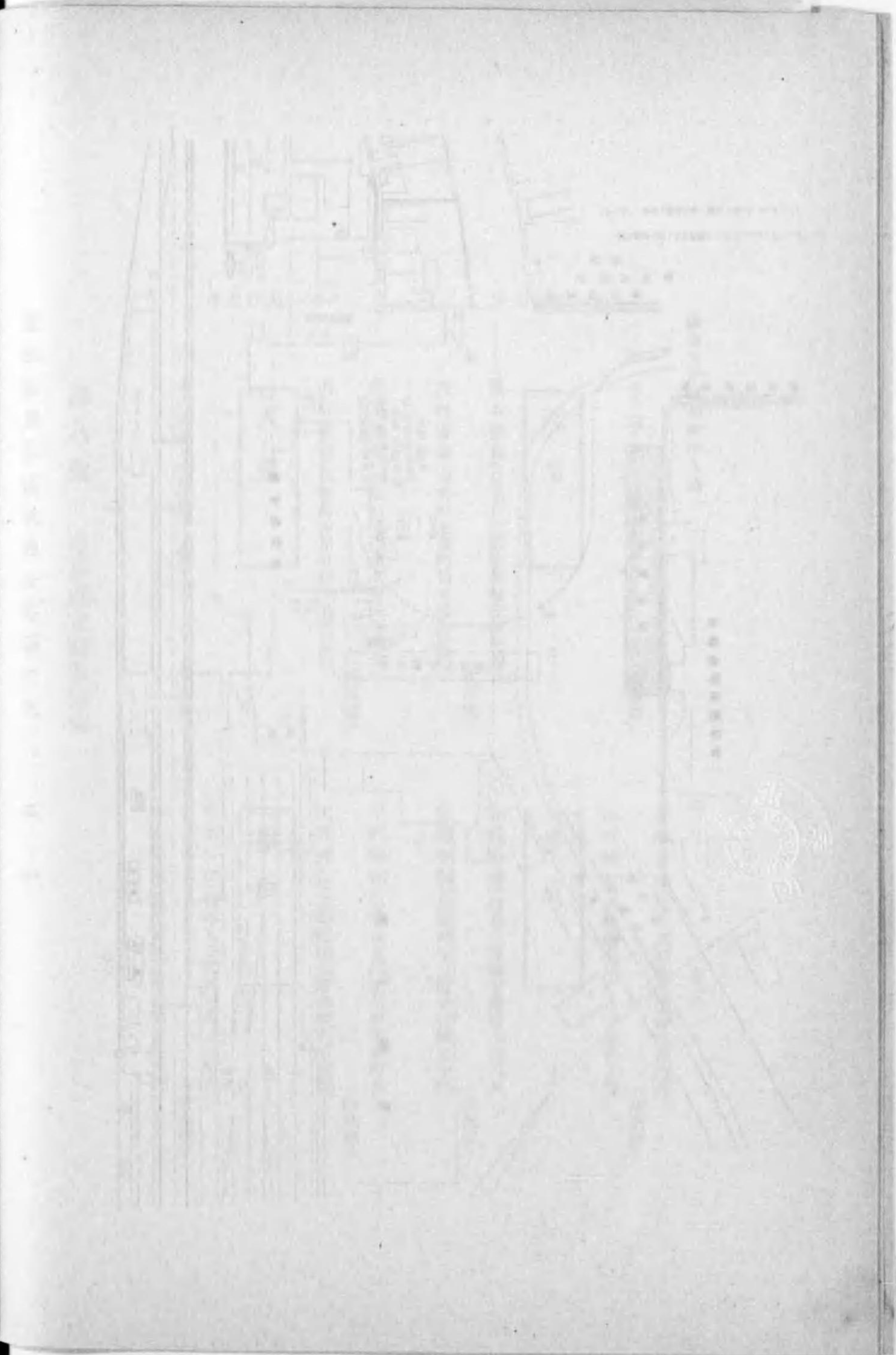
第八款 皇族顯官警衛警備

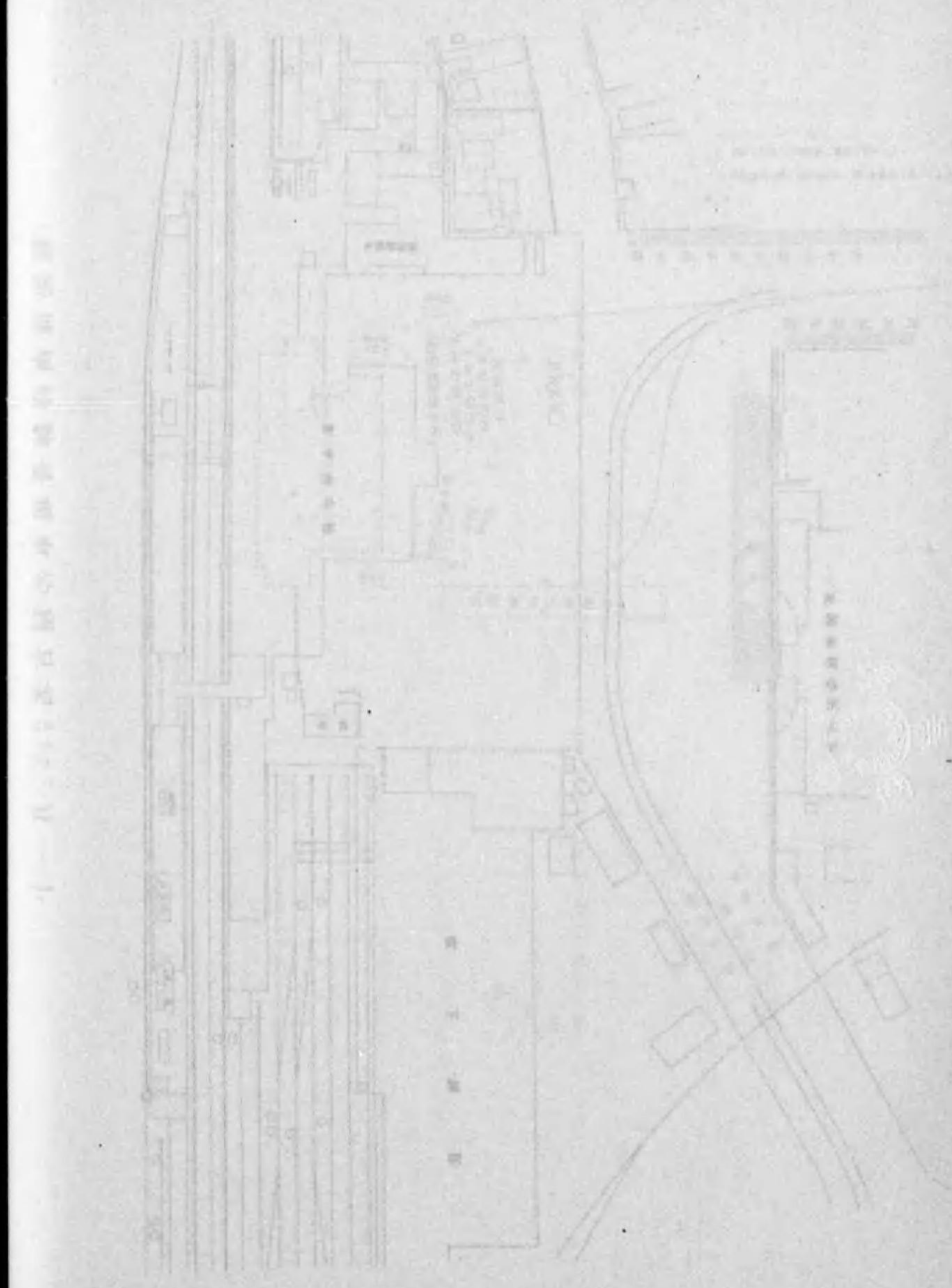
圖要簿國時御發場車停屋古名 昭和六年二月一十





圖要簿函時御著場車停屋古名 日 11月 一十





第一項 皇族

御來名相成し皇族は秩父宮殿下・閑院宮殿下・伏見宮殿下(六日)久邇宮殿下(廿六日)にして、御警衛として警部三名配置せり。

- 秩父宮殿下御旅館 警部建築課 犬飼三太郎 係員巡查一名
- 閑院宮殿下御旅館 警部(田原署) 梶田芳衛 係員巡查一名
- 伏見宮殿下御旅館(十一月六、七日) 警部練習所 末廣 榮 係員巡查一名
- 久邇宮殿下御旅館(十一月廿六、七日)

第二項 顯官

來名せられたる顯官は内閣總理大臣を初め内大臣宮内大臣内務大臣鐵道大臣樞密院議長にして、警備係として左の如く配屬せり。

- 内閣總理大臣旅館 警部新城署藤浪宗一(六日、七日) 警部補新城署西尾政七(廿六日、廿七日)
- 内 大 臣旅館 警部水上署三浦又二(六日、七日) 警部補鍋屋署村瀬金一郎(廿六日、廿七日)
- 宮内大臣旅館 同(鍋屋署)小林庄吉
- 内務大臣旅館 警部補警務課前田繁延
- 鐵道大臣旅館 同(同)丹羽福一
- 樞密院議長旅館 同(建築課)豊田庄太郎

### 第六節 警衛部隊の編成

警衛部隊の編成は特別配置（御寄物通路、車庫内配置）を除き、原則として之れを大隊中隊小隊分隊の四種に区分し、一ヶ大隊は三ヶ中隊一ヶ中隊は三ヶ小隊一ヶ小隊は三分隊一分隊は巡查五名乃至十名とし、大隊長に警視中隊長に警部小隊長に警部補分隊長に巡查部長を充つることとし、添布編成をなせり。

#### 第一款 部隊編成

##### (一) 鐵道警衛第一大隊編成表（十一月六日二十七日分）

大隊長	一	中隊長	二	小隊長	五（内隊附二）	分隊長	一〇
分隊長	六三	計	八一	補助員	二九二		
<p>第一大隊長 警部補 中野 馨</p> <p>第一大中隊長警部 山下雄 藏（豊橋）</p> <p>第一小隊長警部補 鈴木半平（豊橋）</p> <p>第二大中隊長警部 鈴木高之助（御油）</p> <p>第二小隊長警部補 中井榮之助（御油）</p> <p>第三中隊長警部 西野六太郎（富岡）</p> <p>第三小隊長警部補 白井見一（岡崎）</p> <p>第四中隊長警部 大鹿豊隆（安城）</p> <p>第四小隊長警部補 外波山盛吉（岡崎）</p> <p>第五中隊長警部 松岡三右衛門（半田）</p> <p>第五小隊長警部補 倉知光太郎（半田）</p>							
<p>警部補 柴田萬吉（豊橋）</p> <p>警部補 村瀬篤一（豊橋）</p> <p>警部補 野 馨</p> <p>警部補 第一小隊長警部補 中井榮之助（御油）</p> <p>警部補 第二小隊長警部補 中井榮之助（御油）</p> <p>警部補 第三小隊長警部補 白井見一（岡崎）</p> <p>警部補 第四小隊長警部補 外波山盛吉（岡崎）</p> <p>警部補 第五小隊長警部補 倉知光太郎（半田）</p>							
<p>静岡縣界 鹿島 日吉（豊橋）</p> <p>電話係</p>							

##### (二) 鐵道警衛第二大隊編成表（十一月六日、二十七日分）

大隊長	一	中隊長	三	小隊長	四	分隊長	一六
分隊長	八二	計	一〇六	補助員	二九五		
<p>第二大隊長 警部 橋本健之助（岡崎）</p> <p>第一中隊長警部 西野六太郎（富岡）</p> <p>第一小隊長警部補 白井見一（岡崎）</p> <p>第二中隊長警部 大鹿豊隆（安城）</p> <p>第二小隊長警部補 外波山盛吉（岡崎）</p> <p>第三中隊長警部 松岡三右衛門（半田）</p> <p>第三小隊長警部補 倉知光太郎（半田）</p>							
<p>警部 橋本健之助（岡崎）</p> <p>警部 第一中隊長警部 西野六太郎（富岡）</p> <p>警部 第二中隊長警部 大鹿豊隆（安城）</p> <p>警部 第三中隊長警部 松岡三右衛門（半田）</p>							
<p>第一小隊長警部補 白井見一（岡崎）</p> <p>第二小隊長警部補 外波山盛吉（岡崎）</p> <p>第三小隊長警部補 倉知光太郎（半田）</p> <p>第四小隊長警部補 倉知光太郎（半田）</p>							

##### (三) 鐵道警衛第三大隊編成表（十一月六日、二十七日分）

大隊長	一	中隊長	三	小隊長	九	分隊長	二〇（内隊附二）
分隊長	一四一	計	一七四	補助員	二六四		
<p>第三大隊長 警部 片桐正重（彌富）</p> <p>第一中隊長警部 片桐正重（彌富）</p> <p>第一小隊長警部補 中山清司（横須賀）</p> <p>第二中隊長警部 片桐正重（彌富）</p> <p>第二小隊長警部補 佐野野政清（横須賀）</p> <p>第三中隊長警部 片桐正重（彌富）</p> <p>第三小隊長警部補 田中英一（熱田）</p>							
<p>警部 片桐正重（彌富）</p> <p>警部 第一中隊長警部 片桐正重（彌富）</p> <p>警部 第二中隊長警部 片桐正重（彌富）</p> <p>警部 第三中隊長警部 片桐正重（彌富）</p>							
<p>第一小隊長警部補 中山清司（横須賀）</p> <p>第二小隊長警部補 佐野野政清（横須賀）</p> <p>第三小隊長警部補 田中英一（熱田）</p>							



第三大隊長	警部補 相羽 鈴吉	第二中隊長警部	船橋 清次郎(熱田)	第二小隊長警部補	安藤 照吉(熱田)	二個分隊	巡查部長	二名
警部補 相羽 鈴吉	警部補 相羽 鈴吉	第三中隊長警部	北村 京一(門前)	第三小隊長警部補	伊藤 八八(門前)	二個分隊	巡查部長	二十一名
警部補 相羽 鈴吉	警部補 相羽 鈴吉	第一中隊長警部	成瀬 傳(瀬戸)	第一小隊長警部補	可兒 正賢(江川)	二個分隊	巡查部長	十九名
警部補 相羽 鈴吉	警部補 相羽 鈴吉	第二中隊長警部	伊藤 友三郎(西尾)	第二小隊長警部補	伊藤 房次郎(瀬戸)	二個分隊	巡查部長	二名
警部補 相羽 鈴吉	警部補 相羽 鈴吉	第三中隊長警部	野口 文七(西枇杷島)	第三小隊長警部補	大地 銀重(熱田)	三個分隊	巡查部長	二十一名
警部補 相羽 鈴吉	警部補 相羽 鈴吉	第四中隊長警部	中村 壽一(學母)	第四小隊長警部補	林 環(安城)	三個分隊	巡查部長	三名
警部補 相羽 鈴吉	警部補 相羽 鈴吉	第一中隊長警部	野村 又三郎(笹島)	第一小隊長警部補	溝口 光照(笹島)	四個分隊	巡查部長	十八名
警部補 相羽 鈴吉	警部補 相羽 鈴吉	第二中隊長警部	服部 庄太郎(勝川)	第二小隊長警部補	服部 庄太郎(勝川)	三個分隊	巡查部長	五名
警部補 相羽 鈴吉	警部補 相羽 鈴吉	第三中隊長警部	武藤 鹿男(練習所)	第三小隊長警部補	武藤 鹿男(練習所)	三個分隊	巡查部長	三十四名
警部補 相羽 鈴吉	警部補 相羽 鈴吉	第四中隊長警部	梅村 榮三郎(學母)	第四小隊長警部補	山本 正太郎(豊橋)	四個分隊	巡查部長	三名
警部補 相羽 鈴吉	警部補 相羽 鈴吉	第一中隊長警部	山本 正太郎(豊橋)	第一小隊長警部補	野口 健十郎(足助)	三個分隊	巡查部長	二十一名
警部補 相羽 鈴吉	警部補 相羽 鈴吉	第二中隊長警部	野口 健十郎(足助)	第二小隊長警部補		四個分隊	巡查部長	四名
警部補 相羽 鈴吉	警部補 相羽 鈴吉	第三中隊長警部		第三小隊長警部補		四個分隊	巡查部長	二十一名
警部補 相羽 鈴吉	警部補 相羽 鈴吉	第四中隊長警部		第四小隊長警部補		四個分隊	巡查部長	四名

(四) 市内警衛第一大隊編成表 (十一月六日、二十七日ノ分)

(備考) 以下三表共七日二十六日モ同様 但シ〇印變更ノ分ナリ

大隊長	一	中隊長	四	小隊長	十五(内隊附二)	分隊長	四四(内隊附二)
分隊員	二七〇	計	三三四	補助員	二五八		

(五) 市内警衛第二大隊編成表 (十一月六日、二十七日ノ分)

第一大隊長	警部補 平野 菊次	第二中隊長警部	伊藤 友三郎(西尾)	第四小隊長警部補	林 環(安城)	二個分隊	巡查部長	二名
警部補 平野 菊次	警部補 平野 菊次	第三中隊長警部	野口 文七(西枇杷島)	第一小隊長警部補	溝口 光照(笹島)	四個分隊	巡查部長	四名
警部補 平野 菊次	警部補 平野 菊次	第四中隊長警部	中村 壽一(學母)	第二小隊長警部補	服部 庄太郎(勝川)	三個分隊	巡查部長	三名
警部補 平野 菊次	警部補 平野 菊次	第一中隊長警部	野村 又三郎(笹島)	第三小隊長警部補	武藤 鹿男(練習所)	三個分隊	巡查部長	十五名
警部補 平野 菊次	警部補 平野 菊次	第二中隊長警部	服部 庄太郎(勝川)	第四小隊長警部補	梅村 榮三郎(學母)	三個分隊	巡查部長	三名
警部補 平野 菊次	警部補 平野 菊次	第三中隊長警部	武藤 鹿男(練習所)	第一小隊長警部補	山本 正太郎(豊橋)	三個分隊	巡查部長	二十一名
警部補 平野 菊次	警部補 平野 菊次	第四中隊長警部	梅村 榮三郎(學母)	第二小隊長警部補	野口 健十郎(足助)	四個分隊	巡查部長	四名
警部補 平野 菊次	警部補 平野 菊次	第一中隊長警部	山本 正太郎(豊橋)	第三小隊長警部補		四個分隊	巡查部長	二十一名
警部補 平野 菊次	警部補 平野 菊次	第二中隊長警部	野口 健十郎(足助)	第四小隊長警部補		四個分隊	巡查部長	四名
警部補 平野 菊次	警部補 平野 菊次	第三中隊長警部						
警部補 平野 菊次	警部補 平野 菊次	第四中隊長警部						

大隊長 一 中隊長 四 小隊長 十七(内隊附一) 分隊長 六一(内隊附八)  
分隊員 三二一 計 三九四 補助員 九二

第一中隊長警部 坂井爲次郎(鍋屋)	第一小隊長警部補 中垣春一(江川)	第二小隊長警部補 佐藤齊吉(勝川)	第三小隊長警部補 山本茂(瀬戸)	第四小隊長警部補 岡田仲次(門前)	第一小隊長警部補 三輪田清(布袋)	第二小隊長警部補 平子松市(大濱)	第三小隊長警部補 鈴木清(岡崎)	第四小隊長警部補 山崎忠次郎(田原)	第一小隊長警部補 柘植建太郎(大山)	第二小隊長警部補							
第二中隊長警部 原田品次郎(大濱)	第三小隊長警部補 松田德三郎(大山)	第四小隊長警部補 川井甚一(半田)	第一小隊長警部補 權田留次郎(築地)	第二小隊長警部補 小林三重三(布袋)	第三小隊長警部補 武川文三(門前)	第四小隊長警部補 藤田治六(新城)	橋本信(門前)	松田德三郎(大山)	川井甚一(半田)	權田留次郎(築地)	小林三重三(布袋)	武川文三(門前)	藤田治六(新城)	橋本信(門前)			
第一中隊長警部 坂井爲次郎(鍋屋)	第一小隊長警部補 中垣春一(江川)	第二小隊長警部補 佐藤齊吉(勝川)	第三小隊長警部補 山本茂(瀬戸)	第四小隊長警部補 岡田仲次(門前)	第一小隊長警部補 三輪田清(布袋)	第二小隊長警部補 平子松市(大濱)	第三小隊長警部補 鈴木清(岡崎)	第四小隊長警部補 山崎忠次郎(田原)	第一小隊長警部補 柘植建太郎(大山)	第二小隊長警部補	第三小隊長警部補 松田德三郎(大山)	第四小隊長警部補 川井甚一(半田)	第一小隊長警部補 權田留次郎(築地)	第二小隊長警部補 小林三重三(布袋)	第三小隊長警部補 武川文三(門前)	第四小隊長警部補 藤田治六(新城)	橋本信(門前)
第一中隊長警部 坂井爲次郎(鍋屋)	第一小隊長警部補 中垣春一(江川)	第二小隊長警部補 佐藤齊吉(勝川)	第三小隊長警部補 山本茂(瀬戸)	第四小隊長警部補 岡田仲次(門前)	第一小隊長警部補 三輪田清(布袋)	第二小隊長警部補 平子松市(大濱)	第三小隊長警部補 鈴木清(岡崎)	第四小隊長警部補 山崎忠次郎(田原)	第一小隊長警部補 柘植建太郎(大山)	第二小隊長警部補	第三小隊長警部補 松田德三郎(大山)	第四小隊長警部補 川井甚一(半田)	第一小隊長警部補 權田留次郎(築地)	第二小隊長警部補 小林三重三(布袋)	第三小隊長警部補 武川文三(門前)	第四小隊長警部補 藤田治六(新城)	橋本信(門前)

第二大隊長 警部 井隆 (門前)  
警部補 村山謙一  
巡查部長 渡邊貫一郎  
第三中隊長警部

(六) 市内警衛第三大隊編成表 (十一月六日、二十七日ノ分)

大隊長 一 中隊長 四 小隊長 十八 分隊長 七五(内隊附一五)  
分隊員 三九二 計 四九〇 補助員 一二二

全 黒川秋夫	全 丸山市造	全 若林榮次	全 鈴木常次	全 小澤專治	全 久米信藏	全 渡邊德治	堀田坂十郎(大山)	松田德三郎(大山)	川井甚一(半田)	權田留次郎(築地)	小林三重三(布袋)	武川文三(門前)	藤田治六(新城)	橋本信(門前)
全 黒川秋夫	全 丸山市造	全 若林榮次	全 鈴木常次	全 小澤專治	全 久米信藏	全 渡邊德治	堀田坂十郎(大山)	松田德三郎(大山)	川井甚一(半田)	權田留次郎(築地)	小林三重三(布袋)	武川文三(門前)	藤田治六(新城)	橋本信(門前)
全 黒川秋夫	全 丸山市造	全 若林榮次	全 鈴木常次	全 小澤專治	全 久米信藏	全 渡邊德治	堀田坂十郎(大山)	松田德三郎(大山)	川井甚一(半田)	權田留次郎(築地)	小林三重三(布袋)	武川文三(門前)	藤田治六(新城)	橋本信(門前)
全 黒川秋夫	全 丸山市造	全 若林榮次	全 鈴木常次	全 小澤專治	全 久米信藏	全 渡邊德治	堀田坂十郎(大山)	松田德三郎(大山)	川井甚一(半田)	權田留次郎(築地)	小林三重三(布袋)	武川文三(門前)	藤田治六(新城)	橋本信(門前)

岩上段助(津島)

第三小隊長警部補 中村統治(津島) 四個分隊 巡查部長 四名  
第四小隊長警部補 村田與一郎(新榮) 三個分隊 巡查部長 二十七名  
第一小隊長警部補 北島正己(一宮) 二個分隊 巡查部長 三名  
第二小隊長警部補 安井專一(新榮) 六個分隊 巡查部長 二十一一名  
第三小隊長警部補 安藤真一(一宮) 三個分隊 巡查部長 十三名  
第四小隊長警部補 太田森次郎(練習所) 四個分隊 巡查部長 六名  
第五小隊長警部補 清水勝利(一宮) 三個分隊 巡查部長 三十四名  
第一小隊長警部補 吉田將照(津島) 三個分隊 巡查部長 三名  
第二小隊長警部補 細井兵三郎(熱田) 三個分隊 巡查部長 十八名  
第三小隊長警部補 内木銀一(江川) 三個分隊 巡查部長 三名  
第四小隊長警部補 同四小隊長警部補 大竹亮市(新榮) 四個分隊 巡查部長 二十名  
巡查部長 四名  
巡查 二十五名

第三大隊長

視察 羽田野金作 (新榮)

第二中隊長警部 宮地達次(一宮)

隊附

巡查部長 藤井島吉  
近藤孫太郎  
前田豊三郎  
鳥居清次郎  
花岡又七  
深草千太郎

第三中隊長警部 武田石松(新榮)

第五小隊長警部補 西川卯一(彌富) 三個分隊 巡查部長 四名  
第一小隊長警部補 島田謙逸(鍋屋) 二個分隊 巡查部長 二十五名  
第二小隊長警部補 山下龜太郎(鍋屋) 二個分隊 巡查部長 三名  
第三小隊長警部補 柘植末一(新榮) 三個分隊 巡查部長 二十三名  
第四小隊長警部補 吉田秋十(御油) 三個分隊 巡查部長 二名  
巡查部長 十六名  
巡查 十七名  
巡查部長 三名  
巡查 二十四名

同 高田顯道  
同 鈴木保一  
同 井出春次  
同 服部只一  
同 今枝繁臣  
同 杉浦金次郎  
同 關谷伊比雄  
同 夏目新七郎  
同 渡邊忠治

第四中隊長警部 藤田太郎(鍋屋)

鐵道警衛第四大隊編成表 (十一月七日、二十六日分)

大隊長 一 中隊長 三 小隊長 八(內隊附二) 分隊長 一三  
分隊員 一二二 計 一三七 補助員 二四〇

第一中隊長警部 土井

宏(江川)

第一小隊長警部補 中垣春一(江川)

三個分隊 巡查部長 三名  
巡查 二十三名

第二小隊長警部補 三輪田

清(布袋)

二個分隊 巡查部長 二名  
巡查 二十名

第一小隊長警部補 相羽鈴吉(西批)

把島

二個分隊 巡查部長 二名  
巡查 十三名

第二小隊長警部補 中野證七(稻澤)

二個分隊 巡查部長 二名  
巡查 十九名

第四大隊長

視察 佐多貞熊 (江川)

第二中隊長警部 山本繁臣(西批)

把島

第一小隊長警部補 相羽鈴吉(西批)

二個分隊 巡查部長 二名  
巡查 十三名

隊部補附 北島正己 第三中隊長警部  
 岐阜縣界巡查 木村武正 (一宮)  
 第一小隊長警部補 野口文七(西批) 二個分隊 巡查部長 二名  
 第二小隊長警部補 久保彰彦(葉栗) 二個分隊 巡查部長 二名  
 巡查 二十二名  
 巡查 十五名

### 第二款 警衛任務轉換

六日市内御道筋警衛従事員にして七日鐵道警衛に從事するもの左の如し

#### 市内第一大隊ヨリ鐵道第四大隊へ轉換

鐵道第四大隊附 警部補 可兒正賢(江川)  
 鐵道第四大隊第三中隊第二小隊 同 久保彰彦(葉栗) 四名  
 外同 大隊へ轉換者 巡查部長 二名  
 巡查 五名  
 豫備員 巡查 四名  
 市内第二大隊ヨリ鐵道第四大隊へ轉換  
 鐵道第四大隊第二中隊第二小隊 警部補 中野謙七(稻澤) 四名  
 外同 大隊へ轉換者 巡查部長 二名  
 同 巡查 一名  
 豫備員 巡查 一名

#### 市内第三大隊ヨリ鐵道第四大隊へ轉換

鐵道第四大隊附 警部補 北島正己(二宮) 五名  
 外同 大隊へ轉換者 巡查部長 四七名  
 同 巡查 五名  
 六日(市内御道筋)警衛従事員にして七日鐵道第四大隊警衛に從事すべき者左の如し  
 豫備員 巡查 五名  
 警衛部隊に編入せられざるものにして勤務未定者の配屬左の如し

十一月六日、七日

#### 市内第一大隊

豫備員 警部補 久保彰彦(葉栗)  
 同 同 山田長五郎(舉母)  
 同 同 酒井金一(西尾)  
 同 同 巡查部長 一名  
 同 同 巡查 三名

#### 市内第二大隊

豫備員 警部補 中野謙七(稻澤)  
 同 同 福(和)京太郎(田原)  
 第三篇 警務部 第四章 警衛實施 七三七

同 杉浦 惣三郎(半田) 一名  
 同 巡查部長 一名  
 同 巡查 三一名

市内第三大隊  
 同 警部補 河合 輝 雄(津島)  
 同 同 吉田 茂(富岡)  
 同 同 服部 政 助(一宮)  
 同 同 巡查部長 一名  
 同 同 巡查 三一名

六日鐵道第一大隊警衛従事員にして七日市内警衛に従事すべきもの左の如し

七日市内第一大隊へ轉換者

市内第一大隊第二中隊第二小隊 警部補 村 瀬 篤 一(豊橋) 二名  
 同 巡查部長 二名  
 同 同 巡查 一四名

七日市内第三大隊へ轉換者

市内第三大隊第四中隊第四小隊 巡查部長 二名  
 同 同 巡查 一六名

六日鐵道第二大隊警衛従事員にして七日市内警衛に従事すべきもの左の如し

七日市内第二大隊へ轉換者

市内第二大隊第一中隊第一小隊 巡查部長 二名  
 同 同 巡查 一二名

七日市内第三大隊へ轉換者

市内第三大隊第二中隊第三小隊 巡查部長 一名  
 同 同 巡查 六名

六日鐵道第二大隊警衛従事員として七日鐵道警衛に従事すべきもの左の如し

七日鐵道第四大隊へ轉換者

鐵道第四大隊第二中隊第一小隊 巡查 二〇名

六日鐵道第三大隊警衛従事員ニシテ七日鐵道第四大隊第二中隊第一小隊へ轉換 警部補 相 羽 鈴 吉(西枇杷島)

六日鐵道第三大隊警衛従事員にして七日市内警衛に従事すべきもの左の如し

七日市内第一大隊へ轉換者

市内第一大隊第一中隊第一小隊 警部補 安 藤 照 吉(熱田) 二名  
 同 同 巡查部長 二名  
 同 同 巡查 一四名

七日市内第二大隊へ轉換者

市内第二大隊第二中隊第一小隊 警部補 秋 田 鑑 一(門前) 二名  
 同 同 巡查部長 七三九

七日市内第三大隊へ轉換者

同

七四〇  
一〇名

市内第三大隊第二中隊第一小隊

警部補 佐野 政清 (横須賀)

同

同 四名

六日鐵道沿線従事員にして七日市内警衛に従事すべき者左の如し

同

二五名

市内第一大隊豫備員

警部補 中山 清司 (横須賀)

同

同 倉地 光太郎 (牛田)

同

同 市川 鏡次 (熱田)

同

同 武内 伊四郎 (征島)

同

同 巡查部長 一名

同

同 巡查 五五名

六日鐵道沿線従事員にして七日市内警衛に従事すべき者左の如し

市内第二大隊豫備員

警部補 菅生 利吉 (御油)

同

同 白井 見一 (岡崎)

同

同 田中 英一 (熱田)

同

同 伊藤 八八 (門前)

同

同 中井 榮之助 (御油)

同

同 巡查部長 一〇名

同

同 巡查 五六名

六日鐵道沿線従事員にして七日市内警衛に従事すべき者左の如し

市内第三大隊豫備員

警部補 鈴木 平 (豊橋)

同

同 外波山 盛吉 (岡崎)

同

同 彦坂 品二 (安城)

同

同 巡查部長 一二名

同

同 巡查 五五名

警衛部隊に編入せられざるものにして勤務未定者の配属左の如し

十一月廿六日 廿七日

市内第一大隊

豫備員

警部補 久保 彰彦 (桑葉)

同

同 山田 長五郎 (舉母)

同

同 酒井 金一 (西尾)

同

同 稲垣 八十一 (征島)

同

同 巡查部長 一名

同

同 巡查 四六名

市内第二大隊

豫備員

警部補 中野 澄七 (稻澤)

同

同 福和市太郎 (田原)

昭和大禮愛知縣記念録

七四三

同 杉浦惣三郎(牛田)  
 同 伊藤俊一(門前)  
 同 林仲之助(熱田)  
 同 巡査部長 一名  
 同 巡査 七二名  
 市内第三大隊  
 豫備員  
 同 河合輝雄(津島)  
 同 吉田茂(富岡)  
 同 服部政助(二宮)  
 同 山田真吉(新榮)  
 同 巡査部長 一名  
 同 巡査 五一名  
 警衛本部  
 警部補 村瀬金三郎(鍋屋)  
 巡査部長 一名  
 巡査 一七名  
 廿六日鐵道第四大隊警衛従事員にして廿七日市内警衛に従事するもの左の如し  
 鐵道第四大隊ヨリ第一大隊へ轉換  
 市内第一大隊附  
 警部補 久保彰彦(葉栗)

同

同 可見正賢(江川)

同

同 巡査部長 四名

同

同 巡査 二八名

鐵道第四大隊ヨリ市内第二大隊へ轉換

市内第二大隊附

警部補 中野證・七(稻澤)

同

同 中垣春一(江川)

同

同 巡査部長 四名

同

同 巡査 二三名

鐵道第四大隊ヨリ市内第三大隊へ轉換

市内第三大隊第二中隊第一小隊

警部補 北島正巳(二宮)

同

同 巡査部長 七名

同

同 巡査 四七名

二十六日鐵道第四大隊警衛従事員にして二十七日鐵道第三大隊警衛に従事すべき者左の如し

鐵道第三大隊附

警部補 相羽鈴吉(西枇杷島)

同

同 巡査 四名

二十六日市内第一大隊警衛従事員にして廿七日鐵道警衛に従事すべきもの左の如し

廿七日鐵道第一大隊へ轉換者

鐵道第一大隊第一中隊第一小隊

警部補 村瀬篤一(豊橋)

第三篇 警務部 第四章 警衛實

七四三

二十七日鐵道第三大隊へ轉換者

鐵道第三大隊第二中隊第二小隊

警部補 安藤 照吉(熱田)

同

巡查部長 二名

同

巡查 一四名

二十六日市内警衛豫備員にして二十七日鐵道警衛に従事すべき者左の如し

鐵道第一大隊

巡查部長 二名

同

巡查 三三名

鐵道第二大隊

警部補 倉地 光太郎(牛田)

同

巡查部長 五名

鐵道第三大隊

警部補 中山 清司(横須賀)

同

同 市川 鏡次(熱田)

同

同 武内 伊四郎(笹島)

同

巡查部長 四名

同

巡查 二一名

廿六日市内第二大隊警衛従事員にして二十七日鐵道警衛に従事すべきもの左の如し

鐵道第二大隊第二中隊第一小隊

巡查部長 二名

同

巡查 二名

二十七日鐵道第二大隊へ轉換者

同

巡查 一一名

二十七日鐵道第三大隊へ轉換者

鐵道第三大隊第三中隊第一小隊

警部補 秋田 鑑一(門前)

同

巡查部長 二名

同

巡查 一〇名

二十六日鐵道第四大隊警衛従事員にして二十七日鐵道警衛に従事すべきもの左の如し

二十七日鐵道第二大隊へ轉換者

鐵道第二大隊第一中隊第一小隊

巡查 二〇名

二十六日市内警衛豫備員にして二十七日鐵道警衛に従事すべきもの左の如し

鐵道第一大隊

警部補 中井 榮之助(御油)

同

同 菅 生利(吉(同))

鐵道第二大隊

同 白井 見一(岡崎)

同

巡查部長 五名

同

巡查 三三名

鐵道第三大隊

警部補 田中英一(熱田)

同

同 伊藤 八八(門前)

同

巡查部長 四名

同

巡查 一八名



昭和十一年大禮堂知縣記念誌

二十六日市内第三大隊警衛従事員にして二十七日鐵道警衛に従事すべき者左の如し

二十七日鐵道第一大隊へ轉換者

鐵道第一大隊第二中隊

同

二十七日鐵道第二大隊へ轉換者

鐵道第二大隊

同

二十七日鐵道第三大隊へ轉換者

鐵道第三大隊

同

二十六日市内警衛豫備員にして二十七日鐵道警衛に従事すべき者左の如し

鐵道第一大隊

同

鐵道第二大隊

同

同

七四六

巡查部長 二名

巡查 一六名

巡查部長 一名

巡查 六名

警部補 佐野 政 清(横須賀)

巡查部長 四名

巡查 二五名

警部補 鈴木 平(豊橋)

巡查部長 四名

警部補 外波 山盛吉(岡崎)

同 彦坂 品二(安城)

巡查部長 三名

巡查 六名

鐵道第三大隊

巡查部長 四名

巡查 四九名

第三款 警衛員宿泊統計

部隊名	宿舎	所在地	十一月十一日	十一月十二日	十一月十三日	十一月十四日	十一月十五日	十一月十六日
鐵道第一大隊	大日本武徳會豊橋支所	豊橋市道六町	四二	四二	四二	四二	四二	四二
同	南部尋常小學校	寶飯郡御津村	四二	四二	四二	四二	四二	四二
鐵道第二大隊	寶友座	岡崎市柱町	五三	五三	五三	五三	五三	五三
同	安城警察署	碧海郡安城町	二八	二八	二八	二八	二八	二八
同	大府商工會事務所	知多郡大府町	二八	二八	二八	二八	二八	二八
鐵道第三大隊	光明忠院	知多郡大高町	四一	四一	四一	四一	四一	四一
同	圓通寺	名古屋市南區熱田新宮坂町	一〇七	一〇七	一〇七	一〇七	一〇七	一〇七
市内第一大隊	光明院	同 市西區花車町	二八九	二八三	三〇一	二八八	二八九	二八九
市内第二大隊	東洋紡績事務所跡	名古屋市中區新柳町	一六六	一七四	一七九	一八五	一六六	一六六
市内第三大隊	東別院	名古屋市中區下茶屋町	一七八	一七九	一七八	一七九	一七八	一七八
同	警察練習所	名古屋市中區新榮町	二一〇	二二七	二一〇	二二七	二一〇	二一〇
同	大成尋常高等小學校	名古屋市東區泉服町	一九二	一七三	一九二	一七三	一九二	一九二

鐵道第四大隊	清音寺	名古屋市西區枇杷島町	九四	九四
御特別隊	公會堂	一宮市南柳戸	四六	四六
路特別隊	警察練習所	名古屋市中區新榮町	三四	三四
離宮廊外警衛隊	水野恒吉、水谷文治	名古屋市西區長畝町	二二	二二

第七節 大禮御警衛事故及狀況報告書

第一款 制止及注意事項

件名	十一月六日		十一月七日		十一月二十六日		十一月二十七日	
	市	御道	市	御道	市	御道	市	御道
妨害物ヲ除去セシメタルモノ	二〇二	三	四	六	一八五	五	一〇一	三
家屋牆壁等ニシテ危險ノ虞アルモノニ對シ相當防備ヲナサシメタルモノ	九	七	二	三	七	一	二	八
狂犬若クハ吠咬ノ癖アル犬ヲ彷徨セシメタルモノ	二	二〇	一	一	二	二	一	一〇
二階又ハハ物乾臺等ニ見苦シキ物ヲ出シタルモノ	七	一五	七	一	天	七	一〇	一〇
二階其他階下スヘキ高所ニ於テ拜觀セムトシタルモノ	七	二七	四	一〇	四	五	四	七
窓又ハ簾若クハ物陰ヨリ透見セムトシタルモノ	七	四	三	一〇	九	九	六	六
驟然トシテ横合ヨリ拜觀ニ出タルモノ	天	四〇	五	七	二五	三	二〇	三

件名	十一月六日		十一月七日		十一月二十六日		十一月二十七日	
	市	御道	市	御道	市	御道	市	御道
頰冠、鉢巻、褌裏等見苦シキ體裁ヲ爲スモノ	三九	一七	一六	一七	二五	六	元	二〇
鹵簿御通過ノ際喫煙飲食又ハ雜言ヲ爲スモノ	三三	五	七	三	二〇	二	五	五
危險物、覆蓋ナキ不潔物又ハ臭氣ヲ發散スルモノヲ運搬スルモノ	一	五	四	二	一	五	三	元
風聲又ハ御召車ヲ指シ又ハ手ヲ翳スモノ	一五	二六	三	二	三五	〇	七	四
鹵簿又ハ御列ノ後方ヲ駈抜ケムトスルモノ	一	一	六	一	一	一	一	一
鹵簿又ハ御列ヲ撮影スルモノニテ不敬ニ涉ルモノ	一	一	一	一	一	一	一	一
銃聲ノ風聲又ハ御召車ニ達スル距離ニアリテ狩獵若クハ發砲等爲サムトスルモノ	一	一	一	一	一	一	一	一
手旗其他ノモノヲ振ル等馬匹驚逸ノ虞アル行爲アルモノ	三	一	一	一	一	一	一	一
樹木ニ登攀シ又ハ車上馬上ヨリ拜觀セムトスルモノ	七	九	一	一	一	一	一	一
褌袒裸體其他見苦シキ服裝又ハ所業アルモノ	七	九	一	一	一	一	一	一
他人ノ邪魔トナル物件ヲ携帯スルモノ	三	八	一	一	一	一	一	一
其他	四〇	一五	一	一	七	四	一	一
計	一、六八	九二	六七	二八	一、三六	三二	四六	七四

第二款 拜觀者人員數

内 譯	十一月六日		十一月七日		十一月二十六日		十一月二十七日	
	市道筋内	鐵道沿線	同	同	同	同	同	同
官 公 吏	五、八八	一、〇四八	一、六九	三、五	八、三六	三、七	七、四七	三、九三
諸 團 體	二〇、〇四	四〇、六六	三、四〇〇	六、元二	二六、元九	五、二二	一四、七元	八、九四
學校職員生徒	一六、三三	四三、三三	六、二八二	一七、四八〇	元、六七	一五、九四九	三、四〇〇	三、三四八
其他	六、六三	六、四〇	四、五八	九、八七	一三、九三五	一〇、九三	一〇、九三	一五、三〇
計	三三、七五	一三三、一八	二〇、九三	四四、二天	三三、四二天	四、七三	二九、〇五	七、六五

第三款 御警衛従事人員

區 分	十一月六日		十一月七日		十一月二十六日		十一月二十七日	
	市道筋内	鐵道沿線	同	同	同	同	同	同
警 視 部	三	三	三	一	三	四	三	二
警 部 補	六	八	三	三	二〇	八	一四	九
警 査 長	五	六	五	八	七〇	一五	六二	一八
巡 査 部 長	一、九	一、八	二〇八	三三	二〇七	三六	一〇	一八
巡 査 係	一、〇七	一、九	一、〇七	二、五	一、三六	一、五	一、二五	二、九〇
高等 警察 員	二〇八	二四	一	一	一	一	一	一
補 助 員	四六	八三	四三	二四〇	四六九	三九三	四四	八六
總 計	二、〇〇八	一、三三	二、〇八	三、九〇	二、〇三五	六、九	一、八七	一、〇二

第八節 他府縣御警衛應援

第一款 京 都 府

本縣よりの京都府應援特高係警察官は、九月三十日出張大禮終了迄彼地に滞留御警衛の任務に服したり、依て京都府池田警察部長は感謝の意を表し、本縣警察部長同警務課長に木盃各一組を贈與せり

第二款 三 重 縣

三重縣御警衛應援の爲め十一月十五日より二十三日迄九日間、彼地に滞留御警衛に當る事となれり、出張せる人員は別表の如くにして、引率者警部山下雄藏、龜山支隊警部補村山謙一、柘植支隊警部末廣榮、宇治山田第九支隊警衛係により、十一月十五日午前十時三十六分名古屋驛發臨時列車にて出發、午後三時迄に所屬隊所在地に到着せり、出發前人員點呼服裝検査を爲し、次で警察部長の訓示、警務課長の注意ありたり。

第一項 訓 示 事 項

- 一、言行ヲ慎ミ愛知縣警察官タルノ面目ヲ傷ケサルコト
- 二、三重縣制定大禮警衛規程ハ各自ニ交付シタルヲ以テ精讀シ置クコト

- 三、應援氣分ハ嚴ニ慎ムコト
- 四、自己ノ勤務ヲ記憶シ配置上支障ヲ來サ、ル様注意スルコト
- 五、任務終了後ハ即時歸縣スルコト

注意事項

- 一、應援期間ハ十五日ヨリ二十三日ニ至ル九日間トス
- 二、絶對ニ飲酒セサルコト
- 三、任意散宿ハ許サレサルヲ以テ指定宿舎ニ宿泊スルコト
- 四、應援氣分ヲ持タサルコト
- 五、指定宿舎ニ於ケル宿泊料ニ警部等以上ニ白手套一日二圓五十錢其他ハ二圓トス(各三食附)
- 六、宿泊中一食又ハ二食ヲ缺クモ宿泊ハ減額セラレズ三食全部ヲ欠キ且其旨前以テ申出ノ場合ニ限り宿泊料ヲ控除ハセラル、答ニ付注意ノコト
- 七、宿泊料ノ支拂ヒ方ニ關シテハ當局ト打合セ過誤ナカルヘシ
- 八、携帶品ニハ縣名及官氏名ヲ記シタル丈夫ナル名札ヲ附シ遺キ紛失等ナキ様注意ノコト
- 九、私事外出ノ場合ニ備フル爲メ私服ヲ用意スルヲ便トス
- 十、本日出發ハ午前十時三十六分發臨時列車トス
- 十一、汽車乗車方ハ龜山下車ハ山下警部植下車ハ村山警部補山田下車ハ末廣警部ニ於テ人員ニ相當スル乗車券ヲ代表購入スヘキニヨリ各乗車賃ヲ代表者ニ手渡スコト
- 十二、制服勤務ノ者ハ所定ノ服裝ノ外甲種外套正帽警部補以上及黒色巻グートルヲ携帶ノコト

- 十三、提灯長靴ハ携帶ニ及ハス
- 十四、勳章記章ヲ有スルモノハ之ヲ携帶佩用ノコト
- 十五、私服員ハ洋服タルヘキコト
- 十六、歸縣ノ際ニ於ケル乗車方ニ就テハ末廣警部ニ於テ三重當局ト打合セ可成臨時列車ヲ出サシムルコト

第二項 應援派遣人員表

支隊名	勤務署名	警部	警部補	巡查部長	巡查	計
龜山支隊	豐崎	一	一	三	二二	二六
同	岡崎			二	一七	二〇
同	半田			二	一一	一三
同	安城			一	〇〇	一一
同	西尾			一	〇〇	一一
同	御油			三	八	一一
同	新築			一	一	二
同	鍋屋			一	一	二
同	江川			一	一	二
同	笹島			一	一	二
						九
						三
						一

同	警	同	同	同	同	豫	同	同	同	同	第	同	同
	衛					備					十		
	係					隊					一		
											支		
											隊		
新	警	築	門	新	笹	門	警	半	築	豊	岡	熱	警
計	察	計				察	計					計	一
榮	部	地	前	榮	島	前	部	田	地	橋	崎	田	部
													宮
二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二	二	五	一	四	一	一	一	五	一	一	一	四	三
三	一	一	五	四	三	一	一	五	二	七	三	三	三
六	八	八	四	四	九	一	一	〇	二	七	三	三	五
四	一	二	六	四	一	一	一	五	二	八	四	四	四
〇	八	三	三	五	一	一	一	九	二	八	四	四	一

同	同	同	同	同	同	第	同	同	同	同	同	同	同	同
						九					柘			
						支					植			
						隊					支			
											隊			
築	熱	門	鍋	笹	新	江	布	勝	警	津	瀨	一	學	橫
														熱
														門
														須
地	田	前	屋	島	榮	川	袋	川	部	島	戶	宮	母	賀
														田
														前
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二	五	六	一	三	九	一	三	三	二	九	四	五	一	六
二	五	六	一	三	九	一	三	三	二	九	四	五	一	六
二	五	六	一	三	九	一	三	三	二	九	四	五	一	六
二	五	六	一	三	九	一	三	三	二	九	四	五	一	六
二	五	六	一	三	九	一	三	三	二	九	四	五	一	六
二	五	六	一	三	九	一	三	三	二	九	四	五	一	六
二	五	六	一	三	九	一	三	三	二	九	四	五	一	六
二	五	六	一	三	九	一	三	三	二	九	四	五	一	六

### 第九節 係員

本係員人名は本章最初に掲ぐ可きも、記事配列の都合上左に記す事とせり。

警衛本部	係長	警務課	警部	上田 乙磨
	企劃係	同	同	伊藤 五一
	同	同	同	中村 治永
	同	同	同	加藤 成次郎
	同	同	同	木部 松次
	先乗	同	同	伊井 外内衛
	庶務係	警務課	同	兼松 茂一
	同	同	同	清水 藤作
	同	同	同	關 戸久治
	同	同	同	神田 濱次郎
	同	同	同	伊 貝 重作
皇族大臣係(前顯ニツキ省署)	同	同	同	同
離宮寮内配置	警務課	警部補	同	平野 伊作

同 山口高之 取  
 離宮寮外配置  
 外三名

隊長 布袋署 警部 加藤 俊  
 新榮署 警部補 齋藤 忠男  
 外二十一名

御荷物通路取締配置  
 隊長 田口署 警部 中村 城之助  
 同 警部補 山口 不二夫  
 外四十名

通信寫眞班係、刑事係、高等警察係、精神病視察係、車輛係、衛生係員は夫々當該係の項に於て記述せるを以て茲に録せず。

### 第十節 感謝狀

#### 第一款 内務大臣

御大禮諸議滞りなく終らせ給ひ、本縣御警衛亦幸ひに大過なく其の任務を果すを得たるが内務大臣に於ては其の勞を多とし左の如き感謝狀を本縣知事宛寄せられたるを以て夫々部下一同に傳達する處ありたり

内務省發警第五六號

御大禮諸警衛警備並衛生等ニ關シテハ長期ニ互リテ終始一貫周匝綿密ナル注意ヲ以テ之カ遂行ニ努メ殊ニ行幸啓當時ニ於テハ直接關係地方ト然ラサルトテ間ハス警衛警備ヲ始メ一般靜謐ノ保持並衛生保健上ノ施設ニ付協心戮力能ク其ノ職責ヲ完ウセラル御大禮諸議並關係諸式ノ滞リナク御終了在ラセラレタルハ固ヨリ 陛下ノ御稜威ニ由ル所ナリト雖モ貴官始メ諸僚各位ノ精勵恪勤相率キテ奉公ノ至誠ヲ致サレタルハ本官ノ深ク感謝ニ堪ヘサル所ナリ

昭和三三年十二月二十四日

内務大臣 望 月 圭 介

愛知縣知事 小 幡 豊 治 宛

第二款 長官感謝狀

長官は今御警衛に對し間接直接援助を寄せられたる(一)警察官宿舍主(二)在郷軍人分會長(三)警察官持葉寄贈者(四)湯屋組合長(五)警友會長に對し左の如き感謝狀を呈せり。

拜啓益々御清穆之段奉賀候陳者今回御大禮行幸ニ際シテハ種々御盡力ニ預リ候段拜謝ノ至リニ不堪候茲ニ感謝之意ヲ表シ度右御挨拶マデ如此御座候 敬具

昭和三三年十一月二十七日

愛知縣知事 小 幡 豊 治 殿

第三款 警察部長感謝狀

警察部長は御大禮に付警衛の補助其他に關し盡力したる消防組八十九組に對し左の如き禮狀を發して感謝の意を表せり

拜啓益々御清穆之段奉賀候陳者這般御大禮京都行幸並ニ御還幸御警衛ニ就テハ格別ノ御盡瘁相煩シ幸ニ無事大任ヲ果ス事ヲ得タルハ貴組員各位ノ御配慮ニ依ル事尠カラス感銘ノ至ニ不堪候茲ニ芽出度御還幸御警衛ノ任務ヲ終了スルニ方リ貴組員ニ對シ深甚ノ敬意ヲ拂ヒ併テ感謝ノ意ヲ表シ候旨各位ニ右御鶴聲之程願上候 敬具

昭和三三年十一月二十七日

愛知縣警察部長 木 下 義 介 殿

第五章 高等警察係

第一節 事務分掌

係 長	警 視	吉 垣 壽 一 郎	係 員	警 部 補	久 野 茂 正
庶務係主任	警 部	小 森 金 重	同	巡査部長	龜 谷 桐 男
係 員	巡査部長	梶 田 利 一	移動班主任	警 部	小 森 金 重
檢閲班主任	警 部	小 森 金 重	係 員	警 部 補	樋 口 定 一
第三篇 警務部	第五章 高等警察係				七五九

尾行視察班主任	警部	波邊重郎	同	同	同	杉浦榮作
係員	警部	竹之内金次郎	同	同	同	山内健一
係員	同	酒井式三郎	同	同	巡査部長	細山幸一
同	警部補	佐藤太十郎	同	同	同	村山幸一
同	同	寺本小右衛門	同	同	同	紅谷隆之助
同	同	山本茂	同	同	同	鈴木全松
同	同		同	同	同	梶田利一

### 第二節 施設事項概説

高等警察係は主として本縣在住各種要警戒者及容疑者の視察警戒縣外要警戒者の潛入防止其他刊行物の取締等不穩不逞行動の未然防止を目的として昭和三年六月十日より同年九月末日迄を準備調査期間とし縣下各警察署をして統一的に實施せしめ同年十月一日より十一月二十七日迄を特別警戒期間とし特別高等課員並縣下各警察署より選抜したる警察官合計警視以下三二六名を以て高等警察係を編成し視察警戒の任に當り警衛上些の遺漏なきを期したり

### 第三節 準備調査

特別警戒實施の基礎的調査として期間を二期に分ち  
第一期を自六月十日至七月二十五日とし人頭的戸口調査の方法により各種要警戒人物の調査及視線

外要警戒者の新規發見に努め  
第二期を自八月十六日至九月三十日と定め前期と同一の方法並旅舎割烹店其他必要場所の一齊檢索を數回實施し各種要警戒者容疑人物の發見不穩文書等の取締をなしたり

### 第四節 特別警戒

(イ)特別警戒期間は十月一日より十一月廿七日迄とし係長特別高等課長統轄の下に左の如く編成せり

種類別	視察班	二	八	九	一七四	一九二
	移動班	二	二	六	一〇三	一一三
警部	兼	兼	兼	兼	兼	兼
	二	四	五	一〇	一四二	一五九
警部補	兼	兼	兼	兼	兼	兼
	二	一〇	二〇	一五	二九七	三三六
巡査部長	兼	兼	兼	兼	兼	兼
	一	一	一	一	二〇	二二
巡査	兼	兼	兼	兼	兼	兼
	一	一	一	一	二〇	二二
計	兼	兼	兼	兼	兼	兼
	二	四	五	一〇	一四二	一五九

(ロ)各班の分掌

- (1)視察班は、各種要警戒者及要注意團體に對し各擔當者を定め視察警戒に任ず。
  - (2)移動班は列車内の檢索、停車場の警戒により各種要警戒者並容疑人物の發見及潛入防止等を目的
- 第三篇 警務部 第五章 高等警察係 七六一



として左の如く實施す。

列車檢索は東海道線岐阜濱松間中央線名古屋多治見間關西線名古屋龜山間武豊線名古屋武豊間を警察官五一名を以て擔當し停車場警戒は鐵道驛名古屋熱田岡崎豊橋其他五驛軌道驛柳橋神宮前其他主要驛八合計十九驛を警察官六〇名を以て警戒に當りたり。

(3) 船舶班は各種要警戒者容疑人物不穩印刷物危險物件等發見のため名古屋港武豊港蒲郡港の出入船舶を臨檢し並に各港埠頭の警戒に任す

(4) 檢閱班は本縣内に於て發行する新聞紙(日刊六四週刊二七月刊三二四計四一五其他の刊行物に對し不敬不遜に互り或は公安風俗を害する等の記事掲載取締のため警部一警部補一巡查部長一を他の事務と兼務し檢閱を實施せり。

(5) 特別班は名古屋離宮御駐蹕に際し御道筋名古屋驛より離宮に至る間警衛のため各班より事務の性質及勤務の狀況を考慮し警部二警部補五巡查部長一〇巡查一四二名を選抜し二ヶ中隊に編成し第一中隊は三小隊第二中隊は二小隊三ヶ小隊は二ヶ分隊とす。

刑事係私服隊と協力し高等係は道路の南東側刑事係は道路の西北側正服隊の後方に於て一般奉拜者並に沿道建物内の警戒取締をなしたり。

### 第五節 警戒の結果

高等警察係は各員互に連絡協調し銳意視察取締の結果御大禮期間中何等の事故發生を見ざりしも各

班に於て各種要警戒者の發見其他の成績左の如し

種別	準備調査ニ依リ發見シタルモノ	列車檢索ニ依リ發見シタルモノ	停車場警戒ニ依リ發見シタルモノ	船舶檢索ニ依リ發見シタルモノ	特別班ニヨリ發見シタルモノ	檢閱班ノ發見シタルモノ	計
要警戒人物	八七	七四	六八	三	七		二三六
刑事上被疑者		二二	六一		一		八七
精神病者		三一	九〇				一二二
泥酔者		三四	一六				五〇
浮浪者		七	六				一三
家出人		八〇	一四九				二二九
鐵道營業法違反		五四	二				五六
拳銃		二	三				五
裝填銃		二	一				三
仕込刀		六	一				七
短刀		四	五				九
風俗壞亂			八				八
暴行			二	一四			二
日本刀			五				五
七日首			三				三

不穩文書									
密航者									
彈丸銃									
杖銃									
火藥									
尊嚴冒瀆ノ威ア ル記事ノ戒飾									
計	八七	三一六	四一九	六三五	二〇	一	一四七八		

### 第六章 保安係

#### 第一節 事務分掌

御大典に關する保安係の事務中主要なるものは、交通取締車輛の配給整理、消防精神病者の視察取締、電氣瓦斯事業取締、銃砲火藥類其他危險物品取締、御骨像御紋章類似品取締等に於ては、豫め計畫を樹て取締を實施したる所幸に事故なく任を果すことを得たり。以下概要を記すに先ち事務分掌を示せば左の如し。

- 一、係長 地方警視(保安課長) 織田 智
- 一、電氣事業取締ニ關スル事項 警察技師(保安課) 新野 一頁
- 技手(同) 岡村 孫一郎

屬 (同) 生木 治一

一、瓦斯事業及危險物品取締ニ關スル事項

地方技師(同) 自井 壽一

一、銃砲火藥類及危險物品取締ニ關スル事項

技手(同) 後藤 敏道

警察技手(保安課) 濱野 保次

一、車輛配給整理精神病者取締其他保安ニ關スル事項

警部(同) 永山 宗五郎

一、車輛配給整理交通取締ニ關スル事項

警部(保安課) 安中 忠雄

警部補(同) 倉知 桂太郎

同(同) 松本 淺重

一、消防ニ關スル事項

消防兼警部(同) 坂口 太郎衛門

消防士(同) 小南 庄吉

一、精神病者取締其他保安ニ關スル事項

警部補(保安課) 蝶澤 利三郎

一、藥劑取締取締、精神病者取締其他保安ニ關スル事項

警部補(同) 徳間 靜眞

一、臨時機關検査ニ關スル事項

地方技師(工場課) 竹村 誠也

警察技師(同) 山口 金治

警察技手(同) 峠 三郎

地方技師(同) 後藤 萬次郎

### 第二節 交通取締

#### 第一款 取締準備事項

##### 第一項 一般交通取締協議會

縣令自動車取締令施行規則は大正八年の制定に係り交通機關の發達に伴ひ取締上不備の點尠ながら

ざるに依り昭和三年七月三日の縣令第七十號を以て自動車取締令施行細則を制定し、發達せる自動車事業の現實に適合するものたらしめ、八月一日より實施したり。而して其の實施に當りては規則の取扱並一般交通取締方に關し、七月末縣下各警察署交通係警察官を召集して打合せを爲し、更に御大典に際しては名古屋市内の交通は一層輻輳すべきに付き其の取締に關し十月以降數回市内各警察署の交通主任召集の上打合せを爲し遺憾なきを期したり。

### 第二項 交通專務員講習會

近時交通機關の發達に伴ひ都市の交通は益々頻繁となりたる結果交通事故亦増加の傾向あり其防止は直接街頭に立ちて指導の任に當る、交通專務員の敏活なる舉動と果斷なる判斷に待つところ大なり、御大禮時に當りては名古屋市には奉拜者其他多數來集し雜沓を極むべきを以て交通取締の完全を期せむか先づ交通專務員の智識の向上と熟練を圖るの要あるを以て左記計畫により交通專務員其の他の講習會を開催すべく、九月七日名古屋市及豊橋岡崎一宮各警察署長宛保護第一九九號により通達を爲したり。

- 一 講師 警視廳より招聘したる交通課長交通係長外交通巡查二名並愛知縣保安課長永山安中各警部
- 二 講習生

第一日 名古屋市内の各署長及交通主任主任なき署は監督者並交通專務巡查全部、

内譯 警察署長 七名、主任 七名、交通專務巡查 五八名、計 七二名、

第二日 以後警察署長を除く右全部

### 豊橋一宮岡崎各署交通係二名宛計六名を甲乙兩班に分ち二日間宛講習

#### 講習時間割

九月九日  
自午前九時 交通警察論(交通課長)

甲 班 第一日 九月十日	自午前八時 至同九時 規 (安 中)	自午前九時 至正午 論 (交通係長)	自午後一時 至同二時 論 (保安課長)	自午後二時 至同四時 導
甲 班 第二日 九月十一日	自午前八時 至同九時 規 (安 中)	自午前九時 至正午 論 (交通係長)	自午後一時 至同二時 論 (水 山)	自午後二時 至同四時 導
乙 班 第一日 九月十二日	自午前八時 至同九時 規 (安 中)	自午前九時 至正午 論 (交通係長)	自午後一時 至同二時 論 (保安課長)	自午後二時 至同四時 導
乙 班 第二日 九月十三日	自午前八時 至同九時 規 (安 中)	自午前九時 至正午 論 (交通係長)	自午後一時 至同二時 論 (水 山)	自午後二時 至同四時 導

九月十四日 甲班(午前) 乙班(午後) 實地指導

講習に當り實地指導は榮町柳橋公園前交叉點等最も交通頻繁なる地點に於て講習生を數組に分ち之を行ひたり。而して講習の途次其効果著しきを知り、特に講習を二日間延長し、甲乙兩班を午前午後に於て夫々實地につき指導を爲したり、其結果交通事務員を始めとして從來の交通取締とは全然面目を一新し成績頗る上りたるを見たり。

### 第三項 交通指導週間の開催

直接交通取締の任に當るべき警察官吏は前述の特別講習により熟練の度を加へたるも、一般民衆にして交通道徳に無理解無關心ならんか其の効果少なきを感じ、十月一日より二週間を交通指導週間として名古屋市内樞要箇所を受講警察官吏を派し習得せる事項を實地に應用せしむると同時に、一般民衆の交通道徳につきラヂオを以て訴ふる處ありたり。

### 第四項 自動車臨時検査

縣下に於ける自動車三、〇〇〇臺に對しては、五月定期検査を執行したるも、御大典時に當りては名古屋市内の自動車は其の利用激増するものと認めらるゝを以て十月一日より八日まで、に涉り東別院境内に於て名古屋市内の自動車につき左記に依り臨時検査を行ひ不完全なる車體を使用する者なからしめたり。

- 一、自動車検査は市内乗用自動車全部に對して施行す
- 二、検査の方法は車名別型別、年式別に區分し機關、車體の良否を甲甲を高級車、甲乙を普通高級車、乙乙を普通車、乙丙及丙丙を下級車として検査す

## 第二款 交通整理實施事項

### 第一項 行幸當日の警察官配置

行幸啓當日は名古屋市内樞要箇所交通係巡查五十名を配置し之れを取締に當らしめたる外名古屋中央放送局を利用し、民衆に對し交通上の注意に就て放送する等遺憾なきを期したる結果名古屋市行幸啓時は勿論大典期間十日間に亘り、奉祝催物或は大禮奉祝紀念博覽會の爲め夥しき旅客の移動ありしにも拘らず前年十一月中交通事故は五三件中負傷者四三名死者五名の多きに比し本年は事故件數は前年より一一件を増し六四件ありしも、負傷者四名にして死者は一名も生ぜざるの好結果を以て終了したり。因に行幸啓當日の配置箇所及車輛配給並交通整理事務分擔左の如し。

#### 車輛配給並交通整理事務分掌

車輛配給主任兼交通整理主任	警部 永山宗五郎	交通整理主任	警部 安中忠雄
車輛配給係	警部補 倉知桂太郎	交通整理係	(兼) 警部補 倉知桂太郎
	同 松本淺重		(兼) 同 松本淺重
	外 巡查 四名	一、停車場交通整理係	係長 警部補 山田真一

副係長(兼)	同	村瀬金三郎	警部補(門前署)	伊藤俊一
外 巡查	五名		外 巡查	八名
御荷物運搬車輛警備係	係長	警部補 村瀬金三郎	巡查	二名
	外 巡查	一名	巡查	二名
聯隊附近交通整理係	係長	警部補 徳間 靜 眞	水主町停留所配置(休憩所、東洋紡績請願派出所)	巡查 四名
	外 巡查	二名	大須門前町停留所配置(休憩所、門前警察署)	巡查 二名
菊井町停留所配置(休憩所、菊井町派出所)	巡查	四名	上前津停留所配置(休憩所、門前警察署)	巡查 四名
明道橋停留所配置(休憩所、藪下町派出所)	巡查	四名	公園前停留所配置(休憩所、越舞町派出所)	巡查 八名
大津町停留所配置(休憩所、吳服町派出所)	巡查	四名	洲崎橋停留所配置(休憩所、東洋紡績請願派出所)	巡查 二名
	警部補(笹島署)	稻垣八十市	洲崎橋通配置(休憩所、東洋紡績請願派出所)	巡查 二名
	外 巡查	六名	大池町派出所配置	巡查 二名

榮町停留所配置(休憩所、新榮町派出所)

「備考」

- 一、停留所配置員ハ交通遮断前ニ在リテハ半数勤務ニシテ交互ニ一時間勤務一時間休憩トス交通遮断後ニ在リテハ解散命令アルマテ全員勤務交通整理ニ當ルモノトス。
- 二、派出所配置員ハ豫備員トシテ臨時事務ニ服ス。

第二項 車輛及交通整理

行幸當日ニ於ケル車輛整理及交通取締ニ關シテハ左ノ如ク計畫實施セリ。

交通整理要綱

- 一、名古屋驛南入口明治橋以南交通整理
  - イ、名古屋驛ニ於テ奉迎送シ得ル有資格者ノ乗用車輛ニ限り、自動車ハ四側人力車ハ東側ニ到着順ニ、出來得ル丈兩側ニ付ケ整頓セシムルコト。
  - ロ、往路ノミニテ客待ヲ爲ササル自動車及人力車ハ、洲崎橋通下廣井町突當リニ於テ乗客ヲ下車セシメ車ヲ引返ヘセシメ、乗客ハ徒歩ニテ驛ニ入場セシムルコト。
  - ハ、兩側通御二時間前迄ハ洲崎橋通空地ニ列車降客ノ爲ニ客待車輛ヲ止メ置クコトヲ許スモ、該空地ヨリ直ニ洲崎橋通ヲ通行セシムルコト、但シ驛奉迎送者用車輛收容上支障ヲ生スルニ至リタルトキハ通御二時間前ト雖モ一般客待車輛ヲ該空地ヨリ立退カシムヘシ。
  - ニ、洲崎橋通ニ於テハ極力左側通行ヲ勵行セシメ、交通ノ混雜ヲ防止スルコト。
- 二、水主町立番
  - イ、市電公園線及江川線電車ヲ警衛線交通遮断ト同時ニ引返運轉ヲ爲サシメ、乗降客ノ混雜ヲ整理スルコト
  - ロ、名古屋驛ニ出入スル自動車運轉手又ハ人力車夫ニ對シ豫メ洲崎橋通ヨリ下廣井町通ニ於ケル車輛整理要領ヲ知ラシムルコト。
  - ハ、堀川筋東側道路ハ兩側通御一時間前迄ハ木挽町方面ニ行ク車輛ニ限り通行シ得ルモ、荷車ノ通行ヲ許サズ、絕對ニ引返スコトヲ許ササルニ付通行ノ自動車運轉手等ニ周知方法ヲ採ルコト。
- 三、榮町立番

イ、市電榮町線電車ヲ警衛線交通遮断ト同時ニ引返運轉ヲ爲サシメ乗降客ノ混雜ヲ整理スルコト  
 ロ、警衛線配置員ト連絡ヲ保チ一般奉拜者ヲ收容スルノ余地ナキニ至リタルトキハ其ノ旨周知方法ヲ採リ混雜ヲ整理スルコト。  
 ハ、皇族用自動車及大禮使用自動車通過ノ道筋ニ當ルヲ以テ其ノ時刻追而時刻ハ之ヲ指示スニハ特ニ注意シ自動車ノ進行ヲ妨グザル様整理スルコト。

四、大津町立番

イ、市電片端線電車ヲ警衛線交通遮断ト同時ニ引返運轉ヲ爲サシメ乗降客ノ混雜ヲ整理スルコト。  
 ロ、瀬戸電々車ヲ名古屋驛御着又ハ名古屋離宮御發二時間半前ニ停止シ引返運轉ヲ爲サシメ乗降客ノ混雜ヲ整理スルコト。  
 ハ、皇族用自動車及大禮使用自動車通過ノ道筋ニ當ルヲ以テ其ノ時刻追而時刻ハ之ヲ指示スニハ特ニ注意シ自動車ノ進行ヲ妨グザル様整理スルコト。

五、明治橋立番

イ、市電江川線電車ヲ警衛線交通遮断ト同時ニ引返運轉ヲ爲サシメ以テ乗降客ノ混雜ヲ整理スルコト  
 ロ、警衛線配置員ト連絡ヲ保チ一般奉拜者ヲ收容スルノ余地ナキニ至リタルトキハ其ノ旨周知方法ヲ採リ混雜ヲ整理スルコト。  
 ハ、御荷物通路ニ當ルヲ以テ御荷物自動車通過時ニ於テハ御荷物通路警備隊ト連絡ヲ保チ特ニ整理ニ注意スルコト。

六、菊井町立番

市電押切線電車ヲ警衛線交通遮断ト同時ニ引返シ運轉ヲナサシメ乗降客ノ混雜ヲ整理スルコト。  
 七、其ノ他一般交通整理上ノ注意

奉祝ノ提灯行列又ハ旗行列車馬歩行者ノ交通頻繁ニシテ雜沓ヲ極ムヘキヲ以テ極力整理ニ努メ殊ニ歩行者ハ絶對ニ車道ニ入ラシメ且左側通行ヲ勵行セシメ交通ノ混雜ヲ防止スルコト。

第三款 車輛配給

第一項 皇族竝に大禮使用自動車の借上

御大典時に於て皇族、大禮使を始め貴顯大官の使用せらるる車輛については、特に意を用ひざるへからざるところにして、些の不完全の箇所あるをも許さず嚴選するの必要あるを以て十月一日より八日に互り行ひたる臨時検査により選抜したる名古屋市内の高級車一五〇臺に對し、更に十月二十七日東別院境内に於て再検査を行ひ、周到なる注意の許に夫々必要なる車輛を準備したり、同時に推薦せられたる自動車運轉手に對しては健康診断を行ひ、合格車輛に附すべき運轉手については身元調査をなし、素行技術共に優良なる者のみを選抜したり、且皇族御使用の自動車に對しては衛生係に依頼して完全なる消毒を施したり。

其の經過を記述すれば左の如し。

大禮使  
車馬部發第三六號

第三篇 警務部 第六章 保安係

愛知縣知事宛

大禮ノ節名古屋市ニ於テ使用スヘキ大禮使用乗用自動車雇入度ニ付左記御含ミノ上供給方御配慮相煩度當業者ヨリ見積書徴收御送付相成候様及御依頼候  
追テ係官本月下旬頃貴地ニ出張致當業者ト交渉ヲ進度希望ニ付御含ノ上豫メ御手配願上候。

記

- 一 運轉手ノ付隨セル(助手ヲ附セス)五人乗車輛トシ日々ノ供給ニ際シ其半數ハ必ス箱型トス。
- 一 事務用ナルヲ以テ高級車タルコトヲ要セサルモ座席ハ主席ト豫備席トノ距離少クトモ八寸位アルモノトシ定員通り乗車シタル場合ニ於テモ餘リ窮屈ヲ感セサル程度ノ車輛タルコト。
- 一 運轉手トナルヘキ者ノ被服ハ常ニ清潔ニ可成紺又ハ黒色ノ洋服ヲ着用セシメ帽子ハ大禮使ニ於テ貸與シタルモノヲ着用セシムルコト。
- 一 運轉手ニナルヘキ者ハ身元確實ニシテ左ノ各項ニ該當セサル者タルコト。
- 一 本籍及住所ノ不明ナル者
- 二 身體不具者及惡疾者若クハ惡癖アル者
- 三 禁鋼以上ノ刑ニ處セラレタル者
- 一 料金ハ一日雇午前六時ヨリ午後六時迄半日雇午前六時ヨリ正午迄又ハ正午ヨリ午後六時迄時間雇一時間ヲ基本トスニ區分ス。
- 一 大略別紙内譯書ニ準シ雇入使用スルモノトス必ス一日雇又ハ半日雇ヲ雇入ノ基本トシ以上ニ互リタル時ハ時間雇料

金ヲ加算スルモノトス。  
尙大禮使總裁宮外皇族用トシテ高級車三輛雇入度ニ付併テ御配慮相煩度候。  
名古屋ニ於ケル大禮用自動車使用區分。

十一月三日	一日雇	半日雇	十一月廿四日	一日雇	半日雇
四日	二	一	廿五日	二	一
五日	二	一	廿六日	二	一
六日	二	一	廿七日	二	一
七日	二	一	廿八日	一	一

依テ本縣に於テは慎重審議の結果名古屋自動車業組合より左記の見積書を徴し送附セリ

時間雇	料 金	區 別
一時間雇	金四圓五十錢	一時間未満
半日雇	金二十五圓	三時間以上六時間以内
一日雇	金四十圓	六時間以上十二時間以内

尙八月三十日大禮使使用自動車借入につき宮内省伊東事務官來名、本縣當局者と種々打合せするにころありたり。更に十月五日宮内省土岐事務官來名、左記の諸點につき打合せを遂げらる。  
一 皇族用自動車は可及的高級車の事已むを得ざる場合はハドソソ級にて可  
一 總裁宮殿下御召自動車及他宮殿下御召自動車賃金支給區分

- 一、御荷物自動車は一日十五台見當
- 一、運轉手身元調査の事
- 一、皇族用大禮使用自動車ヘッドライト着色セルロイドカバーの事
- 一、自動車を驟に運行するには師團騎兵隊跡より御荷物道路に據る
- 一、借上自動車の乗込豫定は大體午前六時の豫定
- 一、運轉手には大禮使に於て定めたる帽子を人夫には腕章を貸與す
- 一、大禮使借上自動車置場は騎兵隊跡事務所南前面とす
- 一、歩兵聯隊内自動車通路は乗用車は營庭を貨物車は兵舎裏を通行のこと
- 自動車運轉手に對しては十月二十日付保發第二四五號通達を以て各署に命じて左の標準により身元調査を嚴重に行はしめ、更に十月二十七日自動車車體再検査及運轉手の身體検査を實行せり。然して之れに従事するものは巡查部長以上の者をして従事せしむる事とせり。

- 一、住所氏名年齢
- 一、免許證の種別及下付年 月 日
- 一、性質素行及下付後の經歷大要
- 一、前科の有無若しあらは其の詳細
- 一、下付後交通事故惹起の有無若しあらは其の大要
- 一、興奮感動性の有無及特に思想上に關する事項
- 一、健康狀態

(本人は勿論家族同居者等に傳染性疾患の有無)

一、忌服中の者に非ざるや否や

一、其他參考事項

禮警發第一三七號

昭和三年十月廿四日

警 察 部 長

市 内 各 署 長 宛

御大禮使用車輛再検査並ニ運轉手身體検査施行ニ關スル件

別記自動車ハ御大典ニ際シ皇族御召用並宮内省用トシテ借上使用ノ見込ニ有之就テハ自動車ノ再検査並運轉手身體検査左記ノ通施行可致ニ付其署管轄内ノ別紙番號自動車所有者ニ通知方至急取計ハルベシ

左 記

- 一、日時 昭和三年十月二十七日
- 二、場所 東別院境内
- 三、検査開始午前八時
- 四、運轉手ノ身體検査ハ車輛検査ト同時ニ行フ

皇族並に高貴乗用自動車の借上については兩度の自動車検査に基き豫め之を定め、其の自動車所有者には保安課長の名を以て左の如き依頼狀に注意書を添付し發送し、充分注意を喚起せしむると共に、微細の事故をも未發に防止するに努めたり。

聖代ノ盛事タル御大典ニ際シ長クモ 聖上陛下當市ニ御駐蹕被遊ル、ハ縣民ノ光榮ニ感激スル所ニシテ官民協力一

第三篇 警務部 第六章 保安係

七七七



致シ御奉公申上テ可ク就而各位所有ノ別記車輛番號自動車ヲ借上使用スルコトト相成ルヤモ不計過般運轉手ノ推薦方ヲ依頼シタル次第ニ有之候、各位モ亦意ヲ茲ニ致シ責務ノ重大ナルニ鑑ミ左記各項遵守相成誠意ヲ以テ最善ヲ盡シ萬全ヲ期スヘク御配慮相煩度此段及御依頼候也。

昭和三年十月廿九日

保安課長

宛

記

- 一、車輛ノ指示アリタル場合ハ必ス指定日時場所ニ參集スルハ勿論進テ之ニ應シ決シテ間違ナキ様注意スルコト。
- 二、運轉手ノ被服ハ常ニ清潔ニシナルヘク紺又ハ黒色ノ洋服又ハ黒帽着用セシムルコト但シ宮内省用自動車ノ運轉手ニ限り全省指定ノ帽子ヲ貸與ス。
- 三、運轉手ニハ飲酒其ノ他不行跡ナカラシムル様充分注意監督シ當日ニ至リ支障ヲ來スカ如キコト決シテナカラシムルコト。
- 四、運轉手ハ過般推薦ノ者ヲ以テシ万已ムテ得サル場合ノ外變更セザルコト若シ已ムテ得ザル事由ニヨリ變更ノ必要アル場合ハ即時後任者ヲ推薦相成度キコト。
- 五、忌服中ノ運轉手ハ此際變更セテラレタキコト。
- 六、自動車ハ修理其ノ他命セラレタル事項ニツキ充分注意シ當日ハ何時ニテモ應シ得ヘキ様完備シ置クコト。

### 第二項 應用自動車借上契約

大體に際し自動車ノ需要激増し、本縣備付ノ自動車を以てしては到底要求を満たす事不可能なるを以て、名古屋自動車業組合ニ次の如く契約し、自動車ノ配給を円滑にし事務ノ能率増進を圖れり。

#### 乗用自動車供給請負契約

- 別表貸金承諾ノ上契約擔當官保安課長織田智ヲ甲トシ請負人名古屋自動車業組合長岩田角治ヲ乙トシ御大典ニ際シ愛知縣ノ使用スル乗用自動車ニ就キ左ノ條項ヲ契約ス
- 一、自動車ハ運轉手附トシ食費ガソリン、モビール等諸費ハ一切乙ノ負擔トス
- 二、乙ハ甲カ指定シタル日時場所ニ指定シタル車輛ヲ相違ナク供給ス
- 三、甲ハ使用車輛數ヲ使用ノ前日午後九時迄ニ乙ニ通告ス但シ臨時緊急ヲ要スル場合ニ於ケル註文ハ此ノ限ニアラス
- 四、乙ノ供給シタル自動車ニシテ使用ノ途中車輛ノ事故其ノ他ノ故障ニ依リ引續キ使用ニ堪ヘザルトキハ乙ハ即時代車ヲ供給スルモノトス
- 五、前項ノ場合ニ於ケル料金ノ支拂ニ關シテハ前車カ引續キ就業シタルモノトシ計算ス
- 六、甲ノ指定シタル日時場所ニ指定シタル車輛ヲ供給セザルトキハ乙ハ甲ニ對シ一輛ニ付違約金壹百圓ヲ甲ノ指定シタル期間内ニ納付スルモノトス
- 七、乙ハ期間終了後速ニ貸金ヲ精算シ甲ニ支拂ノ請求ヲ爲スモノトス
- 八、車輛貸金ノ計算ハ使用當日甲ノ交付スル使用傳票ニ依リ計算スルモノトス

九其ノ他ノ事項ニ就テハ乙ハ誠意ヲ以テ事ニ當ルモノトス

昭和三年十一月一日

註文者

愛知縣警察部 保安課 長

名古屋市中區新榮町四丁目十五番地

名古屋自動車業組合 組 合 長 岩 田 角 治

別表

乗用自動車備貸表

一金參圓五拾錢也

但シ一臺一時間ノ料金

一金拾六圓也

但シ一臺半日(六時間)ノ料金

一金參拾圓也

但シ一臺一日(十二時間)ノ料金

備考 時間借ノ場合又ハ半日借ニシテ半日借又ハ一日借料金ヲ超ユルトキハ半日借又ハ一日借料金ニ依ル

### 第三項 應用自動車使用規程

大禮に際しては事務幅狭し従つて自動車の使用も平常に幾十倍するやも計り難き有様なるを以て之

れか圓滑なる配給を期せむか爲め十一月一日特に左の如き車輛使用規程を設けたり。

#### 車輛使用規程

- 第一條 本規程ハ御大典ニ際シ名古屋市御駐紮時ニ於ケル車輛ノ使用ニ關シ之ヲ適用ス
- 第二條 各係長ハ所要車輛ノ種別輛數使用時間並引渡希望時間ヲ前日午後八時迄ニ保安係車輛配給事務所(警察部保安課)ニ第一號様式ヲ以テ要求スヘシ
- 第三條 前條使用時間ノ計算ハ車輛引渡時三十分前ヨリ返還時後三十分間ニ至ル迄ノ所要時間トス
- 第四條 申込ノ使用時間外ニ互リテ車輛ノ延長使用ヲ爲サムトスルトキハ豫メ保安課ノ承認ヲ受クヘシ
- 第五條 各係ハ配車ニ關スル配當豫算ヲ超過シテ車輛ノ申込ヲ爲スコトヲ得ス但シ庶務係又ハ警務係ノ承認書ヲ添付スルモノハ此ノ限りニ在ラス
- 第六條 車輛ノ引渡及返還ハ保安係車輛配給事務所(警察部保安課)ニ於テ之ヲ行フ
- 第七條 各係ニ於テ車輛配給申込ノ際ハ第一號様式ニヨリ控ヘテ作製整理スヘシ
- 第八條 保安係ハ營業者ヨリ車輛備入ノ都度第二號様式ノ傳票ヲ發行シ之ヲ整理スヘシ

第一號様式

昭和三年十一月	日	係名	係長印
車輛配給申込書			

種別	使用區分		時間	日	引渡希望
	時間	日			
乗用自動車	以上	一時間	一日	一日	時
	以上	二時間			
	以上	三時間			
	以上	四時間			
貨物自動車	以上	四時以上六時	一日	一日	時
	以上	六時以上七時			
	以上	七時以上八時			
	以上	八時以上九時			
サイドカー付オートバイ		以上	一日	一日	時

第二號様式

一、運轉手ハ出發前本票ニ係員ノ認印ヲ受クヘシ  
 二、出先ニ於テ就業時間ヲ記入係員ノ認印ヲ受クルニ非サレハ歸途ニツクコトヲ得ス  
 三、歸任後速ニ本票ヲ提出シ指示ヲ受クヘシ  
 四、本票ハ日付當日午後十二時ヲ以テ限リ翌日ニ效力ヲ及ボサス  
 五、右手續ヲ得サル係票ハ無効トス

發行番號第 日 第 號

自動車使用係票		保印	備考
自動車番號	第 號		
運轉手氏名			
使用係別			
召集日時	午前 時 分		
解雇日時	午後 時 分		
就業時間	午前 時 分 午後 時 分		

第四項 車輛標識

奉迎送時に當りては車輛幅轆し使用主の識別困難をるため左の如き標識を附し取締員に指示し、交通遮斷區域内に於ける取締の便宜となしたり。(一)二は大禮使に於て定めたるもの)

- 一、皇族用自動車ノ標識
  - イ、ヘットライトニ紫色ノセルロイド製覆ヲ附ス
  - ロ、番號標板上ニ裏菊模様ヲ附スル板ヲ附ス
- 二、大禮使用自動車ノ標識
  - イ、ヘットライトニ紅色セルロイド製覆ヲ附ス
  - ロ、ウインド硝子ニ大禮使ト標記シ其下ニ番號數字ヲ記セル箱型標示器ヲ附ス
- 三、縣應用自動車標識
  - イ、ウインド硝子ニ左ノ標識ヲ附ス



### 第五項 車輛配給實施

上述の周密なる計畫に基き車輛を準備し置きたる結果、大禮使其の他より車輛配給方申込ありたりと  
きは豫て検査済なる車輛を配給し一の進算等なかりき、又之に附する運轉手に對しては、交通遮断線及遮  
断時の通行路を指示し、尙遮断線に關係なく市内驛又は官衙等重要箇所は勿論、皇族・大臣の宿舎に往復す  
る通行路等に就て容易に通行し得べき通路を各自に教示し置きたるを以て何等の齟齬をも生ぜざりき

### 第六項 車輛使用細別

大禮時に當り使用せられたる車輛數を各係別に示せば次の如し。

宮内省	使用者別			使用区分
	時間	半日	一日	
				十月廿一日
				同 二日
				同 三日
				同 四日
				同 五日
				同 六日
				同 七日
				同 八日
				同 十日
				同 十一日
				同 十二日
				同 十三日
				同 十四日
				同 十五日
				同 十六日
				同 十七日
				同 十八日
				同 十九日
				同 廿一日
				同 廿二日
				同 廿三日
				同 廿四日
				同 廿五日
				同 廿六日
				同 廿七日
				同 廿八日
				同 廿九日
				同 三十日

工營係	接待係			奉迎送係			庶務係			宮廷係			其他		
	時間	半日	一日	時間	半日	一日	時間	半日	一日	時間	半日	一日	時間	半日	一日

經理係		警衛警務係		高等警察係		保安係		刑事係		衛生係	
時	日	時	日	時	日	時	日	時	日	時	日
間	履	間	履	間	履	間	履	間	履	間	履

第四款 交通遮斷

第一項 師團廓内交通遮斷

名古屋離宮御駐泊につき師團廓内交通遮斷及步哨配置に關し留守第三師團司令部より左の通り通牒し來れるを以て本縣に於ては之れに關聯し夫々適當の處置を講ぜり。  
來ル十一月御大禮諸儀ノ爲名古屋離宮ニ行幸被爲在ニ付一般民ノ入廓禁止ノ爲左記ノ通步哨ヲ配置スヘシ

步哨ノ服裝ハ軍裝(儀式ノ場合)トス

左記

一歩哨配置場所並ニ服務部隊

附圖ノ如シ

二歩哨配置期間

十一月六日	自午前九時三十分
同 七日	至午後 一時
十一月二十六日	自午前 八時
同 二十七日	至午前 十時

三歩哨人員  
同 二十七日 至午前 十時

第三篇 警務部 第六章 保安係

廓内通行禁止歩哨ニ關スル細部ノ指示

一、廓内通御豫定時刻

十一月六日	自午後四時	至午後四時三十分
同日	自午前九時五十分	至午前十時二十分
同日	自午後二時三十分	至午後三時
同日	自午前六時五十分	至午前七時三十分

二、廓内通御路

- 本町御門ヨリ師團司令部前ヲ經テ衛戍病院ト師團司令部間ノ道路ヲ通御セラレ  
三、廓内通行ヲ許シ得ル者此ノ歩哨線ニ對シテハ廓内通行旗ハ通用セサルモノトス
1. 將校、准士官、下士並ニ指揮官ノ引率スル兵卒
  2. 公用證ヲ所持スル軍人
  3. 歩哨線通行證ヲ有スル者

- 但シ本町歩哨ニ限リ鹵簿通御ノ二時間前ヨリ通行ヲ許サス他ノ門ニ至ラシム
4. 名古屋離宮ニ用向アル者ニテ徽章又ハ證明證ヲ所持スル者
  5. 名古屋放送局ニ用向アル者ニテ徽章又ハ證明書ヲ所持スル者
  6. 憲兵警察官、縣市吏員ニテ徽章又ハ證明證ヲ所持スル者並ニ郵便電信集配人
  7. 所屬隊ヨリ傳令使ヲ以テ證明書在廓時間記入ヲ差出シタル急用ノ面會人又ハ商人等(故ニ急用ノ面會人等アラハ電話ヲ以テ聯隊ニ依頼スル如ク教示スルコト)
  8. 徽章又ハ證明書ヲ有スル行幸路掃除夫及撤水夫
  9. 廓内ニ於テ鹵簿拜觀ヲ許サレタル左記ノ者
  - イ、指揮者ノ引率スル在郷軍人會員及殊勳會員並ニ地方官公吏消防手
  - ロ、先生ノ引率スル學校生徒
  - ハ、公傷病者ニテ徽章又ハ證明書ヲ有スル者
  - ニ、陸海軍將校婦人會員徽章又ハ將校家族ノ證明書ヲ所持スル者
  - ホ、特ニ廓内ニ於テ寫眞撮影ヲ許サレタル徽章又ハ證明書ヲ有スル者
  - ヘ、拜觀證ヲ有スル地方官公吏
  - ト、本町歩哨ニ限リ鹵簿拜觀ヲ許サレタル者ト雖モ通御二時間前ヨリ通行ヲ許サス他ノ門ニ至ラシム
- 四、各日共歩哨ノ服務時間長キヲ以テ各隊毎ニ適宜交代者ヲ設ルノ要アリ  
但シ通御時間ノ三十分以内ニ於ケル交代ハ爲サ、ルヲ要ス

五通御二時間前ヨリ通御時間ニ至ル時ノ外雨天ノ際歩哨ノ位置ニ天幕二枚ヲ使用シ哨舎ノ代用屋根トナスコトヲ得

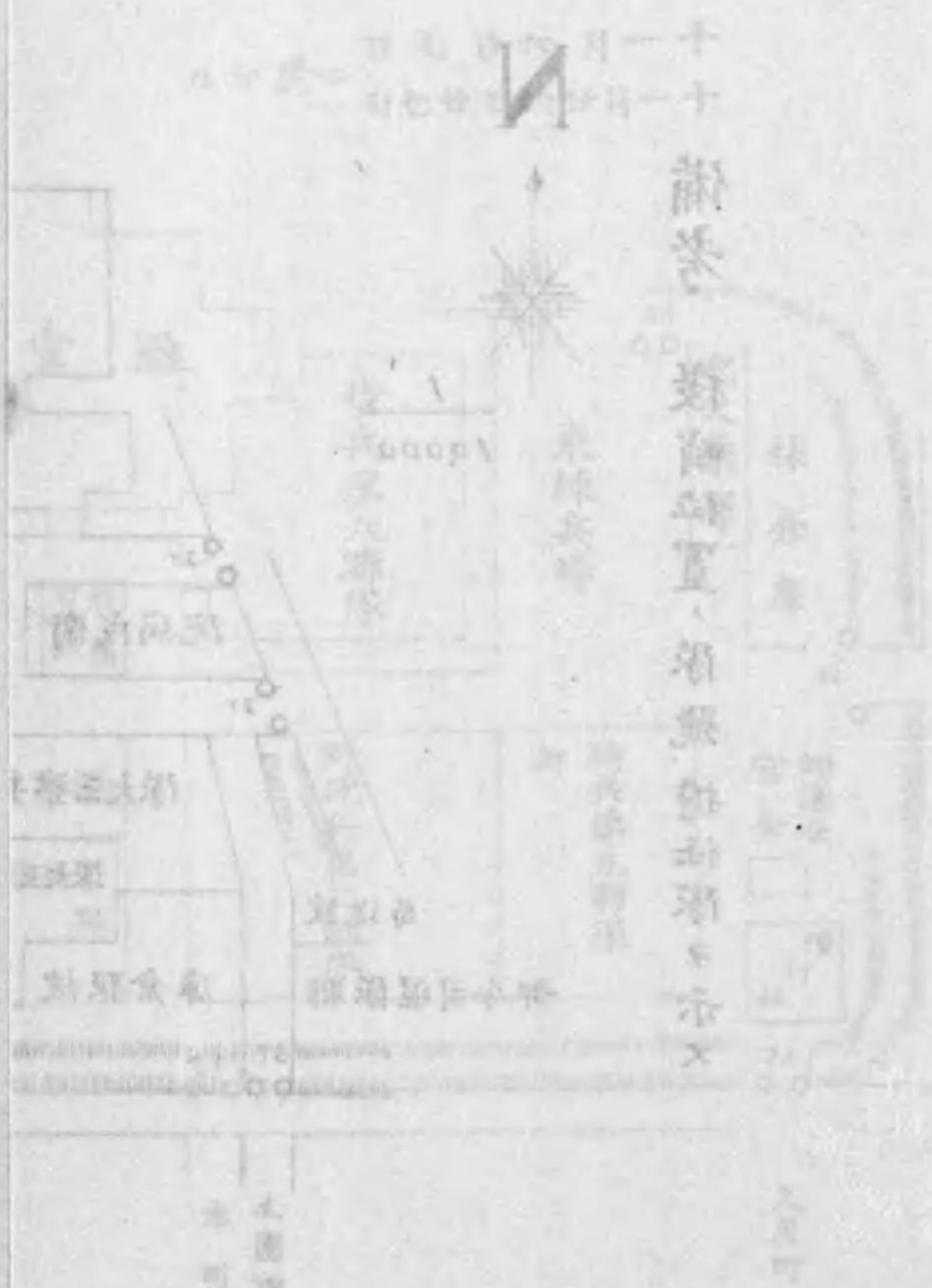
### 第二項 豫行演習當日交通遮断

十一月四日五日兩日大禮演習警衛豫行演習を實行せるにより、市内御通路に對し一時一般の交通遮断を爲せるが、之れに伴ひ電車運轉も停止せしむるの必要ありたるを以て、左表の通り電車運轉休止を名古屋市電氣局宛に依頼せり。

月日	線名	停止時間	解除時間
四日	押切線(名驛前廣場ニ關係ナキ點ニテ遮断ス)	午後三時十五分	午後三時四十分
	榮町線(榮町停留所以西遮断)	三時五分	三時四十五分
四日	江川線(柳橋交叉點榮町通ニ關係ナキ點ニテ遮断)	三時二十分	三時三十分
	片端線(本町通交叉點ニ關係ナキ點ニ於テ遮断)	三時五十分	四時
五日	押切線(名驛前廣場ニ關係ナキ點ニテ遮断)	午後一時 五分	午後三時三十五分
	榮町線(榮町停留場以四遮断)	一時十五分	三時四十分
五日	江川線(柳橋交叉點榮町通リニ關係ナキ點ニ於テ遮断)	一時三十五分	一時四十五分
	片端線(本町御門前本町通リニ關係ナキ點ニ於テ遮断)	一時〇分	一時十分

備考 五日自午後二時至午後三時三十分ノ間ニ於テ片端線及江川線ヲ十分間停止スルコトアリ

各隊配置圖



附圖

各隊複哨配置要圖

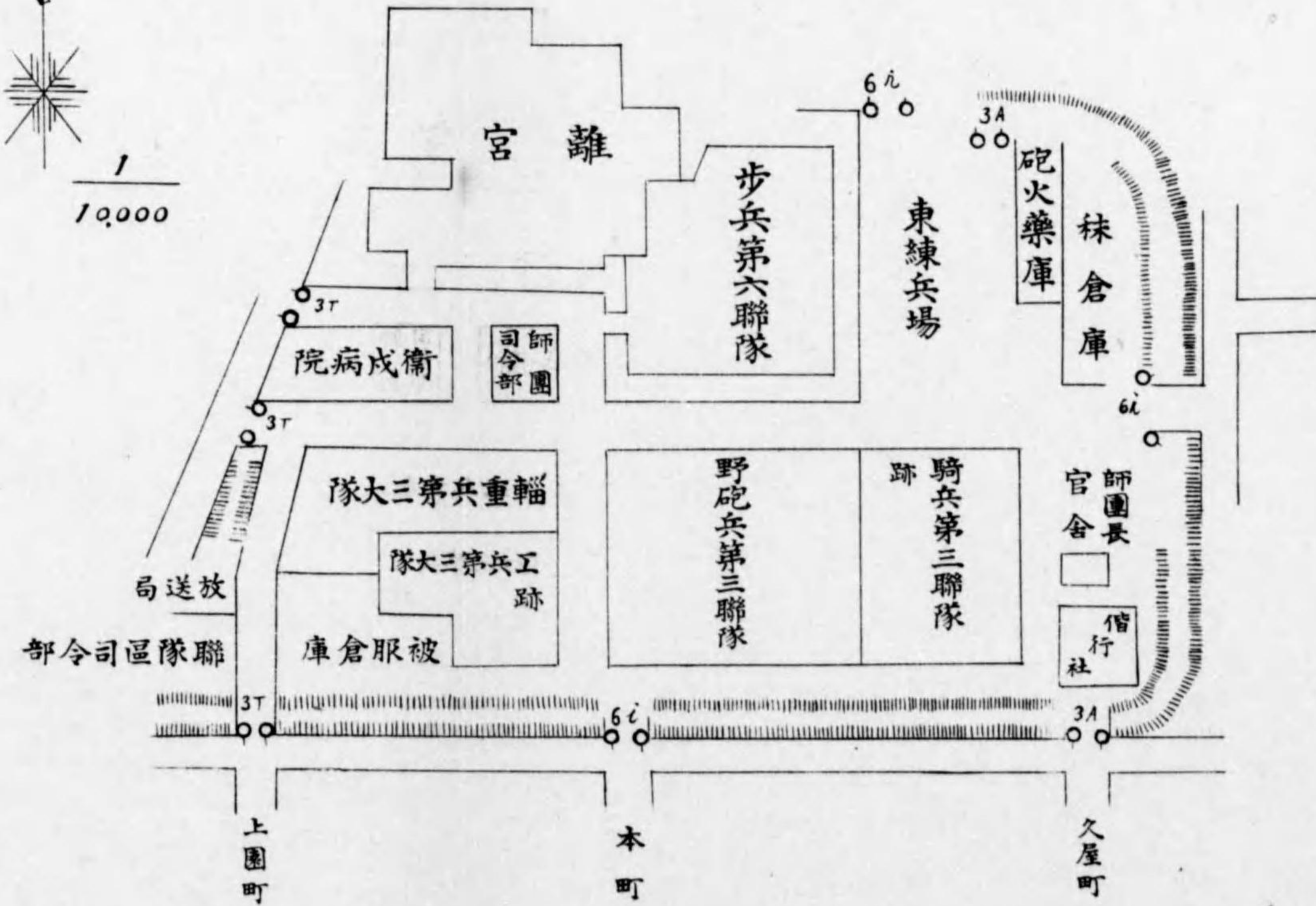
十一月六日 十七日  
十一月廿六日 廿七日

N



1/10,000

備考 複哨位置、隊號、擔任隊ヲ示ス

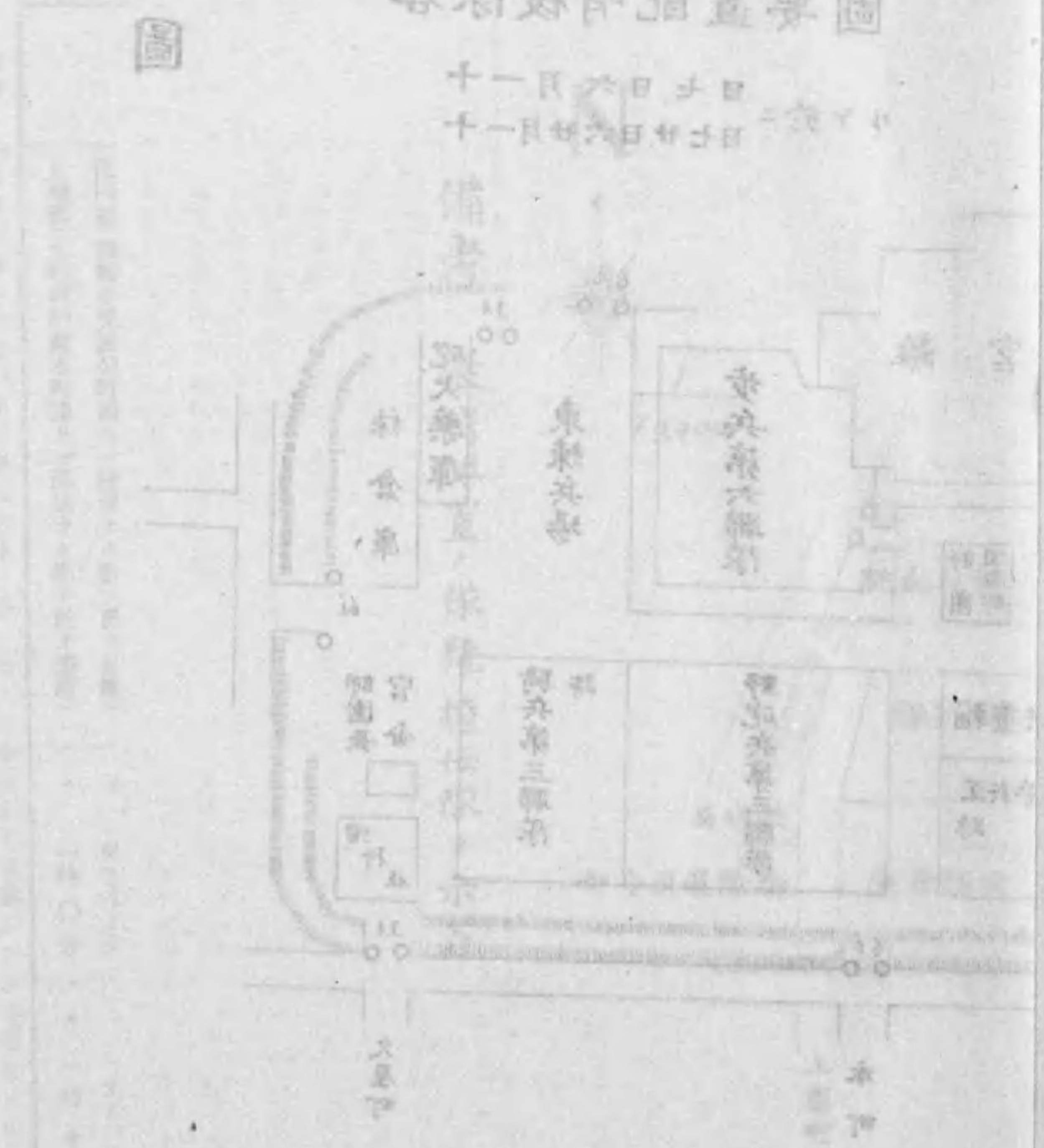




附圖

各領母節置要圖

十一月六日 十一月廿六日



追て行幸當日の交通遮断は警衛警務の條に於て記述するを以て茲に録せず

第五款 航空取締

大禮期間中に於ける交通に關する各種取締施設につきては上掲の如くなるが航空取締につきては  
信省航空局長よりの通牒に基き左の如く縣下各警察署長宛通達を發せり。

保收第二二九二號

昭和三年十月十九日

警察部長

縣下各警察署長宛

大禮期間中に於ける航空取締ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ逓信省航空局長ヨリ左記事項通牒有之候條嚴密ニ取締ラルヘク尙萬一航空ニ關スル  
事故ヲ生シタルトキハ直チニ報告セラレタク爲念及通達候也。

追而民間飛行機操縦士其他航空關係者ニ對シテハ航空局長ヨリ大禮期間中に於ける航空實施ニ關  
シ當該地方長官ノ指示ヲ受クヘク通牒濟ノ趣ナルヲ以テ注意セラルヘシ。

記

一 航空法施行細則第百三條離宮鹵簿等ノ上空飛行禁止第百四條第一項離宮等ヲ上空ヨリ撮影禁止第  
百五條市街地ノ上空飛行ニ付キ保ツヘキ高度ノ規定第百七條火藥類ヲ搭載シテ飛行禁止第百八條  
〔危險物投下禁止〕ノ規定ニ抵觸スルカ如キ行爲ナカラシムル様此際特ニ嚴重ニ取締ルコト。

第三篇 警務部 第六章 保安係

二、大禮期間中ハ航空法施行規則第四百條第二項行在所、函簿ノ空中撮影禁止ノ規定ニ依ル寫眞撮影ハ之ヲ許可セサルコト。

三、航空法第廿九條但書ノ規定飛行場外ノ離着陸ニ依リ飛行場以外ノ場所ニ於ケル離着陸ノ許可申請アリタルトキハ其航空ノ日時區域及目的並土地ノ面積及周圍ノ狀況其他諸般ノ事項ヲ十分調査シタル上之カ許否ノ意見ヲ進達スルコト。

四、航空法施行規則第九條競技興行及觀覽航空ノ許可規定ニ依ル許可ノ申請アリタルトキハ其ノ航空ノ日時、區域其他諸般ノ事項ヲ十分調査シタル上之カ許否ノ意見ヲ進達スルコト。

五、其他必要アル場合ニハ航空法施行規則第十二條保安上必要ナル地方長官ノ航空制限禁止ニ依リ航空ノ制限又ハ禁止ヲ實施スルヲ得ルニ付キ右ニ該當ノ場合ニハ直ニ報告ノ上取縮上萬遺漏無カラシムルコト。

而して名古屋御駐紮當日は、御發着前後に互リ名古屋市上空及市外小幡ヶ原飛行場の離着陸を禁止したるを以て、取縮上各警察署長に通告し、特に警察官を全飛行場に派遣して嚴重取締る處ありたるが幸ひに何等の事故を生ぜざりき、因に名古屋市上空に於ける航空及市外小幡原飛行場の離着陸を禁止せる時間左の如し。

十一月六日	自午後二時至同四時三十分
十一月七日	自午前九時至同十一時
十一月廿六日	自午後一時至同四時
十一月廿七日	自午前六時至同九時

### 第三節 消防

#### 第一款 準備事項

##### 第一項 火災報知機設置勸誘

曠古の御大典に際し名古屋市内の火防設備の充實を期し併せて既に市の一部に開通を見たる火災報知機の建設普及を圖る爲め、九月二十日附名古屋市長及消防義會長名を以て市内町總代全部に依頼狀を發送せり。然して市内各警察署長消防署長には寄附に關する注意事項を左の如く内示せり。

##### 一、寄附に關する一般條件

- (一)寄附に依る報知機の設置位置に關しては可及的寄附者の希望に副ふ様努むるも悉く希望に添ひ難き場合あり此旨寄附者に了解せしむる事。
- (二)寄附に依る報知機は道路上に建設するを原則とするも特に多數人の出入するデパートメントストア又は工場其他にありては一構内若くは一建造物内に設置を許可することあるへし。
- (三)報知機には廣告に類する文字又は商標は一切之を表示せしめず。

##### 二、費用に關する事項

(一)道路上に建設する報知機を寄附せむとする者は建設費機械器具及線路費の實費を負擔するものと

す。

- 一 基の建設費 約六百圓(一時拂又は年賦拂とす)
- 二 構内若くは一建造物内に設置するものにおいて建設費及維持費の全部を寄附者に於て負擔するものとす維持費は一基に付年額約四拾圓

三、勸誘方法に關する事項

- (一) 報知機は可成一區域に集中せしめず散在的に建設せしむるを以て其効用大なるにつき此方針に基き廣く寄附者を勸誘すること。
- (二) 當部に於て消防署長の意見を徴し必要個所を豫め選定したるに付ては之を參考として同方面に對し精々勸誘すること。
- (三) 建設申込は各署に於てこれを受くること以上

第二項 火災豫防警告及宣傳

十月四日及十一月八日の二回に互り各三十分間消防主任をして名古屋放送局に於て大禮中は特に無火災を期する様市民一般に警告放送を爲さしめたり。

十月二十六日には縣下各警察署長消防署長に對し、大禮中及其前後は特に火災豫防上遺憾無きを期する様左の如く通達せり。

昭警發第一五二號

昭和三年十月二十六日

縣下警察消防署長宛

警察部長

火災豫防警戒方ニ關スル件

消防ノ使命ハ消火ヨリモ寧ロ火災ノ豫防ニアリ從ツテ各位ハ夫々適策ヲ樹立シ防火思想ノ普及兼自警心ノ喚起ニ努ムル一面防火設備ノ完成等ニ配意中ノ事トハ信スルモ御大典ノ期日モ迫リタル際火災ノ發生ヲ見ルカ如キハ洵ニ遺憾ニ堪ヘサル次第ニテ殊ニ火災期節ニ入りタル折柄ナレハ消防組頭市町村長在郷軍人青年團學校長等ト連絡協調シ火災豫防上萬遺漏無キヲ期セラルヘシ。

十一月四日には火災盜難豫防の「ピラ」一萬枚及火防ポスター五千枚を印刷し、名古屋市内及鐵道沿線の各警察署に配送し、宿屋料理屋飲食店理髮店湯屋在郷軍人團の集合所停車場等に掲出又は配布し、大いに火防思想の普及に努めたり。因にピラ配分は消防組頭小頭五〇〇、各種營業者五〇〇〇、在郷軍人分會二〇〇、青年團二〇〇、町總代二五〇〇、其他一、六〇〇計一〇、〇〇〇、右宣傳文左の如し。

記

京都市に於て御大禮の御盛儀が行はせられるに當り畏くも 兩陛下が御途次名古屋市に御駐蹕被遊ますことは縣民の光榮とする處であります。

此際に於て若し火災や盜難其他の災害事故が発生するやうな事がありましてはまことに相すまぬ次第ですからお互に相警しめ相謀り縣民學つて間違ひのないやうに致したいを希望して已まない次第であります。

それが爲左の事項をお守り下さい。

火 災 豫 防

- 一、油断大敵火事は其身の油断から
- 一、ポンプ百より火の用心一つ
- 一、親孝行と火の用心は灰にならぬ前
- 一、電近くに燃え易きものを置かぬこと。
- 二、煙突掃除を怠らず過熱から火事にならないやう設備して下さい。
- 三、取灰火は消してから一定の場所に捨てること。
- 四、火弄り子供火弄りは火事の元
- 五、マッチの擦片、煙草の吹殻無暗に捨てないやう、捨てた時は必ず消しておくこと。
- 六、提灯使用したのちは火をよく消して置くこと。
- 七、火鉢炬燵を入れた儘外出せないこと。
- 八、電気笠に布を覆せたり「コード」を金物類へかけないこと。
- 九、出火の時消防署警察署や隣家へ直ぐ知らせること。
- 一〇、出火と火災報知機。

最初の一分間を逃がさぬやう報知機を建てることこれが利用を忘れぬこと。

犯 罪 豫 防

- 一、泥棒 寝るときは必ず嚴重に戸締をする事。

- 一、晝寤 外出するときは留守番を置くか戸締を嚴重にした上隣家の人に頼んで置くこと。
  - 一、枕探 宿屋に泊る時は金や貴重品は必ず宿主に預けること。
  - 一、拘摸 汽車電車雑沓の場所活動寫真其他の興行物等では錢入時計携帯品に氣を付けること。
  - 一、板の間稼 湯屋に行くときは錢入や貴重品を持参せぬこと。
  - 止むを得ぬときは番人に預けること。
  - 一、浮浪者の發見 空家神社お寺には浮浪者が潜伏して居ることがあるから管理者は時々見巡つて發見したら警察官に届出ること。
  - 一、現行犯人 各種の現行犯人を發見したら速に警察官に通知して逃さぬやうにすること。
  - 一、犯罪の急報 皆様の御宅か近所に犯罪が發生したときは速に警察官に申告すること。
  - 一、精神病者 監護義務者は氣をつけて他人に迷惑かけぬこと。
- 尙十一月二十四日には市内縣立各學校及官公衛に對し、京都に於ける同志社大學の火災に鑑み左の如き警告を發したり。

禮警發第二四〇號

警 察 部 長

昭和三年十一月二十四日

應 中 各 課 長

縣 立 各 學 校 長 宛

各 官 公 衛 長

火 災 豫 防 警 戒 方 二 關 ス ル 件

首題ノ件ニ關シテハ夫々御配意中ノ事ト信スルモ 兩陛下還幸啓ノ日モ切迫シタルヲ以テ此際特ニ  
左記ノ點ニ御留意ノ上火災警防上萬遺憾無キヲ期セラレ度此段依命及通牒候也

記

一、火氣ノ取扱ニ注意シ殊ニ夜間ニ於テハ一層勵行ノ事  
一、殘火ニ注意シコレガ不始末ニ陥ラサル様殊ニ火鉢炬燵ニ留意スルコト  
一、夜間ハ必ス宿直人ヲ配置シ火災豫防警戒ニ當ラシムルコト  
十一月二十五日 陛下御還幸の前日には火の用心火事は油断から「書した」ビラ二十萬枚を作製し名  
古屋市内及鐵道沿線各戸に配付し特に警火思想の喚起に努めたり、各署に配付したる宣傳ビラ數左の如  
し。

新	榮	一	宮	三、〇〇〇
錦	屋	稻	澤	一、三〇〇
江	川	西	枇	二、〇〇〇
江	島	牛	杷	二、〇〇〇
門	前	横	須	一、〇〇〇
熱	田	安	賀	二、五〇〇
築	地	御	城	三、五〇〇
岡	崎	豐	油	三、五〇〇
栗	栗	橋	橋	五、〇〇〇

因に御駐營當夜は兩回とも火災更になく、名古屋市内に於ては至極好成績の結果を得たり。

十一月十五日中消防署に組頭會議を開き、火防宣傳の援助をなす可く豫備消防組全員を以て左記の次  
第により奉祝を兼ね提灯行列を實行する事となり、中消防署は五時迄に中署操練場に、南署は東別院南廣  
見に集合し、午後六時縣廳前に左の順序により整列し、豫定の時刻より行進を起し、盛況裡に奉祝の誠意を  
致せり。

中署―千種・東山六郷・清水・杉・枇杷島・中村・愛知  
南署―兩御器所・常盤・八幡・呼続・笠寺

記

一日 時 十一月二十日午後六時より

一、参加人員 市内豫備消防組全員

二、順序 午後六時縣廳前に集合―警察部―名古屋毎日新聞―市役所―名古屋新聞―新愛知新聞  
―の順序により離宮正門に至り萬歳を三唱して解散

一、方法(1)消防組各部は其表識として立行燈を携帯する事

(2)消防組は火の用心の丸提灯を持つこと

(3)各消防組は防火宣傳ビラの配付をなす事

(4)行列進行に際しては一定の消防歌を合唱しつゝ、秩序よく目的地に至ること

(5)其他消防組各部に於て夫々適當なる方法を以て奉祝する一面防火宣傳を行ふ事

第二款 名古屋市火災警備

十一月六日及同二十六日 兩陛下名古屋離宮に御駐蹕の當日は左記の方法により警備に當れり。  
 市内を特別警戒區域及一般警戒區域の二に分ち前者は離宮を中心として周圍約十二町方位内と名古屋驛構内御召車保管位置附近後者は特別警戒區域を除く市内全部但し新市部を除くと定め各々其の區域を内左の方法により警戒せり。

### 第一項 特別警戒區域

特別警戒區域を圖表を以て示せば次の如し。

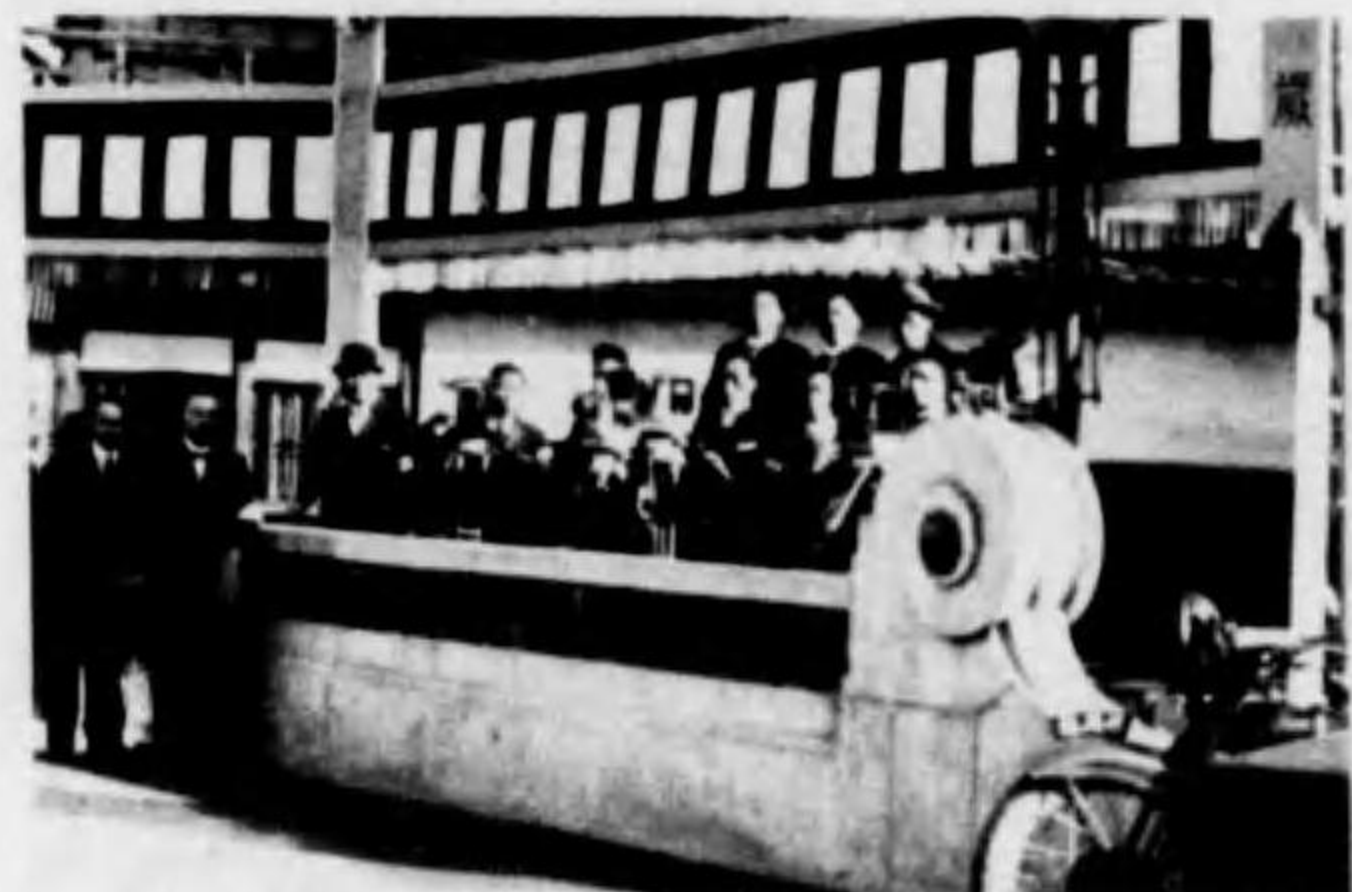
區劃別	分遣所名	配置機	曹長	消防手	所 在
離宮周圍	第一消防分遣所	ハドソン・レーザン機	三	一八	騎兵第三聯隊跡
同	第二消防分遣所	同	三	一八	大幸橋東詰
同	第三消防分遣所	同	二	一八	名古屋驛構内
御召車警戒	第三消防分遣所	同	一	一八	名古屋驛構内

勤務方法は電話見張警邏各所とも警邏路線を指定し消防手二名の共同警邏とすとし、毎時交代して服務し、消防曹長三名の内一名は所内の監督に、他の二名は毎時交代して警邏路線の監督に當りたるものなり。更に左の如く十個所の消防員警戒區各詰所を設けたり。

詰所別	所 在 地	十一月六日、七日	十一月二十六日、二十七日	所 有 者 氏 名	電
第一警戒區	東區櫻町三ノ四 安清院	呼聲消防組各組混成	呼聲消防組二、三、四、五、六部混成	櫻ノ町三ノ三 大島 清七方	
第二同	同 高岳町電停東助正院	笠寺消防組各組混成	常盤消防組混成	杉ノ町四ノ三 森川 義一方	



明治橋下車輛整理



大禮謹寫團(於柳橋)



消防署分遣所

第三同	同	長埴町二ノ八陸涼院	東山消防組各部混成	東山消防組混成	長埴町二ノ七 伊藤健次郎方	鍋屋署 清水口派出所
第四同	同	北清水町五開闢寺	千種消防組各部混成	千種消防組混成	清水町四ノ二八 米重典服店	同 北清水派出所
第五同	西區田幡町林泉寺	六郷消防組一、二、三部混成	六郷消防組四、五、六部混成	田幡町 金城學校内	同 田幡駐在所	
第六同	同	前之川町二眞言説教所	枇杷島消防組	清水、杉	前ノ川町二ノ二 高橋鐵治郎	
第七同	同	江川町江川警察署	中村消防組四、五、六部混成	中村消防組一、二、三部混成	署 内	署 内
第八同	同	裏驩町一下水道課詰所	愛知消防組第二部	愛知消防組第一部	裏驩町一ノ一 佐藤商會方	
第九同	同	西島町三ノ一一金剛寺	御器所消防組三、四部混成	御器所町消防組一部混成	西島町三ノ一 鈴木玉次郎	
第一〇同	中區横三藏町五、白川學校	八幡消防組各部混成	八幡消防組混成	校	内	

各詰所には水管車一臺水管十本巻きに各小頭一名消防員十二名を配し、其の勤務は見張電話各詰所とも最寄の公衆電話により連絡をとる警邏各區とも警邏路線を定め、毎時三名づゝ單獨警邏に當るとし、一時間交代にて左記服務心得に準據して警戒せしむ。

消防員服務心得

- 第一條 消防員ハ消防ニ關スル規則ニ據ルノ外尙本心得ヲ遵守スヘシ
- 第二條 消防員ハ紀律ヲ嚴守シ誠實ヲ旨トシテ凡テ令下ニ活動シ、警防ノ任ニ當ルヘシ
- 第三條 消防員ハ指定ノ詰所ニ集合シ指示セラレタル區域内ヲ警戒スルモノトス

第四條 小頭ハ消防員ヲ指揮監督ス

第五條 消防員ハ別紙勤務表ニヨリ見張巡邏勤務ニ服スヘシ

第六條 巡邏及見張勤務中ハ左記事項ニ注意スヘシ

一、見張巡邏勤務中異狀アリタルトキハ直ニ警察消防官吏及消防員ニ通知スルコト

二、巡邏中ハ火災防止、盜難警防ニ注意スルハ勿論受持區域内ニ皇族貴顯ノ御宿泊所アル場合ハ特ニ異狀ノ有無ニ付留意スルコト

三、勤務中ハ喧噪又ハ不體裁ノ行爲ハ勿論飲酒若ハ濫リニ人家ニ立寄り雜談等ノ行爲ヲ爲サザルコト

ト、尙民衆ニ接スル場合ハ丁寧親切ヲ旨トスルコト

四、勤務中ニ於ケル事項ハ日誌ニ記載スルコト

第七條 火災其他事故ニ際シテハ特ニ左記事項ニ注意スヘシ

一、火災其他事故發見ノ場合ハ電話傳令其他便宜ノ方法ニヨリ直ニ警察消防官吏、消防員詰所ニ急報シ鎮壓ノ方法ヲ講スルコト

二、火災ニシテ受持區域外ノ場合ハ隣接區域ニ限り應援シ、以外ハ出場セザルコト

三、出火出場ノ際ハ警報器ハ使用セザルコト

如上分遣所は兩回とも名古屋驛御着第一時間前より、翌日御發聲二時間但し京都行幸に際し騎兵三聯隊跡は御召車警戒の爲め、四日午前十時より七日午後二時までとし、還幸の際は他の分遣所と同じ後まで消防員警戒區は午後六時より翌午前六時まで勤務したり、出火の際は各受持區域内に限り出場し、他は特別の命令あらざれば出場せざることとせり。

### 第二項 一般警戒區域

消防署に於ては兩日とも非番員全部を召集し、一般警戒區域を七區に分ち、各區にも非番消防手一名づつ、自轉車地域廣汎なる爲めに、毎時交代して巡邏警戒に従事し、更に新市部方面は豫備消防組員主となり、各自己受持區域内に各詰所を設け、御駐紮當夜は徹宵夜警に従事せり。因に中並に南消防署に於ける大典時配備を平時配備と比較すれば左の如し。

中消防署大典及平時人員配置比較表

署所別	摘要		消防手		合計	
	大典時	平時	大典時	平時	大典時	平時
臨時出張所	一	一	一	一	一	一
本署	三	二	一五	一二	一八	一四
筒井町出張所	一	一	一〇	七	一一	八
那古野町出張所	一	一	一〇	七	一一	八
中村出張所	一	一	八	八	九	九
合計	七	五	五一	三四	五八	三九

南消防署大典時及平時人員配置比較表



署所別	摘要		曹長		消防手		合計	
	大典時	平時	大典時	平時	大典時	平時	大典時	平時
本署	三		二		一八	二二	二一	一四
白鳥出張所	一		一		九	六	〇	七
御器所出張所内	一		一		七	七	八	八
名博出張所	一		一		六	七	七	八
瑞穂出張所	一		一		六	六	七	七
臨時出張所	七		五		四八	三一	五五	三六
合計								

### 第三款 消防手の警察官援助

十一月六日・七日・二十六日・二十七日の 陸下行運行啓の際には、名古屋市内豫備消防組員一、五三五名、郡部鐵道沿線所轄警察署管内の消防組員八三二名合計二、三六七名は、警察官の補助として御警衛の大任に當り無事任務を全うしたり。十一月十五日より同二十日までは、縣下の警察官多数三重縣に應授の爲め出張したるを以て、名古屋市内は殊に警察力稀薄となり、此の際に乗じて各種不良者の跋扈する虞ありたるを以て、中、南兩消防署の非番員全部は毎夜市内警察署に配置せられ、午後十二時より翌午前六時まで警察官と共に張込勤務を爲し、盜難警戒上及保安維持上に盡したる効果大なるものあり、其の人員表次の如し。

署別	勤務四日	同三日	同二日	同一日	合計
中消防署	二七	二七	一一	三三	〇八
南消防署	二六	一一	一一	二二	七八
合計	五三	三八	二二	五五	一六八

### 第四款 消防組員の光榮

#### 第一項 鹵簿奉拜

消防組頭及小頭並に御警衛補助員として活動せるものは、今回特に師團廓内適當の個所に於て鹵簿の奉拜を差許されたるを以て、十月九日禮警發第八一號を以て各關係方面に通知し、希望者を募れるが、更に同月二十九日禮警發一六二號を以て奉拜心得を定め奉拜希望者に通達し、併せて御道筋は六時間前に交通遮断せらるゝに付迂迴道路其他をも指示し、集合時間に遅延せざる様注意せり。斯くて離宮幅下御門前の最も好き位置に於て一同靜肅に鹵簿を奉拜することを得たり。

一、服装ハ消防組員制服タル事、但シ、舊又ハ指揮刀等ハ佩用セザルコト、他ノ服装ヲ用フル時ハ入場拒絶セラルベシ

一、集會場所並日時ハ別表ノ通り  
 一、奉拜所入場ニ際シテハ便宜上別記引率者ヲ定メタルニツキ可然組頭又小頭引率ノ上集會場所ニ到着シ前記引率者ニ報告シ引率者ハ係員(保安課員)ノ指示ヲ受クルコト  
 一、各引率者ニハ拜觀證ヲ交付スルニ付師團廓内入口ニ於テ哨兵ニ之ヲ示シ各擔任ノ人員ヲ引率シテ廓内ニ入り定メラレタル位置ニツクコト  
 尙集會時刻及場所並參加人員及引率者左表の如し

集會日時及集會場所別表

縣立第一中學校(市内東區西二葉町)		幅下尋常小學校(市内西區幅下停留場)	
署名	引率者氏名	人員	人員
中	東山 水野 鐘三	三〇四	二二二
南	呼 續 近藤 新助	一七〇	六三
錫 屋 猪 高 加藤 久太郎	一七	一四	九四
熱 田 日 進 村 磯 村 重春	一七	一四	六
牛 田 成 岩 北 村 衛平	五二	六	二二四
横 須 賀 旭 村 宮 本 一三	九一	一八四	二二〇
安 城 岡 田 菊 治 郎	一八四	五二〇	
計		三〇四	二二〇

十一月二十六日 午前十一時迄		十一月二十七日 午前四時迄	
署名	引率者氏名	人員	人員
中	岡崎 岩津町 加藤 格四郎	三六五	二八〇
御 油 小坂井町 小林 武一	二二	二八〇	八九
豊 橋 天野 利作	五五	三五	四〇
計		四七三	二八〇
中	千種 鬼頭 儀右衛門	一一八	八九
勝 川 篠 岡 入 谷 鋼	七四	三五	四〇
瀬 戸 志 段 味 加 藤 隆二	三三	四〇	五八
舉 母 寺 津 村 倉 内 眞一 郎	三三	四一	
西 尾 東 大 沼 清 水 利三 郎	三一	四一	
足 助 東 大 沼 清 水 利三 郎	四		
大 濱 明 治 村 深 津 長 藏	二〇		
田 口 豊 明 治 村 夏 目 壽 男	七		
新 城 千 郷 櫻 井 作 造	二八		
田 城 千 郷 櫻 井 作 造	二〇		
新 原 神 戶 村 松 井 傳	五		
富 田 細 川 波 邊 眞 吉	三六三		
計		三六三	二六三

第二項 消防組頭賜饌

地方特別の消防功勞組頭に對し賜饌の光榮に浴せしむる旨當局より通報あり本縣に於ては嚴選の結果左の通り名古屋市内一名尾張部三名三河部三名を推薦したり。

(所得税調査委員方面委員)

東山消防組頭

水

野

鐘

三

知多郡横須賀町高橋須賀字南屋敷二〇番地ノ一

明治一八年三月生

(町助役勤八等)

横須賀消防組頭

衣

川

源

藏

岡崎市大平町岡田二八番地

明治一六年一月生

(勤八等功五級)

男川消防組頭

酒

井

庄

平

東春日井郡志段味村志段味二五番戸

明治一五年六月生

(村會議員勤八等)

志段味消防組頭

加

藤

隆

二

海美郡田原町田原字西大濱二一番地ノ一

明治一六年四月生

(勤七等)

田原消防組頭

森

下

隆

隆

知多郡半田町北條七三番地

明治一〇年七月生

(町會議員)

半田消防組頭

部

築

富

二

西加茂郡藤岡村中山字藏屋敷四五番地

明治一八年八月生

(勤八等)

藤岡消防組頭

中

村

萬

吉

明治一五年一月生

### 第三項 京都鹵簿奉拜

消防組は名古屋に於て鹵簿奉拜の光榮に浴せるのみならず、十一月七日の京都行幸當日及同二十六日の還幸當日には、大日本消防協會の幹旋により京都御所御苑内に於て、各府縣消防組頭中より十名宛を限り鹵簿を奉拜するの光榮を得たり、本縣より上洛せる消防組頭氏名左の如し。

十一月七日

十一月二十六日

千種消防組頭	鬼頭儀右衛門	東山消防組頭	水野鐘三
南	竹内竹次郎	八幡	同 鈴村金一
下ノ一色	同 森 敦 作	一宮市	同 淺井藤三郎
瀬戸	同 高木銀之助	佐織	同 安達 臣 一
扶桑	同 江口宗 策	半田	同 都 築 富 二
新川	同 奥谷多 作	八幡村	同 石川代 二
西尾	同 千葉 蝶 二	盛岡	同 加藤庄三郎
岡崎村	同 奥田典三郎	新城	同 渡邊新次
西枇杷島	同 兒島豐三郎	田原	同 森 下 隆
藤岡	同 中村萬吉	八名	同 近藤憲一

第三篇 警務部 第六章 保安係

入〇九

第四項 御親閲本縣消防組代表參列

大禮の御儀滞りなく終らせ給へる 陛下には昭和四年一月六日東京宮城前廣場に於て、全國消防組代表者を御親閲あらせられたり、本縣よりは一七二名の代表者参加し一代の光榮を擔ひたり、之に關する注意並に人數等は保發第二八五號通達により明瞭なるを以て參考の爲め茲に轉載す。

保發第二八五號

昭和三年十二月二十四日

愛知縣警察部長

縣下警察消防署長宛

消防組代表者御親閲ニ關スル件

首題ノ件ニ關シテハ謹ニ通達シタル所ナルカ左記ノ點ニ關シ其署管内ヨリ派遣スヘキモノニ通知シ萬遺憾無キナ期セラルヘシ

記

- 一、參列者ハ本縣ニ於テ定ムル制規ノ服裝ヲ用ヒ指揮刀及意ノ偏用並鞭旗等ハ携行セサルコト
- 二、御親閲ノ際參列者ハ分列式ハ行ハレサル趣ニ付爲念
- 三、參列者ハ當日午前正七時迄ニ大手門堀端ニ集合ノコト  
但便宜上各署一名ノ引率者ヲ別ニ定メ置キタルニ付同引率者ハ參列者ヲ引率ノ上前記時刻ニ集合ノコト
- 四、當日ハ携帶便ナル晝食ヲ携行ノコト  
(各署ニ於テハ署毎ニ參列者名簿ヲ作製シ豫メ引率者ニ交附シ置キ其際携行セシムル様取計相成度)
- 五、宿屋ニ泊ル必要アルモノハ之ヲ取纏即報ノコト

六、携帶品ハ現場(御親閲場)ニ携行セサルコト

七、汽車割引證ハ追而送付ノ著

八、旅費宿泊料ハ自辨タルコト

引率者及參列者數ハ別表ノ通りトス

署名	引率者氏名	人員	署名	引率者氏名	人員
中 南	呼 南	六	半 須	同 上	一
熱 錦	八 ナ	五	大 安	同 上	一
勝 川	勝 川	四	岡 崎	高 濱	一
瀨 戸	志 段	四	足 助	藤 男	一
西 批	同 上	九	足 助	藤 男	一
布 袋	岩 倉	四	新 田	旭 岡	一
犬 山	犬 山	四	新 田	旭 岡	一
葉 栗	淺 井	二	御 油	豐 根	一
一 宮	今 伊	七	豐 油	同 上	一
稻 澤	同 上	一	同 上	同 上	一
津 島	飛 江	一	同 上	同 上	一
彌 富	飛 島	四	同 上	同 上	一
			合 計		一七二
			外三名宛		四四
					七二